

令和4年度

地域と共にある学校づくり

実践事例集

— 北信地区 —




長野県教育委員会事務局
文化財・生涯学習課
北信教育事務所

目 次

小 学 校




○ 長野市立城山小	1	○ 須坂市立日滝小	59	○ 長野市立裾花中	111
○ 長野市立鍋屋田小	2	○ 須坂市立豊洲小	60	○ 長野市立犀陵中	112
○ 長野市立加茂小	3	○ 須坂市立日野小	61	○ 長野市立篠ノ井東中	113
○ 長野市立山王小	4	○ 須坂市立井上小	62	○ 長野市立篠ノ井西中	114
○ 長野市立芹田小	5	○ 須坂市立高甫小	63	○ 長野市立松代中	115
○ 長野市立古牧小	6	○ 須坂市立旭ヶ丘小	64	○ 長野市立若穂中	116
○ 長野市立緑ヶ丘小	7	○ 須坂市立仁礼小	65	○ 長野市立川中島中	117
○ 長野市立三輪小	8	○ 須坂市立豊丘小	66	○ 長野市立更北中	118
○ 長野市立吉田小	9	○ 小布施町立栗ヶ丘小	67	○ 長野市立広徳中	119
○ 長野市立裾花小	10	○ 高山村立高山小	68	○ 長野市立七二会中	120
○ 長野市立城東小	11	○ 中野市立中野小	69	○ 長野市立信更中	121
○ 長野市立湯谷小	12	○ 中野市立日野小	70	○ 長野市立豊野中	122
○ 長野市立南部小	13	○ 中野市立延徳小	71	○ 長野市立戸隠中	123
○ 長野市立大豆島小	14	○ 中野市立高丘小	72	○ 長野市立鬼無里中	124
○ 長野市立朝陽小	15	○ 中野市立平野小	73	○ 長野市立大岡中	125
○ 長野市立柳原小	16	○ 中野市立高社小	74	○ 長野市立信州新町中	126
○ 長野市立長沼小	17	○ 中野市立豊田小	75	○ 長野市立中条中	127
○ 長野市立古里小	18	○ 山ノ内町立東小	76	○ 長野市立長野中	128
○ 長野市立若槻小	19	○ 山ノ内町立西小	77	○ 信州大学教育学部附属長野中	129
○ 長野市立徳間小	20	○ 山ノ内町立南小	78	○ 須坂市立常盤中	130
○ 長野市立浅川小	21	○ 木島平村立木島平小	79	○ 須坂市立相森中	131
○ 長野市立芋井小	22	○ 野沢温泉村立野沢温泉小	80	○ 須坂市立墨坂中	132
○ 長野市立安茂里小	23	○ 飯綱町立牟礼小	81	○ 須坂市立東中	133
○ 長野市立松ヶ丘小	24	○ 飯綱町立三水小	82	○ 小布施町立小布施中	134
○ 長野市立通明小	25	○ 小川村立小川小	83	○ 高山村立高山中	135
○ 長野市立篠ノ井東小	26	○ 飯山市立秋津小	84	○ 中野市立南宮中	136
○ 長野市立篠ノ井西小	27	○ 飯山市立飯山小	85	○ 中野市立中野平中	137
○ 長野市立共和小	28	○ 飯山市立泉台小	86	○ 中野市立高社中	138
○ 長野市立信里小	29	○ 飯山市立常盤小	87	○ 中野市立豊田中	139
○ 長野市立塩崎小	30	○ 飯山市立戸狩小	88	○ 山ノ内町立山ノ内中	140
○ 長野市立松代小	31	○ 飯山市立東小	89	○ 木島平村立木島平中	141
○ 長野市立清野小	32	○ 飯山市立木島小	90	○ 野沢温泉村立野沢温泉中	142
○ 長野市立西条小	33	○ 栄村立栄小	91	○ 飯綱町立飯綱中	143
○ 長野市立豊栄小	34	○ 坂城町立南条小	92	○ 小川村立小川中	144
○ 長野市立東条小	35	○ 坂城町立村上小	93	○ 飯山市立城南中	145
○ 長野市立寺尾小	36	○ 坂城町立坂城小	94	○ 飯山市立城北中	146
○ 長野市立綿内小	37	○ 千曲市立上山田小	95	○ 栄村立栄中	147
○ 長野市立川田小	38	○ 千曲市立戸倉小	96	○ 坂城町立坂城中	148
○ 長野市立保科小	39	○ 千曲市立更級小	97	○ 千曲市立戸倉上山田中	149
○ 長野市立昭和小	40	○ 千曲市立五加小	98	○ 千曲市立埴生中	150
○ 長野市立川中島小	41	○ 千曲市立埴生小	99	○ 千曲市立更埴西中	151
○ 長野市立青木島小	42	○ 千曲市立八幡小	100	○ 千曲市立屋代中	152
○ 長野市立下水鮑小	43	○ 千曲市立治田小	101	○ 長野県歴代高等学校附属中	153
○ 長野市立三本柳小	44	○ 千曲市立屋代小	102	義務教育学校	
○ 長野市立真島小	45	○ 千曲市立東小	103	○ 信濃町立信濃小中	154
○ 長野市立七二会小	46			特別支援学校	
○ 長野市立信更小	47			○ 長野県長野盲	155
○ 長野市立豊野西小	48			○ 長野県長野ろう	156
○ 長野市立豊野東小	49			○ 長野県長野養護	157
○ 長野市立戸隠小	50			○ 長野県若槻養護	158
○ 長野市立鬼無里小	51			○ 信州大学教育学部附属特別支援	159
○ 長野市立大岡小	52			○ 須坂市立須坂支援	160
○ 長野市立信州新町小	53			○ 長野県飯山養護	161
○ 長野市立中条小	54			○ 長野県稲荷山養護	162
○ 信州大学教育学部附属長野小	55				
○ 須坂市立須坂小	56				
○ 須坂市立小山小	57				
○ 須坂市立森上小	58				
		中 学 校			
		○ 長野市立柳町中	104		
		○ 長野市立櫻ヶ岡中	105		
		○ 長野市立東部中	106		
		○ 長野市立西部中	107		
		○ 長野市立三陽中	108		
		○ 長野市立東北中	109		
		○ 長野市立北部中	110		

学校の概要		学校名	長野市	立城山小	学校	学校長	片山 洋一	児童生徒数	374 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		○		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○			
名称		城山小学校信州型コミュニティスクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
								地域コーディネーター	2 人		
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人		
会議開催数(予定)		9	回	今年度開催日(予定)	4月15日(金) 5月20日(金) 6月10日(金) 7月8日(金) 9月16日(金) 10月21日(金) 11月11日(金) 2月10日(金) 3月24日(金)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			
								地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		世界の人となる ― 桜と鳩と石畳 ― 桜(自分もまわりも大好きになろう) いのちを大切にす うつくしい心 鳩(なかよしを増やそう) 思いやりのある やさしい心 石畳(がんばろう・チャレンジしよう) すずんで学び、行こう たくましい心									
地域と共有された育てたい子どもの姿		すべての子どもたちにとって、「明日も行きたくなる、勉強したくなる学校」									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		113 人		
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		参加者延べ人数		183 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		○		
	清掃		○	ICT		○	学習ボランティア		○		
	土日・長期休業教科・体験学習		○	地域の伝統文化の継承に係る活動		○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		
	人権教育		○	国際理解		○	託児		○		
											
		善光寺御開帳全校講話(6月13日(月))				城山っ子はじまりの会(6月15日(水))				城山カフェの児童支援(11月15日(火))	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
本校には児童の登校支援を目的とする城山カフェ(登校支援教室)がある。CSボランティアに登録している信州大学の大学院生11名が、城山カフェの午後の時間(5・6校時)の支援を行っている。11名の大学院生との関わりをとおして、人のあたたかさや優しさを感じる貴重な時間になっている。昨年度常時城山カフェで過ごしていた児童が本年度4月から6学年の教室に戻ることができた。現在城山カフェの利用は一切ない。城山カフェでの支援が必要な児童にとって、城山カフェでの職員との関わりとともに、大学院生との関わりが登校支援につながっている。一人一人の児童の特性に合わせた個別最適な支援が、子どもの不安等を払拭し新たな歩みにつなげることができた成果だと考える。											




学校の概要		学校名	長野市立 鍋屋田小 学校	学校長	永井克昌	児童生徒数	214 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
				市町村教委		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
				自治会代表		○	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
				PTA代表		○	
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
鍋屋田小学校運営委員会		○		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
名称				放課後子どもプラザ施設長		地域コーディネーター 6 人	
				地域住民		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		2022/6/8 2022/10/19 2023/2/7	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) その他	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) 放課後子どもプラザ施設長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		子どもたちが主人公の学校づくり～未来を切り拓く 自立した学習者の育成～					
地域と共有された育てたい子どもの姿		自立した学習者					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 50 人 参加者延べ人数 120 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○					
地域学校協働活動の概要		○		登下校の見守り		○	
		○		読み聞かせ		○	
		○		児童会、生徒会		○	
		○		クラブ、部活動		○	
		○		給食		○	
○		ICT		○		○	
○		学習ボランティア		○		○	
○		総合的な学習の時間支援		○		○	
○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○		○	
○		防炎学習(避難訓練)		○		○	
○		遠足・登山		○		○	
○		キャリア教育(職場体験を含む)		○		○	
○		国際理解		○		○	
○		託児		○		○	
学校・家庭・地域の協働した取組例		○		休み時間		○	
○		○		放課後教科・体験学習		○	
○		○		キャリア教育(職場体験を含む)		○	
○		○		遠足・登山		○	
○		○		キャリア教育(職場体験を含む)		○	
○		○		休み時間		○	
○		○		放課後教科・体験学習		○	
○		○		キャリア教育(職場体験を含む)		○	
○		○		遠足・登山		○	
○		○		キャリア教育(職場体験を含む)		○	
代表的な協働した活動の取組例							
○ 取組の内容							
PTAの協力で、キャリアフェスでは、様々な職業の外部講師13名をお願いして、職業や働くこと、将来について考えた。警察、美容師、サッカー、アナウンサー、看護師などの講座があり、講師にはそれぞれ体験を交えた講演等を行っていただいた。4～6年の児童は希望する講座を2つ選んで、少人数で指導を受けた。講師の話聞いて、想像とは違う大変さやそれを超えるやりがいなどを、感じていた。							




学校の概要		学校名	長野市	立加茂小	学校	校長	唐木 英俊	児童生徒数	220 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	加茂コミュニティスクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月19日(木) 2月10日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	楽しい 豊かな 加茂小学校									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ずくのある 丈夫な子 ・ねばり強い かしこい子 ・美しさがわかり 思いやりのある子 ・力を合わせて 助け合う子 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	30 人	
								参加者延べ人数	100 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	
	人権教育		国際理解		託児				キャリア教育(職場体験を含む)	
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		シルバー人材センターのみなさんとの交流(10月5日)		防災学習(11月10日)		登下校の見守り活動・交通安全教育(通年)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
【防災学習】 ○平成28年度より、信州大学教育学部の廣内先生、第一地区住民自治協議会防災部と連携して学習を行っている。1人1台整備されたタブレットを使用し、『加茂小安全マップ』(災害時に危険な場所や安全な場所)を作成している。災害時にどのような場所が安全でどのような場所が危険なのか、地域の方とともに学ぶことが継続されている。										
【交通安全】 ○毎年、地域の交通安全協会の方に参加していただき、交通安全教室を行っている。また、日ごろから、見守り隊の方が、児童の登下校中の通学路の安全指導を行っている。										

学校の概要		学校名	長野市 立山王小 学校	学校長	小林 徹哉	児童生徒数	209 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある			
				市町村教委		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
				自治会代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○			
				PTA代表		○			
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○			
				学校長・教頭以外の学校職員		○			
山王小学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人			
名称		地域住民、ボランティア代表		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		4月18日 2月13日			
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			
						学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
						教頭			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		たくましく育つ 山王の子ども							
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・心豊かに感ずる子ども ・助け合い、本気でやり抜く子ども ・深く考え、自ら学ぶ子ども 							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 39 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 480 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会 ○			
		清掃		ICT		学習ボランティア			
		給食		クラブ、部活動 ○		総合的な学習の時間支援 ○			
		休み時間		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解 ○		託児		防災学習(避難訓練)	
						給食			
						休み時間			
						コロナウィルス対策の消毒・清掃			
						放課後教科・体験学習			
						遠足・登山			
						キャリア教育(職場体験を含む)			
学校・家庭・地域の協働した取組例									
		山王お話し(毎週月曜日)		山王花いっぱい(毎週月曜日)		100周年記念事業			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
○ 山王小学校が令和5年度に100周年を迎えることから、今年度の100周年記念事業を実行委員会を中心に、地域の方にも事業参加してもらう。									
・地域にあるホテルメトロポリタンで記念食事を挙げる。長野県の食材を使って地産地消を学習。2年生が栽培した大豆を食材に使ってもらう。別室に昨年度登校日数0日の長期欠席児童も参加することができた。普段食べることのできない食事内容で、子ども達からは思い出に残った感想がたくさん綴られた。									
・参観日の時に体育館で「山王マルシェ」を企画し、学区内の様々なお店に出店してもらい、子どもたちが買い物体験を行った。事前に親子でどのお店で何を買いのか相談してきてもらったので、当日はめあてのお店で買い物を楽しむ姿があった。また、100周年の記念誌委員に既に卒業した保護者に入ってもらったり、卒業生にも関わってもらったりしながら、今と昔の山王小を比較できる記念誌作りも行っている。									
・総合的な学習の内容を100周年記念誌に掲載するが、5・6年生が地域探求をするための地域の情報や聞いてみたい話を地域のことをよく知っている方に教えてもらっている。									

学校の概要		学校名	長野市 立 芹田小 学校	学校長	中山 久貴	児童生徒数	716 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		PTA代表		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		芹っ子地域応援隊		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)	
		地元有識者 各ボランティア代表者		地域コーディネーター		1 人	
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)		人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月10日(金) 11月22日(火) 2月9日(木)	
				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(リストより選択)	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		励精 ～精一杯励む～ やさしく(徳) かしく(知) たくましく(体)					
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域の様々な人にかわいがってもらい、鍛えてもらいながら育つ芹田の子 地域の一人として何かができる芹田の子					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 60 人 参加者延べ人数 500 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		防災学習(避難訓練)		遠足・登山 ○		キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		読み聞かせ「おはなしたまてばこ」(通年)		Anniversary< 励精 > 150歳のHappy Year		芹っ子ふれあいフェスタ2022(10月8日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
今年度、コミュニティスクール、地域の区長、学校評議員、芹田小学校のPTAを中心に「芹田小学校創立150周年記念事業実行委員会」を組織し、準備している。5月、体育学習発表時に「150周年キックオフイベント(バルーンリリース)」をおこなった。群馬や埼玉から返事が届き、学校・学年での交流につながった。来年度の「Anniversary< 励精 > 150歳のHappy Year」に向けて地域の皆さんと準備を進めている。「芹っ子ふれあいフェスタ2022」を開催した。この「ふれあいフェスタ」は、地域ボランティアの協力者を募り、多様な製作活動や体験する催しである。PTAを中心とした本物の消防車を使った放水体験、建設業の保護者が用意したショベルカーの乗車体験、注射器に色水を詰めて看護師になりきる医療体験など、感染予防に十分に配慮しながら楽しむことができた。新型コロナウイルス感染症下ではあったが、参加した子どもたちは楽しい一時を過ごすことができたと同時に、保護者や教員、地域ボランティアの人たちが交流できる機会は貴重となった。PTA会長はじめボランティアに携わってくださった人たちは、「子どもたちの笑顔がみれて良かった。」と話されていた。保護者と地域の方々とも協働しながら、さらに「地域に開かれた学校」をめざしていきたい。							




学校の概要		学校名	長野市 立 古牧小 学校		学校長	神頭 久典		児童生徒数	671 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある						
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	古牧小学校応援団		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 シニアクラブ連合会会長 住民自治協議会教養文化部青少年育成部長				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人			
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)		令和4年5月10日(火) 令和5年2月9日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校評議員				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	道一筋に励む古牧の子ども ～たかめる・かかわる・みがく～											
地域と共有された育てたい子どもの姿	・自ら進んで学び合う子ども ・自分を見つめ、よりよい姿をめざす子ども ・心と体を鍛え、汗を流して活動する子ども 多様な人とのかかわりを通して、コミュニケーション力、協働する力、他者を尊重する力を育む											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	40	人
										参加者延べ人数	50	人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>主に古牧小学校の保護者で構成されている読み聞かせ同好会と図書館教育係が連携・協働し、月曜日の朝の読書の時間を利用して、各学年に入って読み聞かせをしていただいたり、読書旬間中には会議室でいろいろな工夫を凝らして読み聞かせをしていただいたりしている。</p> <p>読み聞かせ同好会の方々は、古牧小学校の子どもたちと一緒にお話の世界を楽しもうと熱心に活動してくださっており、コロナ禍で読み聞かせができない状況では、読み聞かせを楽しんでほしいとの願いのもと、読み聞かせのDVDを制作し、各学年に配布してくださった。また、同好会員の募集にも積極的で、今後も持続可能な活動になるように配慮してくださっている。</p> <p>読み聞かせ同好会の方は、各学年の実態に合わせて、子どもたちが想像を働かせ、ワクワクするような内容の本を選び、巧みな読み聞かせをしてくださり、「本や読書が好きな子ども」「読書に親しんだり、読書を楽しんだりする子ども」が着実に育ってきている。読み聞かせ中は、読み聞かせに引き込まれ、目を輝かせながらじっと聞き入る子どもたちの姿が見られ、子どもたちの読書生活の向上につながっている。</p>												


学校の概要		学校名	長野市	立 緑ヶ丘小	学校	学校長	野口 茂雄	児童生徒数	619 名								
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																	
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について												
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある												
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)											
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある											
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある											
名称		緑ヶ丘小学校地域連絡協議会運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 各地区育成会長、民生児童委員、主任児童委員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)									
		地域コーディネーター		2		人											
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人											
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		6月29日 2月16日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)									
								保護者(PTA)									
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)									
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																	
学校教育目標		「人や自然に愛される子」															
地域と共有された育てたい子どもの姿		緑ヶ丘コミュニティスクールスローガン ～ささえよう みんなの手で つなげよう みんなの心～															
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況												
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○										
2 学校運営への必要な支援について		○															
3 地域の実情や課題について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。												
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)												
5 教職員の任用に関する一般的な要望について					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		76 人								
							参加者延べ人数		129 人								
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		○	クラブ、部活動		○	給食		休み時間	
		清掃		○	ICT		○	学習ボランティア		○	総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)		○			
		人権教育		国際理解		託児											
学校・家庭・地域の協働した取組例																	
		もりあげ隊 池清掃(5月28日)				お琴クラブ(6月14日)				生け花ボランティア(10月14日)							
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)															
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																	
○池清掃ボランティア(もりあげ隊) ・もりあげ隊は、有志の保護者(父親中心)が防犯活動や、PTA作業では難しい作業や、イベント等の企画・手伝いなどを自主的に行っている団体である。昨年は、開校30周年記念のイベント「パルーンリリース」「打ち上げ花火」のスタッフとして活動に関わっていただいた。 ・今年度は、春のPTA作業の時に、コロナ禍で3年間掃除をする機会がなく、汚れが目立ってきた緑の森の池の掃除をしたいと、もりあげ隊の方から申し出があり、有志で清掃を行っていただいた。ポンプで池の水を抜き、高圧洗浄機で池底の汚れを落とし、水路にはトラックで砂利を運んで敷きなおすというダイナミックな作業を、もりあげ隊のメンバーの中で行っていただいた。もりあげ隊のネットワークの広さに、感激した。 ・作業後、子どもたちはきれいになった川や池を見て喜び、更に自然と触れ合う意欲が湧き、子どもたちの憩いの場となっている。また、きれいにしていただいた池の環境を維持しようと、環境委員会の活動が盛んになった。																	




学校の概要		学校名	長野市	立三輪小	学校	校長	中澤 美三	児童生徒数	377 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		三輪小学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 三輪保育園理事・園長、民生児童委員協議会会長副会長、安全協会三輪支部長、三輪甚句保存会会長、読み聞かせボランティア代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)					
		地域コーディネーター		2		人							
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0		人							
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月9日、10月20日、2月9日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)					
								地域住民					
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		からだを動かし あたまを働かせ 心に感ずる											
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域の歴史や事象・土地・人について五感を働かせた体験的な学びを積み重ねる。探究的な学びを通して、自ら学びを展開する力の育成を目指し、豊かな心や人としての生き方への憧れを育む。子どもたちが自ら願いをもち、新しい生活様式の中で友と知恵を出し合い、力を合わせて学び合う主体的で対話的な学びを展開する。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		30 人					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		4		参加者延べ人数		100 人					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習 ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児 ○							
		学校・家庭・地域の協働した取組例								交通安全教室(4/20,21,22)		三輪甚句保存会による講習(5/11)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
三輪甚句については、4年生は総合的な学習の探究課題として取り組んだ。踊り方だけでなく、地域で大切にしている理由やこれまでの歴史について講義をしていただき、子どもは探究的に学ぶことができた。体育学習発表会でも表現運動として発表した。4年生は学んだことを3年生に伝達し、連学年間の交流の糸口にもなった。さらに、三輪甚句をもっと広めていきたいという願いをもった子どもたちは、おうちの人を呼び、踊り方を教えたり、地域にPRしたりしてこうしていた。成果としては、三輪甚句を調べることで、三輪地区の伝統や歴史へと広がっており、ふるさと三輪を誇りに思い、三輪の伝統を後世に伝えたいという心が育まれている。三輪甚句について学ぶことが、地域の人々となつなげるきっかけになっている。													

学校の概要		学校名	長野市立 吉田小 学校		学校長	松島 良次		児童生徒数	679 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		長野市立吉田小学校信州型コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
		元PTA会長、元長野市教育長、元吉田東町区長、人権擁護委員、吉田保育園理事長						地域学校協働活動推進員(教育委員会からの委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		令和4年7月4日(月) 令和5年2月7日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館副館長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		自ら学び ともに学ぶ 吉田の子 (予測困難な時代を生き抜く学力、やさしくたくましい心と体、吉田ならではの学びの充実)											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・全学年での地域との交流、地域での学び(人・こと・ものとの深い関わり) ・地域の方々の思いへの気づきと感謝の思い。 ・自分の地域を知る活動 ・ボランティアメンバー(お助け隊)の活用による地域学習の推進と地域素材の発掘 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 883 人		参加者延べ人数 799 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
○ 登校時はPTAのおはよう当番の方が、下校時は大いちょう隊/パトロールの方が、子どもたちの交通事故や事件から守ってくださっている。本校では、安全指導の年間計画及び学校安全マニュアルに沿って、交通安全教室や避難訓練、防犯訓練等を行い、児童の学校安全に対する知識や行動が身に付くように指導している。登下校は特に、子どもたちだけになることから、PTAや大いちょう隊の方から声をかけていただくことで、自分の命は自分で守ること、友だちの命も大切にすることを日々学んでいる。本年度から、新道開通に伴った通学路の変更があり、安全安心の家も新規開拓し、本年度は新たに5件が新規加盟してくださった。大いちょうパトロール隊は各自地区ごとに組織を作っていて、区の役員だったり有志を募っていただいたりしているが、年度当初に初めの会、年度終わりに感謝の会を開き、子どもたちと直接交流の場も設けるようにしている。													

学校の概要		学校名	長野市立 裾花小 学校		学校長	宮島 卓朗		児童生徒数	501 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		裾花小ポプラっ子コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ・学校評議員(地域コーディネーター兼任) ・各地区安全ボランティア代表(地域コーディネーター兼任) ・地域有識者代表(地域コーディネーター兼任)		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 7 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人			
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		5月11日 9月8日 11月30日 2月2日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		ポプラのように たくましく 心ゆたかな子											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・最後まで粘り強く努力する子 ・あいさつができる子 ・明るく健康に活動できる子 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 64 人		参加者延べ人数 350 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○		給食 ○		休み時間	
		清掃 ○		ICT ○		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃 ○		放課後教科・体験学習 ○	
		土日・長期休業教科・体験学習 ○		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携 ○		防災学習(避難訓練) ○		遠足・登山 ○		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育 ○		国際理解 ○		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		夏休みフリーラーニング(8月18日・19日)				地域との避難訓練(9月1日)				中庭再生プロジェクト(10月31日)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>9月1日の防災の日に、今年初めての試みとして、避難所開設訓練を行った。中御所区の皆さんに参加いただき、5年3組の児童と一緒に行った。訓練は、午前9時に市内で震度7の地震が発生したものと想定し、中御所の住民の23人を5年3組の児童が体育館に誘導した。その後2次避難として、多目的室に誘導し、訓練後には、市危機管理防災課による防災学習の機会を設けた。段ボール製のベットを組み立てたり、避難所の備蓄品を確認したりした。</p> <p>中御所地区では毎年、避難誘導の訓練は行っているものの、校門前までの避難だったそうで、参加された区長さんからは、「安心・安全に避難できることを住民に説明できる」と感想をいただいた。災害時に避難所となる裾花小に地域住民の方が、安心して避難できるよう受け入れ手順を確認できたことは、大きな成果である。これからこのような活動を行いたい地域への先行事例になったのではないかと実感している。</p>													

学校の概要		学校名	長野市	立城東小	学校	校長	櫻井 清志	児童生徒数	315 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○			
名称		城東小CS運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
								地域コーディネーター	1 人		
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人		
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		第1回 6月27日(月) 第2回 2月9日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			
								地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
								区長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		新しきひとすじの道を創る									
地域と共有された育てたい子どもの姿		自分でやりたいことを決め主体的に学習を進めていく子ども 困ったときは友だちのやり方を参考にしたり、友だちと教え合ったりすることができる子ども 次々と課題を見つけて学習を続けていくことができる子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				
2 学校運営への必要な支援について		○									
3 地域の実情や課題について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5 教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		22 人		
							ボランティア登録者人数		50 人		
							参加者延べ人数		人		
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○			
		清掃				ICT					
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携			
		人権教育				国際理解		託児			
		クラブ、部活動		○		給食					
		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃					
		防災学習(避難訓練)				遠足・登山		○			
		休み時間				放課後教科・体験学習					
						キャリア教育(職場体験を含む)					
		学校・家庭・地域の協働した取組例									
											
		読み聞かせ(9月5日)		高原学校自然観察(9月13日)		エコバッグ作り(10月6日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせボランティアによる読み聞かせ会を実施し、子どもたちの読書への興味・関心が高まってきている。 5学年高原学校での聖山登山の折に、学校支援ボランティア兼長野県自然保護レンジャーである南澤さんに同行してもらい、自然観察会を実施したり、山頂付近に立つ鉄塔の役割等について解説したりしてもらった。子どもたちは自然を満喫しながら新しい知識を得る機会となった。 学校支援ボランティアに入ってもらったパソコンクラブの活動では、プログラミングの専門的な知識等を、楽しみながら学ぶことができた。 保護者ボランティアによる学習活動への協力をいただき、環境問題の学習の一つとしてTシャツを使ったエコバック作りを実施した。子どもたちは着られなくなったTシャツをリメイクすることを通して、いらなくなったものの有効活用や環境問題への関心を高めることができた。 											

学校の概要		学校名	長野市立湯谷小学校	学校長	中沢 英明	児童生徒数	412 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表	
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員	
ボランティアと学校の情報交換会がある		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある		○	
名称	学校評議員コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	
	歴代PTA会長					地域コーディネーター	1 人
地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		○				人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 6月6日(月) 第2回 10月21日(金) 第3回 2月14日(火) 		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 地域住民 具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) 公民館長・歴代PTA会長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標	『やさしく かしく たくましく』 ＝すすんで自分を伸ばそう＝						
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの人と進んで交流ができる子ども ○問題解決に向けて、主体的に追究し高め合う子ども ○体を動かすことを身近に感じ、体力の向上に取り組める子ども 						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	60		ボランティア登録者人数
				○	16		参加者延べ人数
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)
	人権教育		国際理解	○	託児		○
	遠足・登山						○
学校・家庭・地域の協働した取組例							
地附山トレッキング下見(5/7)		高原学習「地附山トレッキング」(11/5)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
【地附山トレッキング】 ・高原学校として地域の山である地附山をトレッキングすることに変更してから3年目となるが、今年度も地附山トレッキング愛護会の皆さん方にも一緒に登っていただいた。当日は未明から小雨が降り続き、中止も考えられたが、現場の様子をよく知るトレッキング愛護会の方のご助言によりルート変更等を行うことにより、無事に実施することができた。また、予定していた場所全てを回ることはできなかったが、松寿荘慰霊塔、スキー場や釣り堀等の遺構を回り、詳しく説明をしていただいた。特に松寿荘慰霊塔での話では、当時を経験されたからこそ伝えることのできる悔しさや悲しさを語っていただいた。毎年、地域の山である地附山を大切にしたいと、命を守っていくことの大切さを後世に残していきたいという愛護会の皆様の思いを伝えていただいている。郷土愛を育み、防災意識を高めるよい機会となった。							

学校の概要		学校名	長野	立 南部小	学校	学校長	清水 秀昭	児童生徒数	508 名										
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																			
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について														
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある											
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)											
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある										
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある									
名称		NCS 南部コミュニティスクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 地域住民、保護者(PTA)			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人									
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人									
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月16日 2月9日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		保護者(PTA)									
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		コーディネーター									
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																			
学校教育目標		喜心 ◇喜んで学習する子ども			老心 ◇思いやりのある子ども			夫心 ◇明るくおらかな子ども											
地域と共有された育てたい子どもの姿		・自ら学ぶ(知) ・ともに創る(徳) ・たくましく生きる(体)																	
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況														
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○								
2		学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○								
3		地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○								
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		○								
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○		ボランティア登録者人数		46 人		人								
							参加者延べ人数		440 人		人								
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動		給食		休み時間			
		清掃		○		ICT		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)				遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育				国際理解		託児											
		学校・家庭・地域の協働した取組例				登下校安全見守り(通年)				1年生遠足(10月4日)				音楽会 伴奏(10月28日)					
代表的な協働した活動の取組例										(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																			
1年生の遠足に学校職員とともにNCSのメンバー2名に同行していただいた。事前の打ち合わせや遠足終了直後の反省も一緒におこなっていただき、子どもたちにとっても、学年職員にとっても、とても良い遠足が無事実施できた。横断歩道の誘導をはじめ、安全歩行のサポート、電車への乗り降り、車内での安全見守り、公園やトイレなどの安全確認などにかかわっていただき、事故・怪我無く楽しい遠足になった。また、昼食や公園での子どもたちとのコミュニケーションも積極的にとってくださり、学校職員ではない大人との会話や公園で一緒に遊ぶことなど、子どもたちは、楽しい思い出ができた。支援が必要なお子さんへの対応もしていただき、一緒に歩いたり、話をしていたり、みんなと一緒に行動することができた。学校職員も、安全管理に余裕を持ったり、必要な児童への個別対応等も安心しておこなったりできた。																			




学校の概要		学校名	長野市	立大豆島小	学校	校長	田原 克彦	児童生徒数	661 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月17日(火) 10月28日(金) 2月1日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		大豆島小学校元PTA会長及び顧問				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	「共に手をとり オイ進もうぞ!」(志をもって自分から一歩前進)											
地域と共有された育てたい子どもの姿	かしこい子 やさしい子 たくましい子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 25 人 参加者延べ人数 14 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間			
	清掃	○	ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	○	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	○	国際理解	託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
	菊作り5月～10月		夢ナビ(職場体験学習)8月・12月		米作り6月～10月							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
5月10日(火)に、菊栽培の最初の活動である、挿し芽を作る作業を学校の中庭で行った。地域の菊保存会で、地域ボランティアでもある「重陽友の会」のみなさん7人に来校いただき、教わりながら活動を行った。前年度に成長した苗がもとになっていることを話していただく中で、『命をつないでいる』ということも教えていただき、これから本格的に始まっていく栽培活動への意欲を高めたり、きれいな菊を咲かせることへの期待を膨らめることができた。その後も、ポットや鉢への植え替えなど作業の際にはお手伝いをいただくことで子どもたちも安心して作業することができ、きれいな花を咲かせることにつながった。												

学校の概要	学校名	長野市立	朝陽小 学校	学校長	小林 正宣	児童生徒数	623 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	朝陽小学校CS運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいますか(それぞれの人数を記入)				
	・地区の主任児童委員 ・ふるさと朝陽を学ぶ会			地域コーディネーター	0	人				
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)	6月16日(木)、10月6日(木)、2月3日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			
						学校職員(教頭及び教頭以外の職員)				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	教頭			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	かしこく やさしく たくましく 令和4年度 笑顔の合い言葉 ～輝く笑顔 ともにのびゆく あさひっ子～									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・明るいあいさつができる子ども ・温かい心と思いやりをもつ子ども ・自ら学ぶことを楽しめる子ども ・自分で行動し判断する子ども 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○					
2	学校運営への必要な支援について	○								
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	50	人			
					参加者延べ人数	20	人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
										
	りんご栽培体験(摘果)(5月10日)		米づくり体験(田植え)(6月27日)		車イス・アイマスク体験(11月1日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○地域の方々のお力を借りて、子どもたちの農業体験活動を充実させている。 ・5年生の「米づくり体験学習」では、田植えや稲刈りの体験に加えて、雑草取り、脱穀、精米などの一連の流れを学ばせていただけたことで、子どもたちは、お米ができるまでのプロセスの大変さと米づくりの尊さを実感することができた。また、3年生の「りんご栽培体験」では、摘果から収穫作業までを体験させていただいたことで、りんご栽培のプロセスやりんごを収穫するまでに多くの手がかかっていることなどを実感することができた。 ・これらの体験活動を通して、子どもたちは農作業の一端に触れることができるとともに、米やりんごなどを育てる地域の方々の思いを知ることができると、大きな学びの場になっている。また、地域の方々にご指導いただく中で、地域の方々と親しくなり、地域の行事等に積極的に参加しようとする子どもたちが増えた。										

学校の概要		学校名	長野市	立柳原小	学校	学校長	牛木 剛二	児童生徒数	378 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		○		自治会代表		○		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○		PTA代表		○		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		
名称	柳原小学校CS運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	5 人
				地域住民、ボランティア代表					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月26日、11月28日、2月6日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	明るく たくましく 心豊かに									
地域と共有された育てたい子どもの姿	一人一人が輝く、みんなが輝く楽しい学校になるために、「自分から学ぶ」「ともに学ぶ」「安心して学ぶ」ことができる子どもたちになるよう、グランドデザインに明示し、確認を行った。									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
3	地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		ボランティア登録者人数		18 人		○
						参加者延べ人数		320 人		○
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	○
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○
	人権教育	○	国際理解	○	託児	○		○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>・今年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、学習支援ボランティアの皆様には、秋ごろまで支援を自粛する形となったが、第一回目のコミュニティスクール運営会議では、委員の皆さんがグループになり、本校の良さと課題を語り合う機会をとり、児童と学校について理解を深めていただきことができた。そのような中、徐々に通常の活動に戻していくことができ、クラブ活動や稲作を中心に支援をいただいた。地域の方の得意を生かすことにより、子どもたちの学びが豊かになるとともに、職員研修にもつながる支援となった。</p> <p>・今年度の新たな連携の事例として、地域の方からお声がけいただき、本校の一室で「蝶や甲虫の標本展示」を一か半月開催させていただくことができた。子どもたちの輝く目や姿がたくさん見れるとともに、興味関心を自分自身の実践につなげようとする意欲を感じる展示となった。また、展示を提案いただいた地域の方のニーズにも応えることができ、今後につながる新たな地域と学校との協働の形がみえた。</p>										

学校の概要		学校名	長野市	立長沼小	学校	学校長	市川 英臣	児童生徒数	87 名														
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																							
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																		
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある															
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)															
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○														
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○															
名称		長沼小学校コミュニティスクール運営委員会りんごっこ支援の会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 元住民自治協議会長 長沼歴史研究会会長 元教育長(地域の有識者)			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれ的人数を記入)															
		地域コーディネーター		2		人																	
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0		人																	
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		第1回5月13日(金) 第2回10月27日(木) 第3回は書面で振り返り、意見を募る		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)															
								地域住民															
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)															
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																							
学校教育目標		感動豊かに よく学び よく遊ぶ 長沼の子 ～かしこい子 あたたかい子 たくましい子～																					
地域と共有された育てたい子どもの姿		学校教育目標 「話し合い名人」「なかよし名人」(他を大事にして、挨拶等で気持ちよくつながれる子) 「がんばり名人」(災害を乗り越えて力強く歩み、地域に元気を与えられる子。協働し粘り強く頑張れる子) 「地域と共に育つ」(地域に学び、地域を愛し、地域に愛され、地域に還る子ども) 「防災・減災学習」(自分で判断行動できる力)。																					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況																		
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○														
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○														
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○														
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		60 人														
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		参加者延べ人数		40 人														
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間			
		清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		○		国際理解		○		託児		○				○				○			
																							
		3年生りんごづくり学習(通年)(写真は6月13日)				クラブ活動(5月25日)他2回						毎週月曜日朝、低学年への読み聞かせ											
代表的な協働した活動の取組例																							
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																							
昨年度始まった新しいクラブ活動・地域の方が講師になってくださる活動を5つ作り、子どもたちが、毎回違うクラブを回っていく新しいクラブ活動を今年も実施できた。職員にとっては、活動の計画をお任せできる良さがあり、地域の方には「元気をいただいた。」とおっしゃっていた。また、昨年度の反省を生かして活動をパワーアップしていただいた。講師の方がお仲間を連れてきてくださって、より広い交流となった。																							
読み聞かせ・りんごっこ学習会・・・以前行っていたが、被災とコロナで止まっていた活動を復活することができた。放課後の学習を見守っていただく活動と、月曜日の朝に低学年の子どもたちに読み聞かせを行っていただく活動がもどった。読み聞かせは、いろいろなお話を読んでくださるので、子どもたちが大変楽しみにしている。																							
上記の他に、マラソン大会の見守り、毎週金曜日のスポーツコミュニティ、季節ごとの俳句指導がある。																							

学校の概要		学校名	長野市立 古里小 学校		学校長	清水 令子		児童生徒数	560 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ <input type="checkbox"/> 会議の委員構成				○ <input type="checkbox"/> ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ <input type="checkbox"/> 自治会代表		○ <input type="checkbox"/> ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表				PTA代表		○ <input type="checkbox"/> ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ <input type="checkbox"/> 学校長・教頭以外の学校職員		○ <input type="checkbox"/> ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		古里小学校学校運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		第1回 6月 8日 第2回 9月 6日 第3回 2月10日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		○かしこく ○やさしく ○たくましく											
地域と共有された育てたい子どもの姿		○地域の人々と接し、地域に学び、地域を愛する子ども ～地域住民・保護者から歴史、自然、文化、安全などを学び、地域の良さを知り、地域に誇りを持つ子ども～											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○ <input type="checkbox"/>		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			
2		学校運営への必要な支援について				○ <input type="checkbox"/>							
3		地域の実情や課題について				○ <input type="checkbox"/>		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○ <input type="checkbox"/>		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5		教職員の任用に関する一般的な要望について				○ <input type="checkbox"/>		4		協働活動に参加したボランティアの人数			
										ボランティア登録者人数 49 人			
										参加者延べ人数 61 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○ <input type="checkbox"/>		読み聞かせ		○ <input type="checkbox"/>		児童会、生徒会			
		清掃				ICT				学習ボランティア			
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動				子ども食堂(こどもカフェ)との連携			
		人権教育				国際理解				託児			
													
		地域の方から稲作を学ぼう(6月16日)				わたしたちの古里(7月14日)				古里のりんごづくりを学ぼう(10月20日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<ul style="list-style-type: none"> ・5～7月の2か月間、3年生が地域の方々の協力をいただきながら、古里地域探検を行った。 ・まず、学級ごとに数回に分けて地域を探索した後、東北交番、りんご農園、金箱神社を訪ね、そこで働く方々からお話を聞いた。 ・続いて、子どもたち自身が地域の方々に連絡をとって見学依頼をした(事前に地域の方々には依頼済み)。 ・グループに分かれて、古里郵便局、信叟寺、農協、薬局、美容院を訪ね、これまでの地域探検の経験を生かして、そこで働く方々からお話を聞いた。 ・子どもたちは自分たちが住んでいる古里地区を詳しく知ることを通して、古里に誇りを持ち、自分たちが地域の方々に支えられながら生活していることを実感することができた。 													




学校の概要		学校名	長野市 立 若槻小 学校	学校長	小池 勲	児童生徒数	432 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
				市町村教委		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
				自治会代表			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
				PTA代表		○	
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
若槻小学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
名称		地域住民		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月24日 10月28日 2月22日	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						その他	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
						学校評議員	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		強く 清く 心豊かに					
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・心・身・頭を鍛え、ねばり強く取り組む子 ・明るく、素直で、礼儀正しい子 ・人とつながり、思いやりを大切にする子 					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 45 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 32 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会	
		清掃		ICT		○ 学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
							
		稲刈り(9月30日)		史跡巡り(11月2日)		読み聞かせ(通年)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<5年生の米作り> 5年生は、毎年総合の学習で米作りに取り組み、地域の方から専門的な指導を受けながら年間を通して活動してきた。春は田んぼの草取りから始まり、代掻き、田植えを行い、秋には稲刈り、脱穀を行った。また、残ったわらを使って「しめ縄作り」にも挑戦したいと考え、地域の方に講師をお願いした。米作りは初めての児童も多かったが、たくさんの経験を通し、収穫の喜びを味わうとともに、米を育てることの大変さや苦勞を身をもって実感した子どもたちであった。地域の方との交流も深まり、教えていただいた感謝の気持ちを取穫祭で伝えたいと計画している。							

学校の概要		学校名	長野市	立徳間小	学校	校長	龍野 正和	児童生徒数	583 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			○		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員			○		ボランティアと学校の情報交換会がある	
名称	徳間小学校CS運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	第1回 5月19日(木) 第2回 2月13日(月)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	ともに 輝き 明日を拓く 徳間の子 ～明日も来なくなる学校にしよう～									
地域と共有された育てたい子どもの姿	子ども・職員・サポーターの「やる気」「喜び」「笑顔」が響き合う連携をめざして									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		26 人 参加者延べ人数 300 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		田植え(6月7日)		1年生への読み聞かせ(6月～)		金管クラブの指導(7月～)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
米作りの学習では、稲作についての活動を昨年度に引き続いて行っていただいている。6月初旬に行った田植えでは、総合的な学習として調査してきたことを、実際に講師の方々にさらに詳しく教えていただきながら体験をすることができた。体を動かしながら学ぶことを通して、子どもたちは自然の素晴らしさや地域の皆様に支えられている喜びを感じることができた。また、年間を通して活動することにより、田植えに始まり水の管理や鳥よけネットの設置、稲刈りや脱穀など、様々な作業を通してお米づくりの苦労と同時に楽しさを学ぶことができています。										

学校の概要		学校名	長野市	立 浅川小	学校	校長	水沢 博昭	児童生徒数	309 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		公民館代表		○		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○		○	
名称	浅川小学校コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		
				学校評議員			地域コーディネーター	1	人
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0
								ボランティア	0
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月24日	2月9日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校評議員(次世代育成部会長)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	つよく やさしく うつくしく								
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域の力をいただき、多様な活動に取り組むことを通して、自分と地域に誇りをもてる子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数			20
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5	参加者延べ人数			60
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○ キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
学校・家庭・地域の協働した取組例									
	椎茸のコマ打ち体験学習(4月14日)		あいさつ(愛の声がけ)運動(6月)		読み聞かせ 月1回(7月8日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
あいさつ(愛の声がけ)運動は、6月と10月の年2回行われています。(期間はそれぞれ1週間程度)参加して下さったのは、浅川住民自治協議会、民生児童委員協議会、更生保護女性会、さずな会、青少年育成委員会、浅川小PTA等、大勢の地域、保護者の方々です。ご都合がつく朝7:30から8:15頃、正門付近に立ち、登校する子どもたちにあいさつを投げかけてくださいました。笑顔で子どもたちにあいさつをして下さるおかげで、子どもたちは、いつも以上に明るいあいさつをし、その場がとても温かな雰囲気となりました。このあいさつ運動が広がることで、不審者に会うことや交通事故に遭うことも少なくなっていると考えています。									

学校の概要		学校名	長野市 立 芋井小 学校			学校長	伊賀 千冬		児童生徒数	17 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある						
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	芋井小学校コミュニティスクール				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 なし				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人	
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	4月6日 6月2日 2月2日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	自ら学ぶ 支え合う やりぬく 郷土を愛する											
地域と共有された育てたい子どもの姿	自ら学ぶ子ども……自主学習・近隣校との合同学習・ICTの活用・英語によるコミュニケーション・図書館の活用 支え合う子ども……児童会活動とその企画運営・学年を越えた学び合い・自分を大切にし他者を思いやる心 やりぬく子ども……本気で取り組む学校行事・体力向上・防災意識向上・健康的な生活習慣 郷土を愛する子ども……栽培活動・自然体験・文化伝統の継承活動・地域との交流											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 0 人 参加者延べ人数 40 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	給食	休み時間				
	清掃	ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○		
	人権教育	国際理解		託児		運動会講師	○	生活科学習支援	○	○		
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
○ 芋井小学校PTA親子講座「たのしいぼうさい」 11月5日(土)芋井小学校にて、芋井小PTA、長野県NPOセンター共催企画による親子講座「たのしいぼうさい」を実施しました。長野市災害ボランティアセンターの方を講師に迎えて、内容は、停電時に役立つ「ペットボトルランタンづくり」、災害時における適切な行動や手段を考える「カードゲーム」なまずの学校、備蓄食材を使った「備蓄キッキング」の3つです。令和元年10月の台風19号災害をはじめ、毎年のように繰り返される自然災害に備えて、いざというときに役立つ知識と実践力を親子で楽しみながら身に付けることができました。児童からは「きれいなランタンができて、停電の時でなくても使ってみたい。」「ちょっとした工夫でこんなにおいしいものが作れるのを知ってよかった。」、保護者からは「日頃から防災の意識を生活の中に位置付けていくことが大事だと考えさせられました。」などの感想を聞くことができました。学校としても通常行っている避難訓練だけでなく、今後の防災教育の新たな視点を学ばせていただく機会になりました。												

学校の概要		学校名	長野市 立 安茂里小 学校	学校長	桂本 久美子	児童生徒数	254 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表					
		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員					
		○				ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	安茂里小学校学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)					
				地域住民(学校評議員、PTA会長OB会)、ボランティア代表		地域コーディネーター	1 人				
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人				
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月17日、11月9日、2月15日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	ボランティア代表				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	共に伸びる杏っ子										
地域と共有された育てたい子どもの姿	自ら考え行動する子ども ～周り対話しながら自分も友だちもともに伸びる～ ○考える(まわりと対話しながら自分の考えを深める子ども) ○トライする(自分で考え計画したことを実行する主体性のある子ども) ○心と体の健康(自分の生活をコントロールできる自律した子ども)										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	36 人				
						ボランティア登録者人数	500 人				
						参加者延べ人数					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		登下校見守り隊(9月16日)		クラブボランティア(7月13日)		学習ボランティア(10月7日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
【学習ボランティアについて】 今年度、学習ボランティアに6名の方が登録していただいている。子どもたちへの支援の充実を図るために、学校運営委員会で学習ボランティアの人材確保を議題にいただいた。その際、学校が積極的に地域にボランティア募集についてPRしたほうがよいとのアドバイスをいただき、さっそく地域に学習ボランティア募集のチラシを配付したところ2名の方が学習ボランティアに登録していただくことができた。ボランティアの方には、子どもたちの学習や生活等を支援していただいたり、遠足等の学年行事に参加していただいたりするなど、子どもたちに直接かかわった支援を行っていただいている。学習や生活面では、授業中、学習が滞っている子どもにやり方を説明したり、作業や片づけ等で困っている子どもに寄り添って一緒に行ったりするなど、困っている子どもたちへの支援に入っただけで、授業者はクラス全体を見ながら学習をスムーズに行うことができています。また、遠足等で校外へ出る活動の際には、道路の歩行や横断等での見守りや、車で切符を買う時の支援、目的での児童の安全確保など、教職員と共に子どもの安全を見守っていただけることは大変ありがたい。											

学校の概要		学校名	長野市	立松ケ丘小	学校	校長	宮澤 俊充	児童生徒数	191 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	松ケ丘小学校コミュニティスクール運営会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
				地域住民 校長 教頭 教務主任					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	第1回・・・4月21日(木) 第2回・・・6月16日(木) 第3回・・・10月7日(金) 第4回・・・2月7日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校評議委員		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		「心やしない 知恵みがき」へどの子どもみんな輝く子 明日も早く行きたい学校～ 【心やしない】人と人との接点を温かく。温かな人間関係の構築・相手を思いやり、相手を慮る心の育成・共感共生 【知恵みがき】探究を楽しむ学習活動・ICT機器を有効に活用し、対話的で学び合いの授業づくり 自学自習								
地域と共有された育てたい子どもの姿		・誰に対しても気持ちの良いあいさつができる子ども(地域の方にも) ・地域の人やもの・ことに触れ、地域の良さを感じ、自ら学び発信する子ども ・地域の人やもの・ことに触れ、地域の良さを感じ、仲間と協力し活動を楽しむ子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について				2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	25 人	
								参加者延べ人数	170 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p><海軍壕学習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、5年生が海軍壕を訪れ、埋まっていた土の運び出し作業を行ったのをきっかけに、学習を進めてきている。 ・海軍壕のある山の地権者が、コミュニティスクール運営委員をされており、近くでりんごやあんずの栽培も行っている。低学年の頃より、あんずやりんごの摘果作業など体験させていただいてきており、結びつきが強い。 ・6年生も今年度数回海軍壕を訪れているが、7月には七夕飾りを奉納しながら、初めて壕の奥まで入る体験をした。この様子は、何局かのテレビカメラも入り、ニュース番組でも取り上げられた。 ・6年生は総合的な学習の時間の中核に据えながら、この体験を通して感じた疑問を追究している。さらに他学年に紹介することで、学習の輪が広がってきている。 										

学校の概要		学校名	長野市 立 通明小 学校	学校長	高野 直樹	児童生徒数	755 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		ボランティアのリストがある		
				市町村教委		○		
				自治会代表		○		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○		
				PTA代表		○		
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		
				学校長・教頭以外の学校職員		○		
名称	通明教育を考える会(学校運営委員会)			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		
				学校同窓会(会長、副会長、会員) 地域の学識経験者		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月23日(木)、11月15日(火)、2月6日(月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
						保護者(PTA)		
						PTA会長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標		自ら考え、自ら行う、かがやく子ども やさしく・かしこく・たくましく						
地域と共有された育てたい子どもの姿		・ふるさとの「ひと、もの、こと」に出会い、学ぶ機会や人とふれあう機会をとおして、ふるさと篠ノ井の魅力を知り、ふるさとを愛する子ども ・自ら学び、広い視野で物事を考えることができる子ども						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	550 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		参加者延べ人数	600 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解	託児				
学校・家庭・地域の協働した取組例								
		りんご農家に学ぶ(10/14・17)		未来発見！篠ノ井ワークショップ(11/4)		土曜朝学(通年土曜日)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
企業や事業所等の皆様に開設いただく講座に児童が参加し、仕事内容の説明を聞いたり、簡単な職業体験をしたりすることをとおして、学ぶことや働くことの意義を考えたり、将来の夢や希望を抱いたりすることをねらいとして実施した。 南長野青年会議所に依頼して、篠ノ井地区にある11の企業・事業所に講座を開設の協力をいただいた。4年生の児童が自分の興味のある講座を選択して参加したが、総合的な学習の時間で会社活動(他のためになる取組をグループで実施)、SDGs、地域の清掃活動等に取り組んでおり、それぞれに課題意識をもって各講座に参加することができた。 今後、各講座でそれぞれに学んだことを共有し合い、各学級の総合的な学習の時間に生かしていくとともに、10歳の節目として将来の自分を考える機会を設け、将来の夢や希望に向けて努力することの大切さについても考えられるようにしていく。								

学校の概要		学校名	長野市	立篠ノ井東小	学校	校長	宮澤 俊樹	児童生徒数	552 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○		ボランティアのリストがある
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある		
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある
名称	篠ノ井東小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
				・主任児童委員 ・交通安全協会 ・学校長・教頭・教務主任					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	7月1日 2月16日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		前東福寺地区区長会長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	「希望」「友愛」「勤勉」～子どもたちの笑顔輝く東小学校～									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達によさに気づく、心豊かな子 ・粘り強く考え、自分の考えを伝えられる子 ・進んで動き、最後までやりぬく子 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 45 人 参加者延べ人数 93 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○		
	人権教育		国際理解	託児				キャリア教育(職場体験を含む)		
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
	地域の方と進める米作り 田植え(6月28日)			地域の方に教えてもらう桃栽培(6月29日)			地域の方と進める米作り 稲刈り(10月12日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
「地域の方と関わりながら進める米作り」に、地域の方や保護者ボランティアの方々に関わりながら取り組んできました。多くの活動(代掻き、田植え、水の管理、稲刈り、脱穀)で関わりを持ちながら活動を進めた。田植えや稲刈りでは、児童が自分たちの手で実際に行う活動と併せて現在多くの農家が行っている機械による作業も見せていただいた。半年間の米作りの学習を通して、米を育て収穫することの大変さを感じると共に農家の方の米作りに寄せる想いや苦労、喜びなどを直接農家の方と関わりながら学ぶことができています。										

学校の概要		学校名	長野市立 篠ノ井西小 学校		学校長	海沼 敦		児童生徒数	653 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	篠ノ井西小学校運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2	人
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0	人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	7月29日(コロナ感染拡大により中止)2月中旬		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標	未来をつくる人になる 自分が好き、友達が好き、西小が好き 重点目標「みんなにあいさつ 素敵な仲間をつくろう」「自ら学び友と考え合おう」「いい言葉でいい未来をつくろう」												
地域と共有された育てたい子どもの姿	・ふるさと篠ノ井のよさを感じる子ども。(地域の人・もの・ことを学ぶ子ども) ・地域とつながる子ども(あいさつのできる篠ノ井の子ども) ・未来に向けて共に学び、学び続ける子ども(自ら学び続ける子ども)												
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2	学校運営への必要な支援について				○								
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	30	人	
										参加者延べ人数	50	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間			
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○		
	人権教育	○	国際理解	○	託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例												
		地域の皆さんと田んぼ作り				瀬原田地区のりんご学習				地域に伝わる神楽舞の学習			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
本校では、毎年3年生の社会科学習、総合的な学習として、「りんご学習」を展開している。宅地化が進んだ学区であるが、学校近くの丘にははりんご畑が広がっている。その地区でりんご園を営む方を講師に、社会科ではりんご農家の一年について、りんご栽培や出荷・販売までを学ぶ。また総合的な学習では、校内にあるりんごの木の栽培活動に取り組んでいる。摘花、枝葉の手入れ、摘果、などを体験的に学んだり、りんごにはさまざまな種類あることやそれぞれの特徴について聞いたり調べたりして学んでいる。春と秋には学年でりんご農園を訪ね、りんご農家のご夫婦から話を聞いたり質問したりして学び、実際に農作業の機械に触れたり、収穫をするなどもしている。栽培したりんごでのジャムづくりも地域の方と学んだ。 一年を通したりんご学習で、子どもたちからは「りんごづくりって大変だね」「こんなに大きいりんごがとれたよ。古島さんのりんごはとってもおいしかった。」との声がかかれた。講師の方は「りんごの学習を子どもたちとすることを毎年本当に楽しみにしている。特に、実際に農園に来てもらうことが楽しみ。りんごの学習はもちろんだが、それ以上に、このりんご園から望むすばらしい景色を子どもたちに見せたい。こんな素晴らしい景色が篠ノ井にあることを知り、心に残してくれればと思っている」と話されている。													

学校の概要		学校名	長野市	立 共和小	学校	学校長	宮澤 剛彦	児童生徒数	290 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○	
名称		共和小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任児童委員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
		地域コーディネーター		5		人			
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0		人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		令和4年6月28日 令和5年2月15日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
								地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
								学校評議員	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		共に学び共に遊ぶ							
地域と共有された育てたい子どもの姿		一人一人がふるさと共和を愛し、ふるさとの中で育ちながら自分の将来を思い描いていく子ども 挨拶ができ、相手への思いやりのある優しい心を持つ子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		60 人
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		参加者延べ人数		100 人
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○	
		清掃				児童会、生徒会		○	
		ICT				クラブ、部活動			
		給食				給食			
土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○	
人権教育		国際理解		託児		防災学習(避難訓練)		○	
						コロナウイルス対策の消毒・清掃			
						遠足・登山		○	
						休み時間			
						放課後教科・体験学習			
						キャリア教育(職場体験を含む)			
学校・家庭・地域の協働した取組例									
		サツマイモ植え(5月16日)		りんごの絵付け(9月27日)		脱穀(10月13日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
地域の農業アドバイザーさん(今年度登録23名)に、年間を通じてご指導をいただき、様々な農業体験学習を行った。地主さんに田畑をお借りし、全校では枝豆やサツマイモ・大根等の種まきや苗植えをし、水やりや草取りを行い、収穫する活動を行った。5年生は田植え、稲刈り、脱穀の活動を行った。お世話になった皆さんをお招きして収穫祭を行いたかったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、行わないこととした。その代わりとして、収穫した米をお世話になった皆さんにお礼として届ける計画をしている。3年生と児童委員会ではりんごを育てる活動をし、収穫する喜びを味わう体験活動を年間通して行っている。友だちと力を合わせて世話をし、汗を流して働くことを通じ、労働の心地よさや尊さを体験すると共に、自然の営みを肌で感じ、収穫する喜びを味わいながら、ふるさと共和を愛する心情を育むことができています。									




学校の概要		学校名	長野市	立 信里小	学校	学校長	大田 裕一	児童生徒数	33 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	信里小学校学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	3 人
				・地域委員会役員 ・ボランティア代表 ・外部講師					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月25日 10月28日 2月13日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		地域委員長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	信里を語る子ども ふるさとの語りかけを受け止める子ども ○やさしさ ○かしこさ ○たくましさ									
地域と共有された育てたい子どもの姿	信里のめざす子ども ①思いやりをもって支え合う子ども ②自ら考え、学び合う子ども ③ねばり強くやりぬく子ども ④地域に学ぶ子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		49 人
								ボランティア登録者人数		51 人
								参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動		給食		休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		地域の有旅花壇へ定植(7月8日)			米作り 脱穀5・6年生(10月21日)			地域保護者連携防災教室(9月10日)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
【地域防災学習】 これまでの地震や地震の時に身を守る方法等についての講話を聴講 ・避難訓練(保護者参観) ・防災マップづくりに向けて撮ってきた危険箇所の写真を基に地区ごとの話し合い ○場所 信里小学校(支部児童会会場 教室・体育館) ○参加者 全校児童・保護者・地域の方 ○支援者 信州大学防災アドバイザー ○成果や効果 児童が身の回りの危険箇所・安全施設に目を向け、もしここで地震が起きたらどうすればよいかを考え合うことができた。さらに保護者や地域の方も参加したことで、昔の災害などに目を向けたり危険箇所を共有したりでき、それを自分の命を守る行動に結びつけることの大切さについて学ぶことができた。										

学校の概要		学校名	長野市	立 塩崎小	学校	学校長	関口 順子	児童生徒数	222 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	しおぎきッズ応援隊			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 7 人		
				学校評議員					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月10日、11月25日、2月17日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		塩崎地域委員会委員長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	ふるさと「塩崎」の心をたずね自らひらく子 ～「塩崎」を知り、自分の未来へ向かってすすんでいく子～										
地域と共有された育てたい子どもの姿	自分で考え表現(行動)できる子、目標に向かって粘り強く取り組む子、人・もの・ことのかかわりを大切にする子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3	地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		35 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○				参加者延べ人数		35 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解	○	託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	読み聞かせボランティア(毎週月曜日朝)			菌ちゃん野菜作り(5月)			集団下校訓練(7月14日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>・集団下校訓練に合わせ、PTAの役員の方や学校運営委員会(しおぎきッズ応援隊)の方に来ていただいて、各地区に分かれて子どもたちと一緒に歩いて下校をし、道路の歩き方や渡り方などをご指導いただいたり、危険個所の確認をしていただいたりした。子どもたちも緊張感をもって訓練に臨むことができた。</p> <p>・年度初めに、各クラスや学年に学習のための講師やボランティアの希望を募り、コーディネーター会に講師紹介をお願いしたところ、歴史、文化、音楽、書道、スポーツ、農業、工芸、など様々な分野の得意な地域の方を紹介していただくことができた。実際に、「菌ちゃん野菜づくり」、陶芸教室、クラブ講師、地域の歴史探検、米作り、などの学習に、地域の方が講師として携わっていただいている。地域の方に交流しながら教えていただくことを通して、子どもたちがより専門的な知識を広めたり、自分たちの地域の良さに気づいたりすることができた。</p>											

学校の概要		学校名	長野市 立 松代小 学校		学校長	三ッ石 誠司		児童生徒数	273 名																						
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																															
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																									
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある																							
				市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)																							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある																							
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある																							
名称		松代っ子を育む会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 3 人																					
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人																					
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		6月15日 2月16日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他																					
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校評議員																					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																															
学校教育目標		やさしく かしく たくましく																													
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・相手をおもいやり支えあえる子ども ・学び方を身につけ、ねばり強く追究する子ども ・自ら、すこやかな心と体を育む子ども 																													
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																									
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○																							
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○																							
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○																							
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数				ボランティア登録者人数		65 人																					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について								参加者延べ人数		40 人																					
地域学校協働活動の概要												登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		休み時間			
												清掃				ICT				学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
												土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)				遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)		○	
												人権教育				国際理解				託児											
												学校・家庭・地域の協働した取組例																			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																															
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																															
○ 舞踊真田節 本校では6年生が運動会で「真田節」を踊ることが伝統となっており、毎年、地域の講師の方から「真田節」の講習を受け、伝統ある踊りを教わっている。今年度は運動会だけではなく、4年ぶりに開催された「十万石まつり」や「真田信之松代入部400年記念事業」イベントでも堂々と演舞を披露した。郷土松代をより深く知り、伝統を受け継ごうとする責任感を育むことができた。																															


学校の概要		学校名	長野市立 清野小 学校		学校長	宮川 史枝		児童生徒数	31 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		清野っ子応援隊				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		育成会長		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)			
		地域コーディネーター		1 人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人					
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		6月10日、9月13日、11月2日、2月7日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		自ら学び友と考え とともにきたえ合い 未来に輝く清野っ子											
地域と共有された育てたい子どもの姿		発信する子ども かかわりあえる子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		1 人			
								参加者延べ人数		51 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会			
		清掃		○		ICT		○		学習ボランティア			
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携			
		人権教育		○		国際理解		○		託児		クラブ、部活動	
										給食			
										休み時間			
										総合的な学習の時間支援			
										○ コロナウイルス対策の消毒・清掃			
										○ 遠足・登山			
										体験学習			
										キャリア教育(職場体験を含む)			
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		大里白鳥の池保全活動(4月26日)				親子防災教室(9月13日)				おはなしばたけの読み聞かせ(10月6日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
学校のすぐ近くにある「大里白鳥の池」について、現5年生が昨年度地域ボランティアと清野地区土地改良区の方に話を聞き、水を抜いて様子を見た。「池の水をきれいにするためにはどうしたらよいか」話し合う中で「池にたまっているへドロを撤去する必要がある」と考えがまとまっていった。今年度地域ボランティアと清野土地改良区の方々の協力を得て、池の水を抜いた。池の水を抜くにあたり、住んでいた魚は近くの池や、地域の方の池へ移動を行った。へドロの撤去はPTAの方々にも協力を求めて全校で実行した。池の魚を移動したことにより、池にどのような変化が見られたのか、観察を続けている。へドロ撤去時にテレビや新聞の取材を受け、学校に児童が通っていない近所の方々からは「テレビで見ました。池の活動ががんばっていますね」と温かい声をかけられ、小学校の活動について理解を得ることができた。土地改良区の方、信州大学の先生、県環境保全研究所の方、市役所廃棄物対策課の方など様々な方の協力を要請し、池について専門的な知見を伺うことができ、子どもたちの疑問を解決し、考えを深めることができた活動となった。													

学校の概要		学校名	長野市	立西条小	学校	校長	馬場 広一	児童生徒数	64 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○	ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	西条小学校コミュニティスクール運営委員会	[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	4	人		
		学校評議員 西条財産区代表 宮野平自然の森管理委員会代表 育成会会長				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5/19 8/25 2/28	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民				
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	学校評議員長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	ふるさと西条を誇れる子ども やさしく かしく たくましく									
地域と共有された育てたい子どもの姿	ふるさとを愛する子ども ～ 西条のよさに触れる西条ならではの体験 ～ チャレンジする子ども ～ 活動の意義や意味を伝える取組 成功体験や思い出に残る取組 ～ つながりを大切にする子ども ～ 子どもを中心にした地域・家庭・学校とのつながり ～									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○
2	学校運営への必要な支援について				○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○
3	地域の実情や課題について				○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	4			協働活動に参加したボランティアの人数	40 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					参加者延べ人数			30 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育	国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	3・4年 この駒打ち体験(5/10)		4～6年 クラブ活動(6月～10月)		6年 地域学習【戌の満水】(6/21)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○ この駒打ち体験(3・4年生) 学校区内にある宮野平自然の森にて実施。往路は、3・4年生混合グループごとにオリエンテーリングをしながら徒歩で向かった。その頃現地では、財産区・自然の森管理委員・育成会の方々が、榎木を並べ、駒(きのこの菌の塊)を入れるための穴をあける作業をしていた。到着後、3年生と4年生がペアになり、榎木に駒を木づちで打ち付ける活動に取り組んだ。4年生が3年生に打ち方を教えたり、まだ駒が打たれていない穴を見つけて指示したりして協力して取り組んでいた。森の感謝祭での飯盒炊き同様、経験のある上級生がコツなどを伝えていく姿がこの駒打ち体験でも見られた。10月16日には、育成会主催のきのこ収穫祭が4年ぶりに実施され、収穫の喜びときのこ汁を味わうことができた。 財産区や管理委員の方は高齢の方が多いが、ある方は「子どもがいると何だか知らねえけど、足腰が動くかい」とおっしゃっていた。学びの場を地域に求め地域で取り組むことで、子どもは地域のよさや学ぶ楽しさを実感し、地域の方にとっては、子どもとかがかわることで生きがいを感じたり、西条の子どもへの思いを深める場となっている。										

学校の概要		学校名	長野	立 豊栄小	学校	学校長	塩原 孝茂	児童生徒数	79 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員	
名称		豊栄小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 民生児童委員、青少年育成委員、防犯協会会長、社会福祉協議会理事、老人クラブ会長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
		地域コーディネーター		1		人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	
人									
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		6月22日(木) 1月26日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
								地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		すすんで学ぶ子 ・ 心ゆたかな子 ・ たくましい子							
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・地域のよさを知り、地域を愛する心を持ち、地域の中で生きる自分を実感できる子ども ・学校や地域の環境をよりよくしようとする子ども 							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		
2		学校運営への必要な支援について			○		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
3		地域の実情や課題について			○		2		
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		
		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		15		人	
				参加者延べ人数		15		人	
地域学校協働活動の概要									
登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動	
清掃		ICT		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援	
給食		○		給食		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
休み時間									
土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	
遠足・登山		○		託児				遠足・登山	
キャリア教育(職場体験を含む)		○						○	
人権教育		○		国際理解		○			
学校・家庭・地域の協働した取組例									
		夏の特別教室 造形教室(8月25日)		生活科 やぎ小屋づくり(9月28日)		室内競技クラブ【バウンドテニス】(9月8日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
○夏休み明けに特別教室を開き、地域の方を講師に全校の子どもたちが地域の方とふれあいながら様々な体験活動する場を作った。開催したのは、協会の方のバウンドテニス、大工さんの木工教室、アーティストの方の造形教室、図工美術が得意な支援員の水彩スケッチ、コミュニティスクールの方の理科実験教室、保護者のフラワーアレンジメント教室。平日、活動に没頭し、日頃の教室では味わえない体験をすることができた。特別教室の講師との出会いが、その後の活動に発展し、学習活動が活性化することにつながった。 ・木工教室に参加した1年の児童が、学級の中核活動で飼育しているやぎの小屋を作るにあたり、講師の大工さんに、自ら協力をもとめて、大工さんに教えていただきながら小屋を作り上げることができた。 ・バウンドテニス教室の体験から「もっとやりたい」という児童の願いのもと、2学期から始まる室内競技クラブにバウンドテニスの回を2回取り入れた。講師の先生方も快く協力していただき、子どもたちがダブルスでゲームができるまで技量を高め、達成感を味わうことができた。									

学校の概要		学校名	長野市	立 東条小	学校	学校長	霜田 里美	児童生徒数	192 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	東条小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人	
				・東条子どもプラザ所長(学校評議員) ・地域ボランティア団体代表			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月 9日(木) 8月 24日(水) 2月 24日(金)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	かしこさ(知)、やさしさ(徳)、たくましさ(体)を備えた人間性豊かな児童の育成									
地域と共有された育てたい子どもの姿	○思いやりの心を持ち、明るいあいさつを交わせる子ども ○健康な心と体で、粘り強く取り組む子ども ○「ふるさと」を大切に、「ふるさと」を語る子ども				○できた、わかった、認められたと実感し、進んで学習する子ども ○「あいさつ」「返事」「靴そろえ」のできる子ども					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 21 人 参加者延べ人数 81 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
	学習ボランティア(11月1日)		総合的な学習の時間支援(6月15日)		遠足・登山ボランティア(10月17日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
理科「こん虫の育ち方(1)チョウを育てよう」の単元に合わせ、毎年3年生が、地域の方の指導を受けながら、国蝶「オオムラサキ」などの飼育活動に取り組んでいる。校内にあるエノキ2本に蚊帳をはり観察をする。4月にオオムラサキの里の方より、幼虫を5匹程度ずついただく。枯れ葉色、枯れ枝にも擬態し、見分けの難しい個体がやがて、緑色に変化、さなぎは葉そのもの。子どもたちは、継続観察を通して、蝶に対する思いも深まる。6月末から7月1週にかけて、松代町内5校の3年生が交流目的も兼ねて、オオムラサキの里を訪問する。国蝶がハウス内で乱舞する光景を観察する。1学期の期間、定期的な支援を受けられることにより、この活動が、理科学習を豊かにするだけでなく、松代学区の3年生が交流する機会にもなったり、地域環境の保全について知る機会にもなったり、キャリア教育にもつながるものとなったりしている。										

学校の概要		学校名	長野市 立 寺尾小 学校	学校長	林 明 美	児童生徒数	122 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある					
				市町村教委		自治会代表					
				公民館代表		PTA代表					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員					
				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		ボランティアと学校の情報交換会がある					
寺尾小学校コミュニティスクール運営委員会				学校評議員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称					学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 3 人				
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人				
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月9日(木) 2月2日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 学校職員(教頭及び教頭以外の職員)					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	【大きな幹になろう】 ○ねばり強がんばり抜く子ども ○思いやりのある子ども ○いのちを大切に、明るく活力ある子ども										
地域と共有された育てたい子どもの姿	知:根気よく学び追求する子ども 徳:相手の気持ちを考えて行動する子ども 体:心と体を鍛え、明るくたくましい子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4		協働活動に参加したボランティアの人数	45 人			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		参加者延べ人数	20 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	○	国際理解		託児						
  											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>遠足のボランティアでは、地域の「尼巖山・奇妙山トレッキングの会」の皆様や「チーム金井山」の皆様と協力を依頼して、毎年交流を続けている。具体的には、3・4年生の秋の遠足に同行していただき、事前の登山道整備や当日のルート案内などを行っていただいている。また、1・2年生の遠足では、地域の有志の皆様が同行を希望され、共に遠足を楽しみながら児童を温かく見守っていただいている。</p> <p>トレッキングの会の皆様は、学校職員との事前の準備もきめ細やかに行っていただき、夏休み中の下見に付き添っていただいたり、直前の登山道の安全確保やチェックを行ったりしていただいている。</p> <p>学校としては、地域の皆様と交流を深めながら自然を満喫し、安全に遠足を実施することができている。一方で、トレッキングの会の皆様も子どもたちとの活動でいつも元気をもたらしていると感じておられ、双方にとって多くのメリットがある取り組みとなっている。</p>											

学校の概要		学校名	長野市	立 綿内小	学校	学校長	加藤 善彦	児童生徒数	313 名										
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																			
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について														
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある											
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)											
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○										
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○											
名称		綿内コミュニティ			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいますか(それぞれの人数を記入)											
					ボランティア代表 幼保育園長 こどもプラザ代表 育成会役員 民生児童委員			地域コーディネーター 1 人											
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人											
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月11日(水) 2月8日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)											
								地域住民											
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)											
								区長会副会長											
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																			
学校教育目標		天王山の風になろう																	
地域と共有された育てたい子どもの姿		若徳を愛し 健全で 思いやりのある 若徳人																	
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況														
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○										
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。												
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)												
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		90 人										
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		参加者延べ人数		1600 人										
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		休み時間			
		清掃				ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)				遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育				国際理解		託児											
学校・家庭・地域の協働した取組例																			
		登下校の見守り(通年)				クラブ活動(6~10月)				5年生お米作り(5~11月)									
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																	
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																			
「登下校時の見守り」 子ども達が安全に登下校できるように、年間を通して見守り活動に取り組んでいる。スクールガードボランティアの方は、毎日、地域周辺を見守ってくださり、安心して登下校ができている。また各地区では、スクールガードパトロールとして当番制で決められた場所に立ち、子ども達の安全を見守りながらあいさつ運動も進めている。特に今年度からは、下校時は児童センターや児童プラザの利用で子ども達の往来が少ないことからできるだけ登校時に立つことを確認して取り組んでいる。さらに、PTAや育成会・地域子ども見守り隊とも協力をして、あいさつ運動を広げることも含めて時期的な取り組みもしている。実際に感じたことや子ども達の様子は記録用紙やオンラインシステムを使って報告していただき、今年度は学校だよりで毎月代表的な意見を取り上げて地域へも回覧として発信をしている。子ども達の姿を知っていただいたり、地域の方々に見守られていることを保護者が実感したりする機会にもなっていて、地域のまとまりを築く活動の一役を担っている。																			

学校の概要		学校名	長野市	立川田小	学校	学校長	西沢 和彦	児童生徒数	167 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○	ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	○	公民館代表		PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	川田小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 学校評議員 学校支援ボランティアの代表 育成会長 児童委員 子どもプラザ館長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	5月19日	8月3日	11月15日	3月6日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	その他
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	学校評議員
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	かしく あたたく たくましく～学力を磨く、心を磨く、体を磨く								
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域を知り、地域を好きになり、地域に誇りを持ち、その中で生きている自分に自信が持てる子ども 学校での学びと実社会・実生活とのつながりを実感することで意欲的に学ぶ子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	36 人	
							参加者延べ人数	76 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○ キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
									
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
○ 学校支援ボランティア集会 本校は、今年度より本格的にコミュニティスクールを立ち上げ、学校運営委員会を通して学校と地域が双方向的に連携しながら川田の子どもを育てる仕組を整えた。そのスタートに関係者(学校職員、学校運営委員、ボランティア)が一堂に会して、コミュニティスクールの目的や内容を共有したり、川田の子どもに願う姿や育てたい力を語り合ったりする機会をボランティア集会として企画した。そこでは「学校に任せるのではなく、地域全体で子どもを支えていきたい」「大人同士も楽しんで学べるコミュニティでありたい。その姿を見て児童がもっと学びたいと思えるようにしたい」「子どもが川田に生まれて良かったと思えるような活動をしたい」等の意見が出され、そのような地域の方々の学校に寄せる熱い思いが、本校の職員が総合的な学習や生活科(ふるさと学習)に取り組む原動力となっている。また、出された意見から川田の子どもに願う姿がさらに具体化、焦点化され、学校職員にとっては教育活動を見直すきっかけともなった。この企画を通して、学校と地域が連携しながら川田の子どもを育てる地域連携教育の重要性を関係者で共有・再確認し、今年度の見直しを持つことができた。									




学校の概要		学校名	長野市	立保科小	学校	学校長	武田 文夫	児童生徒数	98 名										
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																			
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について														
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある											
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)											
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			○											
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○			学校長・教頭以外の学校職員												
名称		保科小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 保育園園長 若穂中学校長 若穂隣保館代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)											
		地域コーディネーター		6			人												
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)					人												
会議開催数(予定)		6		回		今年度開催日(予定) 5月11日 6月8日 7月14日 8月25日 11月18日 2月6日 ※本年度は運営委員会立ち上げのため、必要に応じて随時開催予定			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)										
									地域住民										
									具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)										
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																			
学校教育目標		「温かく 正しく たくましく」 ～温かな心を持ち、正しく考え、たくましく生きる子ども～																	
地域と共有された育てたい子どもの姿		1 温かな心で相手を思う人 2 学力向上・体力向上を目指し続ける人 3 学級、全体、地域とつながる人																	
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況														
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○							
2		学校運営への必要な支援について			○		2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○							
3		地域の実情や課題について			○		3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○							
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4			協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 61 人 参加者延べ人数 16 人							
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○														
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		休み時間			
		清掃				ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウィルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)				遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		○		託児											
		学校・家庭・地域の協働した取組例																	
		4年太郎山登山(5月10日)				クラブ活動(7月4日)						5年田んぼ脱穀作業(10月20日)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																			
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																			
5年生の総合的な学習の時間で、地域の方を講師にお招きし、5月より米作りをおこなっている。児童が教室にて保科地域で、今と昔の米作りについてどのような違いがあるのかを調べ、地域の方から昔ながらの米作りを教えていただき、実際に田んぼで児童が昔ながらの米作りの技法を体験しながら米作りをおこなってきた。収穫した米を用いて、今後講師の方をお招きし、収穫祭をおこなう。そのために、自分たちの米をどうやって講師の方に食べていただくか、また自分達が食べるのかを学級全員で考え、計画を進めている。																			

学校の概要		学校名	長野市	立 昭和小	学校	学校長	平井 八重子	児童生徒数	648 名							
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について											
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある								
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)										
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換がある										
		○		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある										
昭和小学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人							
名称							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人							
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)	6月27日	11月4日	2月	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)								
							公民館職員(公民館長・公民館主事)									
							具体的な役職(他を選択した場合は立場・役職を記入)									
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																
学校教育目標		ふれあい学ぶ 昭和っ子 自ら学び 考える子【課題解決力】 認め合う やさしい子【共生の力】 命を守り 身心を鍛える子【命の尊重と健やかな心身】 [生きて働く知識技能の習得][道の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成][学びを人生や社会に生かそうとする力の形成]														
地域と共有された育てたい子どもの姿		・健全に成長する子ども ・友だちと関わりあって育つ子ども ・家族や地域の方とふれあう子ども														
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況											
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○							
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○							
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)									
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数									
5 教職員の任用に関する一般的な要望について							ボランティア登録者人数		16 人							
							参加者延べ人数		441 人							
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
		清掃			ICT			学習ボランティア		○	総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動			子ども食堂(こどもカフェ)との連携			防災学習(避難訓練)		○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解			託児		○							
学校・家庭・地域の協働した取組例																
		田植え(6/9)			脱穀(10/14)			登下校見守り(毎日)								
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)														
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																
<ul style="list-style-type: none"> ・5学年の稲作で、昨年度まで借りていた田んぼが宅地造成のために借用できなくなったが、地域の さんに新たに田んぼをお借りし、代掻き・田植え・稲刈り・脱穀をそれぞれご指導いただき、お手伝いいただいた。 ・子どもたちは、米が食べられる状態になるまでに様々な工程があることを知り、自分からそれらの工程について自学ノートに詳しく調べる子が出てくるなど、進んで学習活動に取り組む姿が見られた。 ・子どもたちは、消費者の観点だけでなく、生産者の観点からもものごとを見たり、考えたりできるようになってきている。 																

学校の概要		学校名	長野市	立川中島小	学校	学校長	石神 王貴	児童生徒数	543 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	川中島小コミュニティスクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	0 人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	7月19日、2月16日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	・日々新たに生きる子どもと教師									
地域と共有された育てたい子どもの姿	・地域で見守り育てられ、地域でいきいきと活動する子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について					2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 27 人 参加者延べ人数 181 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		桃の摘果作業(5月25日)		稲刈り(9月30日)		読み聞かせ(10月7日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組の中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)										
・3年生の総合的な学習の時間では、「私たちのふるさと川中島」の学習に取り組み、自分たちの身近な地域に目を向けて取り組んでいる。その中で、川中島の代表的な生産物である「日本一の川中島白桃」に目を向け、学校近隣の桃畑で桃の生産に関わる体験や等をさせていただいている。具体的には、摘果、袋かけ、収穫等、をさせていただいた。毎年恒例となっており、児童は3年生になると桃の活動ができると楽しみにしている。今年度の桃は大きく甘く成長し、子どもたちも地元の特産を誇りに感じ、新聞などを作成した。こうした活動に取り組むことから、自分たちの住んでいる町の産業や農業に目を向けるとともに、地域の方から支えられている実感を持つことにつながっている。										

学校の概要		学校名	長野市立 青木島小 学校		学校長	野澤 博文		児童生徒数	636 名												
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																					
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について															
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある												
			市町村教委			自治会代表			○ ボランティアの団体がある(組織化されている)												
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○			公民館代表			○ PTA代表												
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員			○			○ ボランティアと学校の情報交換会がある												
			学校長・教頭以外の学校職員			○			○ ボランティアの方を対象とした研修会がある												
名称		青木島の子どもを語る会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人											
					<ul style="list-style-type: none"> 青木島町子ども育成会代表 青木島地区社会福祉協議会代表 主任児童委員代表 びーぶっく代表 学校評議員 見守り隊代表 青木島の子どもを支える会代表 			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人											
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)			第1回 5月2日(月) 中止 第2回 10月7日(金) 中止(10月28日校内音楽会を参照/11月22日全校参観日参観予定) 第3回 2月2日(水) 開催予定			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)											
										公民館職員(公民館長・公民館主事)											
										具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)											
										東北公民館長											
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																					
学校教育目標		天賦の能力の開花																			
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 認め合い、共に育つ子ども 地域の「人・もの・こと」に積極的に出会う、ふれあう。 季節や自然を生かして学ぶ。 																			
		<ul style="list-style-type: none"> 本物にふれる、体験する。 幼保小中高で交流する。 地区の行事へ参加する。 																			
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況															
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○			1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。										
2		学校運営への必要な支援について			○			2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。										
3		地域の実情や課題について			○			3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)										
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○			4			協働活動に参加したボランティアの人数										
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○			ボランティア登録者人数			570 人										
								参加者延べ人数			把握できず 人										
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食				休み時間	
		清掃				ICT				学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウィルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携				防災学習(避難訓練)				遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育				国際理解				託児											
		学校・家庭・地域の協働した取組例		5年 田植え5月・稲刈り9月・脱穀10月		地域の方の登下校見守り隊(毎日)		学習活動ボランティア(通年)													
代表的な協働した活動の取組例																					
(上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																					
<p>・コロナ禍のため、控えざるを得なくなっていた、地域の方による学習ボランティアを徐々に再開することができた。一学期に全6回行ったクラブ活動では、地域のクラブ講師6名が来校し、工作やハンドベル、バルーンアートなどを教えてくださった。また、読み聞かせボランティアの活動も4年ぶりに再開した。放送での読み聞かせとなったが、日頃読み聞かせてくれている職員とはまた違った方による読み聞かせの時間は子どもにとって新鮮で、楽しみにしながら本に親しめる時間となっている。さらに、参観日の学級懇談会に多くの保護者が参加できるよう、その間子どもの面倒をみていただく「お預かりボランティア(支える会)」も2年ぶりに再開となった。1時間弱、宿題の面倒、折り紙や工作などをして子ども達が楽しく安全に過ごせるよう、見守っていただいている。このような活動を通して、地域の方々が学校に足を運ぶ機会が増え、やりがいをもって関わっていただいているとともに、子ども達も「支えられている自分」「地域の中の自分」を実感できるよい機会となっている。</p>																					

学校の概要		学校名	長野市	立 下氷鉋小	学校	学校長	島立 仁美	児童生徒数	589 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
名称	コミュニティスクール		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人		
			PTA歴代会長 地域住民 祖父母の会前会長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6/10 1/25		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校評議員		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	共にゆかん 肩組み交わして 学びの道を									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・心豊かな人間性や自立できる強さと能力を持つ子ども ・あいさつができる子ども ・ふるさとを大切にできる子ども 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		80 人
								ボランティア登録者人数		50 人
								参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	○	休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児	○				
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	ホテル幼虫放流(4/12)		民舞について学ぶ(5月)		3年ふれあい教室(11/2)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○本校は武田vs上杉で有名な川中島の戦いの地にあり、八幡原史跡公園は本校の学区である。例年4年生は運動会で、表現運動として地域の伝統民舞「霧の川中島」を舞っている。その学習では、川中島の戦いや踊りについて、地域の方から教わっている。今年の4年生も歴史に思いを馳せながら、この地で起きた川中島の戦いについての話を聞いた。武田・上杉方の2つに分かれて踊る舞の所作1つ1つや、途中に出てくる詩吟にも意味があることを教わった。動きや詩の意味を理解し舞う姿は大変力強く、古典的な民舞ではあるが、気持ちのこもった表現ができた。地域の伝統や歴史を子どもたちなりに感じていることがうかがえた。										

学校の概要		学校名	長野市	立三本柳小	学校	校長	宮本 由希子	児童生徒数	687 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		
名称		三本柳小コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 地域住民、ボランティア代表、子どもの居場所づくりNPO法人代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		
		地域コーディネーター		1		人				
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)						人		
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月24日、10月21日、2月6日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
								社会福祉協議会職員		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		智仁勇								
地域と共有された育てたい子どもの姿		水と緑と陽光に愛され、人のやさしさのわかる子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		40 人		
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		4		ボランティア登録者人数		2300 人		
						参加者延べ人数				
地域学校協働活動の概要										
登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		
清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		
土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		
人権教育		○		国際理解		○		託児		
								クラブ、部活動		
								給食		
								休み時間		
								総合的な学習の時間支援		
								コロナウイルス対策の消毒・清掃		
								遠足・登山		
								防災学習(避難訓練)		
								キャリア教育(職場体験を含む)		
地域学校協働活動の概要										
		さんぽんやなぎ食堂あつとすくーる(7/27~7/29)			クラブ活動(6/30、9/22、10/13)			学校林整備とクラフト活動(2学期)		
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
本校は市街地にありながら、その校地は豊かな学校林に囲まれ、季節の花や緑、紅葉など美しい自然に恵まれた環境の下で学校生活が営まれています。この学校林は、開校当時の在校児童全員が植樹をし、代々受け継がれる中で木々が成長し、豊かな林を形成してきました。しかしながら、開校から30年近くの年月を経る中で、木々の間が込み合い、本格的な手入れの必要性が増していました。そこで、昨年度からNPO法人フォレストワーク様に指導をいただきながら、高学年児童が学校林の整備活動を行い、手入れをすすめています。さらに、整備活動等によって出された間伐材等を利活用して行うクラフト活動にも取り組んでいます。NPO法人フォレストワーク様に用意していただいた輪切りにした材をもとに、校内で採集した松ぼっくりやどんぐり、小石、また、各学年で用意したビーズや綿なども使い、一人ひとりが自由な発想で、置物やキーホルダーを制作しています。開校当時の在校児童が様々な思いや願いを込めて植樹した木々を活用し、現在の在校児童がそれぞれの思いや願いをこめて制作することを通して、三本柳小学校への思いを深めるとともに、学校林など代々大切に受け継がれてきたものを未来に向けて継承していこうとする思いがふくらんでいます。										

学校の概要		学校名	長野市立 真島小 学校		学校長	加藤 好章		児童生徒数	108 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		真島っ子応援隊				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人			
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		6月23日(木) 1月25日(水) 予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		CSコーディネーター			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		○明るい子 ○思いやりのある子 ○やりぬく子											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子は地域で育てるという理念のもと、地域で育つ子どもたちに伝統・文化を継承していきたい。 ・地域の一員としての明るい挨拶のできる子ども、地域の行事に積極的に参加する子どもの育成。 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 17 人		参加者延べ人数 24 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃 ○		ICT ○		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		クラブ活動[地域講師](6/27)				読み聞かせ[ボランティア](10/13)				リンゴ栽培学習[収穫](11/4)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
○ 真島地区は、信州リンゴ発祥の地である。本校では毎年、3年生がリンゴを栽培している地域の方から栽培のことを学んだり、実際にリンゴ畑に行き花摘みや袋かけ、収穫するなど主体的に体験したりすることを行っている。この学習や体験を通して、ふるさと真島地区の地域の特徴や仕事をしている人の願いを感じることができた。そのことで児童が「自分も将来、真島地区を支えていける人になりたい」という願いをもつことにつながっている。													

学校の概要		学校名	長野市 立 七二会小 学校	学校長	駒津 美恵	児童生徒数	26 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		七二会小・中学校コミュニティスクール		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ・長野市教育委員会小中校連携推進ディレクター ・七二会支所長 ・保護司 ・七二会地区住民自治協議会事務局長 ・七二会駐在所長 ・七二会地区主任児童委員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	
						地域コーディネーター 1 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人	
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		令和4年6月1日(水) 令和5年2月8日(水)	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) CSコーディネーター	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		「心豊かに よく学び やりぬく子ども ～かしこく やさしく たくましく～」					
地域と共有された育てたい子どもの姿		子どもたちがふるさと七二会の人々・自然・社会・文化等に触れながら、自らの課題を見つけ、見通しを持って課題に取り組む姿勢を育成するため、地域を知ることやこの地域でしか味わえないこと、地域や学校のよさを感じられる学習や体験活動を地域ボランティアの皆さんの協力を得ながら計画し、実践する。					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 30 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 70 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
						○ コロナウイルス対策の消毒・清掃 放課後教科・体験学習	
						○ 防災学習(避難訓練) 遠足・登山 ○ キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		さつまいもの苗植え(5月17日)		花壇の改修作業(6月16日)		稲刈り体験(10月11日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>・本校創立120周年記念事業の一環として子ども達と教職員、保護者、地域が共に手を携えながら七二会小学校を盛り立てていこうとする活動が位置づけ、これまでの農業体験以外にも様々な体験活動(木工体験、花壇の改修、蚕灯籠づくり等々)を実現させることができています。</p> <p>・3年～6年の米作り体験活動では、田植えや稲刈りの体験だけでなく、筋蒔きから草取り、脱穀、精米などの一連の流れを学ばせていただいたことで、一握りのお米ができるまでの過程の大変さと尊さを実感することができた。また、お借りした畑では、全校児童を対象にさつまいもの苗植えについて指導していただき、水やりの方法、畑の管理、収穫までの見守りなど子ども達が継続的に世話をする意識を持続させることができた。</p> <p>・さつまいもの苗植えや収穫体験など、全校縦割り班での活動をととして、異学年交流が深まり、高学年の子が低学年の子にやさしくアドバイスしたり手本を示したり導いたりしている姿が多く見られた。</p> <p>・これらの体験活動をととして、実体験の機会を得られるだけでなく、心を揺さぶられる大きな学びの場となっている。また、地域の方々と一緒に活動する中で、地域の方々と親しくなり、ありがたみを実感し、感謝の気持ちを表現したり、地域の行事等に積極的に参加しようとする子どもが増えた。</p>							

学校の概要		学校名	長野市 立 信更小 学校	学校長	蓑輪勝枝	児童生徒数	19 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表	
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員	
信更学校運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	地域住民		地域コーディネーター		3		人
			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月9日、2月7日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
				学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標	未来を創る信更の子 「夢を描く」「夢をつなぐ」「夢に向かう」						
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと信更への誇りと愛着を深める ・自律力を高める ・多様な人とより良い人間関係をつくる 						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。
2	学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。
3	地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		○		38		ボランティア登録者人数
				60		参加者延べ人数	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)
	人権教育		国際理解	○	託児		給食
						休み時間	
						コロナウイルス対策の消毒・清掃	
						遠足・登山	
						放課後教科・体験学習	
						キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		クラブ活動(年6回)		米作り(5月～10月)		全校遠足(11月2日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>・全校遠足を公民館行事「ふるさとウォーキング」と共催で行っている。更府小と信田小が合併した年から継続して行っており、今年で7回目となっている。毎年両地区の中から目的地を選定し、地域の方から自然や歴史文化を学び、信更地区に愛着を持つ機会となっている。また、児童と地域の方が一緒に歩いたり、レクリエーションで交流したりすることで、地域の方とふれあいながらコミュニケーション能力を養う機会ともなっている。本年度は十一面観音菩薩立像を見に行ったり、笹平ダムへ行ったり、地域の方や東京電力さんの話を聞くことを通して地域の文化を知り、地域を大事にする気持ちを高めることができた。また、多くの地域の方たちに日々、支えていただいていることを改めて感じ、感謝の気持ちを伝えることができた。</p>							

学校の概要		学校名	長野市 立 豊野西小 学校	学校長	小野 英子	児童生徒数	328 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表	
		○		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○	
		○		学校長・教頭以外の学校職員		○	
豊野西小学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		地域住民		地域コーディネーター		2 人	
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月23日 11月2日 (2月8日)	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						公民館職員(公民館長・公民館主事)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		克己 がんばりぬく 連帯 たすけあう 探求 かんがえぬく					
地域と共有された育てたい子どもの姿		目標に向かってやりぬく子 自分も相手も大切にする子 自分で考え、進んで学ぶ子					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 25 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 70 人	
地域学校協働活動の概要		○		読み聞かせ		児童会、生徒会	
		○		クラブ、部活動		給食	
		○		ICT		学習ボランティア	
		○		総合的な学習の時間支援		給食	
		○		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	
		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	
		○		人権教育		国際理解	
		○		託児		託児	
		○		書写指導(6月30日～通年)		防災教育(10月19・25・28・11月1日)	
		○		クラブ活動(6月～全5回)		クラブ活動(6月～全5回)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
○防災教育についての取り組み ・令和元年台風19号より3年が経過した。昨年度より豊野三校で共通した防災教育を体系化していく取り組みを進めている。本年度は豊野町住民自治協議会の後藤つか沙さんに防災教育の外部講師を依頼し、今年度は3～6年生の8クラスで防災教育の授業を実施することができた。 ・子どもたちは当時の被害の現状を写真を見比べて水害の状況を再認識した。タブレットでハザードマップを調べ、各自の家の危険度を確認し、自分がおかれている状況を確認した。これらの活動を通して、一人一人が自分のこととして考えることができたと共に、防災に対する備えの必要性をより強く感じ、自分の命は自分で守るという意識にもつながる学習となった。 今後各家庭のマイタイムラインの作成について、学年の実態に応じて行っていく。							

学校の概要		学校名	長野市	立 豊野東小	学校	校長	竹内 由紀	児童生徒数	139 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員			ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	豊野東小学校コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 同窓会長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
			地域コーディネーター		1		人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月、11月、2月			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他		
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			同窓会長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	かしこく やさしく たくましく										
地域と共有された育てたい子どもの姿	よく学び、よく遊び、よく働く子 ふるさと豊野から学び、ふるさと豊野を愛する子 夢や希望を持ってがんばる子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○	
2	学校運営への必要な支援について				○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○	
3	地域の実情や課題について				○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	4			協働活動に参加したボランティアの人数	36 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4			参加者延べ人数	60 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育	○	国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		クラブ活動(6~11月)・自由研究勉強会(6/21)				防災学習(R4.7月)				読み聞かせ(通年)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
本校ではすべてのクラブ活動で地域ボランティアに講師を依頼している。今年は以下の8つのクラブを開設し、4~6年生が6月から活動している。 ①おもしろ工作 ②昔の遊び ③お花 ④手芸 ⑤理科 ⑥囲碁・将棋・ボードゲーム ⑦卓球 ⑧室内スポーツ 子どもたちは普段の授業とは違った内容の活動に楽しんで取り組むことができています。 また、今年度は6月にクラブ活動講師による「夏休み自由研究勉強会」を新たに企画、実施した。「自然科学」「化学」「機械工学」の3分野で、講師の話の聞いたり実験を体験することで子どもの興味関心を自由研究に結び付けることをねらい、好評であった。											

学校の概要		学校名	長野市立戸隠小学校			学校長	小山 勲		児童生徒数	79 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		戸隠コミュニティスクール				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
		主任児童委員 保育園園長 保育主任 保育園保護者代表 県立高等学校教頭						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月26日(木) 2月9日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		とがくしっこ応援団長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		と 友だちと仲良くする子[共生] が 学習に進んで取り組む子[自立] く くじけず、粘り強く取り組む子[探究] し しっかり挨拶のできる子[社会性]											
地域と共有された育てたい子どもの姿		思いやりを持って、多様な他者と力を合わせて取り組む子(協働) 心身共にたくましく、粘り強く取り組む子(課題適応能力:言語能力、情報活用能力、メタ認知能力) 戸隠を愛し、自分の良さを見つめ、戸隠の未来を考えることができる子(自己有用感)											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 35 人		参加者延べ人数 101 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について													
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		○ クラブ、部活動		○ 給食		○ 休み時間	
		清掃		ICT		○ 学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○ 防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		○ 託児							
													
		戸隠の日①森林体験学習(6月10日)		五斎神社鳥居立替見学(8月23日)		コアキッズ体操(10月5・6日)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
心身ともにたくましく、粘り強く取り組む子の育成を目指し、10月26日(水)に行われる戸隠小学校マラソン大会に向けて、自分の走力アップ、体力アップ、体づくりへの気持ちを高めていくことを目的に、朝の時間に、JCCAマスタートレーナーの資格をもつとがくしっこ応援団長を講師に迎え、コアキッズ体操に取り組んだ。簡単で覚えやすい動きでありながら、体幹を鍛える運動で、児童に継続して取り組ませることができる体操であった。朝のすきま時間や日々の体育の授業に取り入れ、体幹を鍛えつつ、マラソンに取り組むことができた。音楽会で、体が傾かず、まっすぐ立つ児童が増えたり、マラソン大会で力強い走りをする児童が増えるなど、地域の方の教育力を取り入れ体づくりをすることができた。													

学校の概要		学校名	長野市立 鬼無里小 学校	学校長	久保田 聡	児童生徒数	18 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
				市町村教委		○	
				自治会代表		○	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○	
				PTA代表		○	
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	
				学校長・教頭以外の学校職員		○	
名称		きなさの学び舎運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)	
				長野市役所鬼無里支所 民生委員 住民自治協議会スポーツ推進員		地域コーディネーター 3 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		実施 5月11日(水) 予定 11月、2月	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		あたたかな心で たくましく 共に学び続ける子					
地域と共有された育てたい子どもの姿		＜学校の姿勢＞小・中一丸となり、自立して生きる力をはぐくむ					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 36 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 21 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃 ○		ICT ○		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
				クラブ、部活動		給食 ○	
				総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
				防災学習(避難訓練)		遠足・登山	
						休み時間	
						放課後教科・体験学習	
						キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		登校の見守り(通年)		森林間伐体験(6/10)		読み聞かせ(毎月)	
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>県の林務課や市の森林いのしか対策課の皆さんに指導していただき、地域ボランティアさんに協力していただいて実施しました。縦割り班で協力して間伐して30cm程度に切り分け、薪にしました。この薪は学校の薪ストーブで燃やすことで環境について考えます。作業の仕方だけではなく、森林を手入れすることの大切さや、環境保全の役割についても教えていただきました。帰り道でも、林道脇の動植物について様々なことを興味深く教えてもらいました。地域の産業である林業について体験的に学び、地域の自然環境の素晴らしさを学び、環境について考えることができました。</p>							

学校の概要		学校名	長野市 立 大岡小 学校			学校長	佐藤 俊彦		児童生徒数	13 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	『大岡小・中学校応援団 縁賀和』運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
					学校評議員 大岡ひじり学園長 公募・推薦委員				地域コーディネーター	1	人	
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)	5月13日(金) 12月上旬 3月上旬		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		大岡子どもプラザ施設長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		豊かに感じ、たくましく生きぬく大岡の子ども										
地域と共有された育てたい子どもの姿		かしこく…自ら進んで学ぶ子ども やさしく…思いやりのらう優しい子ども たくましく…よく遊び、粘り強くやりぬく子ども ふれあう…大岡の人やものにふれる子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2 学校運営への必要な支援について		○										
3 地域の実情や課題について		○				2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて						3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						4		協働活動に参加したボランティアの人数		35	人	
								ボランティア登録者人数		90	人	
								参加者延べ人数				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		クラブ、部活動		○ 給食		休み時間	
	清掃		ICT		○ 学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウィルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○ 防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
		大根プロジェクト2022(8/25)		森林体験学習(10/7)		自然体験クラブ(9/6)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
本校では、豊かな大岡の自然と親しみ、自然を大切にすることを目的としたさまざまな活動を、年間通して地域の皆さんと共に行っている。その中の一つが「森林体験学習」である。この学習は、みどりの少年団活動の一環として、聖山地区にある推定樹齢300年の大きなぶなの木(母なるぶなの木)を訪れ、ぶなの木の保全活動に携わる地域の方々や、県林務課、市森林農地整備課の方々に講師となっただき、体験活動などを実施するものである。今年度は、雨天での実施となったが、ぶなの木までの往復の道のりの中で、自然を使った昔の遊びや、道端に生えているきのこの名前を教わったり、母なるぶなの木の側に生えている幼木を観察したりした。また、屋内に移動して、「大岡の自然を守るために自分たちにできること」について地域の皆さんと意見交換をした。子ども達からは「木を好きになる」「ゴミを拾ったり、根っこのまわりの雑草をとったりする」「学んだことを、お家の人や友だちに伝える」などの意見が出された。地域の方々からは専門的な立場からのアドバイスをいただくことができ、子ども達は、小学生でも自然を守るためにできることが意外と多いことに気づくことができた。												

学校の概要		学校名	長野市 立 信州新町小 学校	学校長	清水 直人	児童生徒数	65 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表	
		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員	
						ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
		篠ノ井高校犀峯校副校長、信州新町民生委員主任児童委員、交通安全協会信州新町支部長、信州新町商工会長、学校支援ボランティア				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		5月26日(木) 8月26日(金) 10月31日(月) 2月10日(金)	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) 前信州新町美術館館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		かしこく やさしく たくましく					
地域と共有された育てたい子どもの姿		・地元(信州新町)に誇りをもってほしい。 ・地域の活動に関心をもって積極的に関わってほしい。					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 60 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 50 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解 ○		託児	
		学校・家庭・地域の協働した取組例		クラブ、部活動		給食 ○	
				総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
				防災学習(避難訓練)		遠足・登山 ○	
						休み時間	
						放課後教科・体験学習	
						キャリア教育(職場体験を含む) ○	
							
		犀峯校生との春の遠足(4/28)		灯籠作り(7/23)		5年米作り(9/22稲刈り)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
7月の灯籠作り体験は、3年ぶりに信州新町商工会の方と信州新町中学校の生徒と一緒に実施できた。灯籠の作り方がわからない子は地域の方や中学生に教えていただいたり、友達と協力しあったりしながら制作していた。この日に準備した灯籠は8月15日の「ろうかく湖灯籠流し」で使用され、多くの児童もその地域行事に参加し楽しんだ。地域行事に触れ、それに携わる方との交流を通して、地域の伝統や文化、地域の方々の思いなどについて、児童一人一人が主体的に関われるよい機会となっている。感染症の影響でできずにいた地域の方との協働活動が、少しずつできるようになってきている。							

学校の概要		学校名	長野市	立中条小	学校	学校長	甘利 哲夫	児童生徒数	43 名							
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について											
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある								
		市町村教委		○		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティスクール)		○			公民館代表		○		PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称		中条コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人					
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)									人					
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月9日・12月16日・2月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)						
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																
学校教育目標		なかよく 徳(みんなとできる子) かしこく 知(ひとりのできる子) じょうぶな子 体(命を大切にできる子)														
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことや経験をもとにして自分や友の思いや願い、考え方を語り合い、聴き合うことを通じて学びを深めていく姿。 ・多様な集団の中でも自分の考えを積極的に、わかりやすく表現し、自己の力を発揮しようとする姿。 ・「ふるさと中条」に込められた中条地域の思いに誇りをもち、中条で学んだことをもとに自らの生き方を考え、伸ばそうとする姿。 														
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況											
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○							
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○							
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○							
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	15 人						
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			5		参加者延べ人数		30 人							
地域学校協働活動の概要																
登下校の見守り		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食	休み時間			
清掃		ICT		○		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)		
人権教育		国際理解		○		託児										
学校・家庭・地域の協働した取組例																
		田植え(5月30日)			西山大豆種まき(6月17日)			ジャンボカボチャコンクール参加(9月16日)								
代表的な協働した活動の取組例																
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																
<p>毎年5年生が、地域の方の指導を受けながら米づくりに取り組んでいる。田植えも全て手植えで行い成長を見守ってきた。8月7日の水害で稲が倒されてしまったが、講師の方の助言を受けて追肥等の対応をすることで、収穫することができた。夏休み明け田んぼが心配だったと話す児童が多くいて、稲作りに心を寄せている様子が見られた。</p> <p>2年生は、中学生、高校生と共に西山大豆の栽培に取り組んでいる。地域の講師の方に指導を受けつつ、草取りなどの世話を継続的にやってきた。収穫した大豆を使ってのきな粉つくりや豆腐作りなども地域の方に指導を受けながら、中条の食の伝統について体験していく予定。</p> <p>3・4年生は、ジャンボカボチャの栽培を地域の方の指導を受けつつ行った。今年はジャンボカボチャコンクールが30回目を迎え節目となる年ということで、カボチャが大きく成長するように肥料や食害からの管理を地域の方に指導を受けつつ行った。ジャンボカボチャコンクールに出品することができた。自分たちが育てたカボチャよりもはるかに大きなカボチャを目にして、子どもたちはどうやったらこんなに大きくなるんだろうと興味を深めることができた。</p>																

学校の概要	学校名	信州大学教育学部附属長野小	学校	学校長	北澤 嘉孝	児童生徒数	445 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	PTA代表	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人
会議開催数(予定)	回	今年度開催日(予定)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)				
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標	共に在る						
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域と共に在ることを願い、地域や保護者の方々と自らかかわっていく子どもたち						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について						
3	地域の実情や課題について			2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	75 人
						参加者延べ人数	50 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○ コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	国際理解	託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>・3年1組では、出荷をする豚の飼育(養豚)を行っている。豚の手配を県畜産試験場の方に依頼をし、夏休み明けから、飼育をはじめたにあたっての指導はもちろん、豚の成長具合を見にも来てくださった。その日が10月13日であり、子どもたちは、夏休み明けから飼い始めた豚が順調に育っていることを伝えられると安心しつつ、「ぼくたち私たちが、大事に育てます」と新たな決意を伝えた。豚を介して、畜産にかかわる専門の方にも出会い、畜産の視点から生き物を飼育することの意味、命をいただくことの意味を知ることにも繋がっている。さらに今後は、育てきた豚がどう食品になるのかといった流通や食品加工にも目が向いていくことが期待できる。</p> <p>また、本校では各学級中核活動を据え、生活科と総合的な学習の時間を中心に活動を進めている。冒頭で紹介した豚の飼育をはじめ、ニトリ、山羊、アヒルなど生き物の飼育、アサガオやお米といった植物の栽培、石や陶芸の探究など、それぞれの活動を通じて出会う、地域の方、専門の方から、多くのことを学んでいる。その道のプロになることではなく、人との出会いをきっかけに、自らの生き方を見つめる機会にも繋がっている。</p>							

学校の概要		学校名	須坂市	立須坂小	学校	学校長	竹村 信之	児童生徒数	218 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティスクール)		○			公民館代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		くぬぎの森学園運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
					児童センター長 市立図書館長 地域総合支援センター長 長野養護学校長			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月6日 11月16日 3月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		自ら学び続け、共生社会を主体的に生きる児童の育成 あした文化の花をつみ 真理の泉ともに汲み 我らが道を求めゆく											
地域と共有された育てたい子どもの姿		「自分から」「つながる」「認め合う」											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)		○				
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 15 人 参加者延べ人数 70 人				
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4								
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会			
		清掃		ICT		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援			
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		給食		休み時間	
		人権教育		国際理解		○		託児		給食		休後教科・体験学習	
													
		須坂創成高校生徒と花壇整備(7月21日)		江戸時代の地域歴史学習(9月22日)		国際理解教育ハロウィン(10月25日)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>地域回覧で学校ボランティアの呼びかけをしている。今年度、英語支援ができる方3名に登録いただいた。始めは、外国語教育の授業支援に入っていたが、複数名でできる新しい活動ができればと3名の方に相談し、児童が業間休み時間に英語で交流したり、海外の文化など国際理解に関わったりする、気軽に親しみかもてる場所作りを設営する運びとなった。</p> <p>普段使用が少ない空き教室に、英語ルームとして環境を整えた。3名のボランティアと英語専科、国際理解教育担当職員、教頭でどんな場所にしていけるかを話し合い、11月8日にオープンした(但し、8日のオープンは新型コロナウイルス感染症レベル5に上昇したため、延期)。オープンの先駆けて、イベントとして、1、2年生を対象にハロウィンイベントを行った。</p> <p>1年生は生活科や図工で取り組んだハロウィンに関連する学習を基に、イベント当日は全員が仮装して参加。英語でどんな話をしているのか耳を傾けて聞いたり、ハロウィンの由来についてクイズ形式で学んだりした。ボランティアの方は英会話が通常にできるため、臨機応変に対応できる点ありがたい。また英語専科(兼務)の火曜勤務に英語ルームを開くようにし、英語専科職員も関わることで、外国語活動の授業にも発展することが期待できる。</p>													

学校の概要	学校名	須坂市立 小山小 学校	学校長	桂本 和弘	児童生徒数	349 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
	市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人		
	榎の木コミュニティ 主任児童委員 学校支援ボランティア代表				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月31日 10月28日 2月3日	中心のコーディネーターの立場(リストより選択) 公民館職員(公民館長・公民館主事)			
					具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	榎の木のように 深く根を張り幹太く 枝葉豊かな人							
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・心も体もたくましい子ども ・人やものを大切にできる子ども ・よく考える子ども 							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について	○						
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用可能な部屋でも可)	○			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数				
				ボランティア登録者人数	57	人		
				参加者延べ人数	44	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山
	人権教育		国際理解		託児			キャリア教育(職場体験を含む)
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
	農作業ボランティア(4月13日)		5年 田植え(5月20日)		読み聞かせボランティア(7月5日)			
代表的な協働した活動の取組例								
(上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)								
○4月当初、特別支援学級として学校園でのジャガイモを栽培をするにあたり、担任から地域ボランティアの方に協力していただきたいという依頼があった。例年、5年生の米作りの学習に協力していただいている榎の木コミュニティの方に連絡したところ、一緒にやっていただける方も募っていただき、ジャガイモ植えの作業を手伝っていただいた。そのあとの畑の作業にも「畑の先生」として一緒に教えてもらいながら作業してきた。								
○生活単元学習として米作りを行う計画を立てたが、校内の以前使っていた田がすぐに使える状態ではなかったので農作業ボランティアの方に相談した。3名の方に協力していただき、土が硬く子ども達だけではできなかった田おこしや防水シート張り等と一緒にいった。代掻き、田植え、草取り、稲刈り、脱穀までの一連の作業を学校で一緒にやっていただいたことで、米作りの学習を学べただけでなく、道具の使い方や共に協力して作業する大切さを教えていただくことができた。								
○少人数の子ども達では難しい畝作りや草取りなどの作業を一緒にやりながら丁寧に教えていただいた。また、学校園の他の学級の草取りまでボランティアの方が自主的にやっていただき、とても助かった。								
○ボランティアの方の力をお借りすることで、学校だけではできなかった米作りの学習や野菜作りを土作りから収穫まで一緒に行うことで、子どもたちのいきいきとした活動が展開され、共に協働することのよさを、子ども達も学校職員もボランティアの方も感じることができた。								




学校の概要		学校名	須坂市	立森上小	学校	校長	西澤 真一	児童生徒数	272 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について														
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について									
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員			○		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		森上コミュニティ運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)						
					学校支援ボランティア団体代表			地域コーディネーター	人					
					主任児童委員代表			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人					
					育成会長代表									
					児童センター所長									
					近隣保育園長									
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)	5月25日		10月21日	2月21日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)					
									学校職員(教頭及び教頭以外の職員)					
									具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
									教務主任					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況														
学校教育目標		明るく直き心												
地域と共有された育てたい子どもの姿		思いやりのある子 考える子 たくましい子												
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況									
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○					
2	学校運営への必要な支援について			○										
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)								
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	8 人					
								参加者延べ人数	84 人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		○	児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食	休み時間			
	清掃		ICT		○	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		○	託児								
														
	6年「ジュニエコ」(11月3日)		3年「リンゴ摘果体験」(6月3日)				5年「地域の企業からSDGsを学ぶ」(11月11日オンライン授業)							
代表的な協働した活動の取組例														
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)														
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)														
文化の日に行われる「えびす講まつり」のイベントの一つである「ジュニアエコミーカレッジ」に参加し、その売り上げを使って防災ベンチなど地域に役立つものを購入し、市の防災対策に寄与することを目的に、須坂市商工会議所青年部の方から会社作りや運営についてアドバイスをいただき準備してきた。予算や利益見込みなどを盛り込んだ事業計画書を作成し、学校長から認可を得て、いくつかのブース(地域食材を生かした弁当の考案と販売、廃材を使った木工製品の製作と販売、手作りアクセサリーの製作と販売、須坂の特産である果物を使ったスイーツの考案と販売等)に分かれ準備を重ね、当日は販売活動を行い、多くの方に購入していただくことができた。企画から販売まで子どもが中心となりSDGsも意識しながら取り組むことができた。今後は売り上げを使った地域への支援の活動に入る。														




学校の概要		学校名	須坂市立日滝小学校			学校長	上野 恵佐夫		児童生徒数	343 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	日滝小コミュニティスクール運営委員会					[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
						保育園長 主任児童委員 育成会長代表		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)	3 回		今年度開催日(予定)		5月19日 10月21日 2月6日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標	いきいきと みんなで創る 明るい学校 ～よく学び しっかり成長 にっこり笑顔～												
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域の伝統や文化、産業等について、保護者や地域の方々と交流しながら学ぶことを通して、地域を愛し、誇りに思える心情を育む												
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について					○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について					○							
3	地域の実情や課題について					○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて							3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について							4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 23 人 参加者延べ人数 500 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○ 読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○ 給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		国際理解		託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例												
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
例年「子どもやんしゃ」という名前で、日滝地域づくり推進委員(11名)の皆様に、日滝地域の名所、歴史的建造物、文化などを3年生の児童に紹介していただいている。3年生は、社会科の地域巡り、総合的な学習の時間として取り組んでおり、本年度は本郷町に出かけた。古墳、お寺、庚申堂などの自分たちが生まれ育った日滝地域に残る文化財や名所旧跡を訪ね歩き、その由来や大切に保存されてきた人々の思いを知ることができた。子どもたちは、説明をしっかりと聞いて、メモを取ることができた。実際にその場所に行き、話を聞くことで、五感を通して学習をすることができ、普段何気なく見ていたものの中に宝物がたくさんあることに気づくことができる活動である。この活動を通して、自分たちも地域の一員として生きる自覚をもつことができた。													




学校の概要		学校名	須坂市 立 豊洲小 学校		学校長	佐藤 富美子		児童生徒数	134 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある					
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	洲の子応援団運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人		
			主任児童委員 民生児童委員代表 保育園長				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)		①5月31日(火) ②10月21日(金) ③3月10日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	「豊かな心を持ち 本気で取り組む子」～やる気 本気 根気～										
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域の子どもは地域で育てるの理念のもと、豊洲小学校の学校目標である「豊かな心を持ち 本気で取り組む子」の具現を目指す。具体的には、以下の子どもの姿である。①学習の見通しをもち自分の考えを述べることができる子(知育)②思いやりの気持ちをもって接することができる子(徳育)③自分の体を大切にできる子(体育・食育)④気づいてはたらくことができる子(勤労・奉仕)										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	84 人
								参加者延べ人数		120 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	りんご学習(7月6日)		米づくり学習(9月30日)		俳句学習(11月1日)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
本校の特色ある教育活動の一つとして俳句学習がある。年間8回の俳句の日に全校で俳句作りに取り組み、児童は、作った俳句を取りたてていく。俳句学習の講師を地域で句会を開いている方をお願いし、俳句の日に合わせて年間8回の指導をいただいている。ご指導をいただく日が近づくと、担任は事前に講師の先生に児童が作った俳句を送る。当日は、講師の先生が、児童の作った俳句を紹介しながら、良い点や改善点をご指導くださる。児童は、講師の先生のアドバイスや友だちの俳句からも学び取り、自分の俳句をよりよくなり、新たな俳句を作り出した。毎年11月下旬には、全校で俳句集会を開催し、各学年の代表者の俳句の発表を聞いて感想を伝え合ったり、講師の先生から講評をいただいたりしている。また、各種俳句コンクールに応募し、多くの作品が入選し、自信につながっている。学年末には、一年間のまとめとして、俳句集『豊洲の子 萌えあがる』を作成する。毎年、保護者や地域の方も俳句集に投稿して下さっている。今年度は、二十四集が発行される予定である。児童は、俳句学習を通して、季節を感じ、言葉を選び抜くことで語彙を増やし、感性や表現力を磨いている。											

学校の概要		学校名	須坂市	立日野小	学校	校長	新井 孝之	児童生徒数	306 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	日野小コミュニティスクール運営小委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
				近隣保育園長 主任児童委員			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			0 人
会議開催数(予定)	3	今年度開催日(予定)	① 6月28日(火) ② 10月25日(火) ③ 2月21日(火)予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	教育理念 「こんこんと湧き出づる日野の泉」のように 清らかな心と 希望を持ち たくましく生きる 子どもの育成 やる気を育てる 「いずみ教育」 学校教育目標 「にっこり しっかり しなやかに」									
地域と共有された育てたい子どもの姿	令和4年度 目指す子どもの姿 ○他者対話したり共に活動したりすることを楽しむ姿・・・「一体感」 ○ものごと課題をもって向かう姿・・・「つながり感」 ○自他(人・もの・こと)を思いやる優しい姿・・・「しっとり感」									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用可能な部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 35 人 参加者延べ人数 100 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	5月25日 いずみの里での、自然体験・農業体験(1年「保育園との交流」)		10月13日 いずみの里での、自然体験・農業体験(5年「稲刈り」)		11月21日 名人講座					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について 「いずみの里での、自然体験・農業体験」 学校近隣の各所で湧き湧き水を活用した自然体験・農業体験ができる「いずみの里」を中心にして、各学年が生活科・総合的な学習の時間での取組を続けている。「いずみの里」は地域公民館の「いずみの会」の皆様が、子どもや地域のために、大切に整備してくださっている場所である。日野保育園の園児も頻りに訪れ、園小接続の大切なベースでもある。1年生:生活科の学習(自然体験) 2年生:生活科の学習(自然体験)、サツマイモ作りとリンゴのシール貼りと収穫 3年生:総合的な学習(自然体験) 4年生:総合的な学習(自然体験) 5年生:総合的な学習(自然体験)、米作り体験(田植え・稲刈り) 6年生:総合的な学習(自然体験) いずみの会の皆さんと関わりながら活動したり、自然の中で遊び混むことを通して、友や物事と一体となって活動する良さを味わい、体力の向上や情緒の安定にもつながっている。										

学校の概要		学校名	須坂市 立井上小	学校	学校長	鬼石 喜明	児童生徒数	243 名								
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について											
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 協議の場			○ ボランティアのリストがある											
		○ 協議の場			○ ボランティアの団体がある(組織化されている)											
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 協議の場			○ ボランティアと学校の情報交換会がある											
		○ 協議の場			○ ボランティアの方を対象とした研修会がある											
名称		桐里っ子応援隊			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)									
					地域コーディネーター		1 人									
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人									
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		4月26日(月) 10月28日(木) 2月14日(月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)								
						*米作りについては公民館・地域づくり推進委員会・ふれあい教室実行委員会と活動前に会議を行っている。		公民館職員(公民館長・公民館主事)								
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長・学校運営委員								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																
学校教育目標		明日の日本の力が育つ ・わが井上にのびゆく われら ・いつも胸には進取の気象 ・よく考えてやり抜く誇り														
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域・自然を身近に感じ、学びを実生活と結びつけるこども 自分に自信をもち、元気に明るく生活するこども														
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況											
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○									
2 学校運営への必要な支援について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○									
3 地域の実情や課題について		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○									
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 32 人 参加者延べ人数 28 人									
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○														
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		クラブ、部活動		○	給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)				
		人権教育		国際理解		託児										
		学校・家庭・地域の協働した取組例								5年田植え(5月19日)		自転車クラブ(6月)		4年ピオトープ		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																
<p>・4年生「ピオトープ」 本年度から4年生がピオトープの学習を始めた。総合的な学習の時間の一環であるが、子どもたちは地域の方に井上の自然についてお話をさせていただく中で一層自分の住む地域に興味関心を寄せ、ピオトープづくりに意欲的に取り組んでいる。「増えすぎたザリガニを捕ってほしい」とお願いされることもあり、人ものことに触れることができる貴重な機会となっている。</p> <p>・5年生「米作り」 コロナ禍ではあったが、感染対策をして昨年に引き続き米作りのみ取り組んだ。米作りの学習での地域の方との活動は従来「田植え」「稲刈り」「脱穀」の3つであったが、本年度の5年生は、田植えに使う稲はどこでどうやって育てているのか、田植えをするための田んぼづくりはどうしているのか、どのような工程を経て水田ができるのかも学びたいという声が出てきた。その興味関心に応じてくださり、苗床の作業をするからと学校へ連絡をくださったり、代掻きをするところを見学できるように手配してくださったりして地域の方が井上の地域の子どもたちと関わり育てていくことを楽しみにしていることが伝わってきた。</p> <p>・その他 本年度も米作りしかこれといって関わることはできなかったが、コロナ禍でも対応が少しずつ変化してきているので、地域の方も「来年活動を再開するようならば是非声をかけてほしい」とおっしゃってくださる団体もあり、ありがたい。</p>																

学校の概要		学校名	須坂市立 高甫小 学校		学校長	松澤裕子		児童生徒数	151 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある						
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	高甫ふれあい委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 高甫保育園園長、高甫駐在官、シニアクラブ代表、各ボランティア団体代表				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人			
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)	2 回		今年度開催日(予定)		4月25日(月) 12月19日(月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	明日の日本をになう子ども たくましく かしく ほがらかな 高甫っ子											
地域と共有された育てたい子どもの姿	高甫の自然や地域の方と積極的に関わり、学ぶことを通して、自分の生まれ育ったふるさとに愛着と誇りを持つ子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて						3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について						4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 30 人 参加者延べ人数 100 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		クラブ、部活動		○ 給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
		全校登山(5月21日)		鮎川遊び(7月13日)		柿の皮むき体験会(10月25日)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
○ 柿の皮むき体験会 学校で取れた柿(長崎で被爆した2世柿)と地域で取れた柿を、1年生から6年生までの縦割り班になり、各教室や体育館等で、皮むきをした。材料・道具の準備からむき方の指導まで高甫地域づくり推進委員のみなさんがやったださる。児童は、地域の方とのふれあいを実感できる貴重な機会となっている。むいた柿は推進委員のみなさんとペランダに干し、数週間後には柿もみという作業を教えてください、できあがった柿の箱詰めまで地域の方とともに行っている。 地域の方も、干し柿作りを通して児童と関わりを持つことにやりがいを感じ、熱心な取り組みでこの伝統行事を支えてくださっている。高甫小学校に長崎の被爆2世柿が植えられ21年目となる。その経緯について地域の方(本校に柿の木を移植した発起人)よりお話をお聞きした。平和学習と関連させた取り組みとなっている。												

学校の概要		学校名	須坂市立 旭ヶ丘小 学校		学校長	梅本 裕之		児童生徒数	195 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	旭ヶ丘小コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人
			<ul style="list-style-type: none"> ・児童センター長 ・学識経験者 ・主任児童委員 ・近隣保育園長 						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)		5月17日 2月10日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		旭ヶ丘ふれあいプラザ館長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		(学校教育目標)精一杯 自分の花を 咲かせよう (目指す子どもの姿)自分の考えを積極的に伝え、互いに認め合いながら、さらに自分を高めようとする子ども									
地域と共有された育てたい子どもの姿		「精一杯」:自分の力を全て出し切って努力する姿、絶えず追究を続け、さらに自ら創造する姿 「自分の花」:子どもたちの内側に秘めた可能性、一人一人の希望や願い 「咲かせよう」:より高く伸びよう、より美しくあろうと主体的に実践する姿									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		30 人	
								ボランティア登録者人数		10 人	
								参加者延べ人数			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)		○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
		キラキラぱ〜くさん読み聞かせ(6月13日)		スマイルさん読み聞かせ(7月4日)		峰の原自然体験学習(6月28日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>これまで「キラキラぱ〜くさん読み聞かせ」「スマイルさん読み聞かせ」「PTA学級会長会の読み聞かせ」の3つの活動を行ってきた。コロナ対策のため中止していた活動だったが、今年度は「キラキラぱ〜くさん読み聞かせ」は年2回実施し、「スマイルさん読み聞かせ」は今年度から復活した。「PTA学級会長さんの読み聞かせ」は、直接の読み聞かせやリモートによる読み聞かせとして行った。</p> <p>子どもたちはこれらの読み聞かせを楽しみにしている。地域の方と直接関わるよい機会となっている。どの活動も歴史が古く、今後も継続して行いたい。</p> <p>3つの団体による読み聞かせを継続してきたが、年間計画への位置づけや参加者ボランティアの意識のずれなどがあった。コロナ対策を契機として、「スマイルさん」と「PTA学級会長会」の読み聞かせを統合、整理し、PTAの活動として行うこととした。実施回数を精選し、年に2回を目標とした。</p>											




学校の概要		学校名	須坂市 立 仁礼小 学校	学校長	富沢 孝	児童生徒数	185 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		仁礼小信州型コミュニティスクール 学校運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)	
				地域コーディネーター		1 人	
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		令和4年5月19日(木) 令和4年10月14日(月) 令和5年2月27日(月)	
				中心のコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		よく学び よく遊び たくましく					
地域と共有された育てたい子どもの姿		1 「考えたい」「やってみよう」「表現したい」と自分から動き出す子ども 2 多様な考えや立場を受け入れ、認め合える思いやりのある子ども 3 いろいろな人と関わり、力を合わせて問題に立ち向かえる子ども					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 20 人 参加者延べ人数 50 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会 ○	
		清掃 ○		ICT ○		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業教科・体験学習 ○		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携 ○	
		人権教育 ○		国際理解 ○		託児 ○	
		給食 ○		クラブ、部活動 ○		給食 ○	
		休み時間 ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃 ○	
		放課後教科・体験学習 ○		防災学習(避難訓練) ○		遠足・登山 ○	
		キャリア教育(職場体験を含む) ○					
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		給食支援(5月24日)		星空を見る会(7月31日)		花壇の花植え(8月22日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
給食支援 新型コロナウイルス感染症予防のため、園児による給食の配膳はしていないとうかがった。給食の配膳は小学校に入って初めて行うことの一つであり、盛り付けてもらったものをこぼさないようにお盆に載せて運ぶのも初めてである。これを担任と学習習慣形成の職員で34人の1年生に教えるのはとても難しいと考え、給食支援も含めたボランティア募集を年度当初に学区内の全戸へ文書で配布した。そうしたところ、5名の方が毎日2人ずつ交代で9月まで給食支援をしてくださった。子どもたちからは「給食の盛り付けのお手伝いをしてくれたり、うまくできたときにほめてくれたりしてくれて嬉しい」という声があり、ボランティアの方からは「こうするといよいよと言ったことが、次に行ったときにできるようになって嬉しかった。これくらいのことならできそうと思って参加してみたけれど、やってみてとてもやりがいを感じた」と話され、担任は「配膳の指導以外にも様々な児童への対応があって、配膳の時間はとても大変だが、こうした支援は本当に助かっている」と話した。互いに感謝したり、心を通わせあったりして気持ちのよい取組ができた。							




学校の概要		学校名	須坂市	立豊丘小	学校	学校長	中沢 裕子	児童生徒数	56 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	豊丘小学校コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
					・主任民生委員 ・育成会代表 ・地域づくり推進協議会事務局長				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	1回目 5月20日 臨時 7月26日(周年行事委員会発足にかかわって) 2回目 10月28日 3回目 1月27日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	心豊かで 考え深く たくましく										
地域と共有された育てたい子どもの姿	つながろう(徳)…自他の良さがわかる児童・気持ちを伝えられる児童・かかわりを広げられる児童 向き合おう(知)…自分電が得る児童・自分の考えを伝えられる児童・自分から学ぶ児童 高めよう(体)…自分の生活を見直す児童・相談できる児童・目標に向かって続ける児童										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		13 人	
								ボランティア登録者人数		74 人	
								参加者延べ人数			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
		クラブ活動(4月～11月)				1. 2年遠足(5月2日)		ソルガム栽培(5月31日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
昨年度まで職員が中心になって活動していたクラブ活動を、本年度から地域の方を外部講師としてお願いすることになった。講師を見つけるにあたり、コーディネーターの公民館長さんに相談したところ、切り絵をしているボランティアの方を紹介していただいた。また、須坂市の中央公民館に問い合わせをしていただき、切り絵の講師や音楽クラブの講師とつながることができた。外部講師にクラブ活動をお願いすることで職員の負担減につながるとともに、児童にとっても専門的な知識を持った方に切り絵や絵手紙やドラムの指導を受けることができ、興味関心の広がるよい機会となっている。											

学校の概要		学校名	小布施町 立栗ガ丘小 学校	学校長	前田 博展	児童生徒数	595 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	○	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	小布施学園コミュニティ・スクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人			
				社会教育委員 民生児童委員会会長 保護司 交通安全協会会長 スポーツ推進委員 部活動・社会教育運営委員 社協コーディネーター コミュニティスクールコーディネーター 公募員			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人			
会議開催数(予定)	2 回	今年度開催日(予定)	1回目 令和4年4月28日(木) 2回目 未定 (小学校部会 6/2 7/7 8/25 9/29 10/31 11/28 以後月1回の予定)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民				
		具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)									
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	自ら学び 共に伸びゆく子ども ～豊かな心とたくましい体を育て～ ①基礎学力を身につけ、 ②互いに認め合いながら自らの可能性を伸ばし、 ③活動に浸り込む活力ある子どもを育てる。										
地域と共有された育てたい子どもの姿	1 めまぐるしく変化する国際社会を生き抜くたくましい子ども 2 家族、仲間、故郷を愛し、故郷に誇りがもてる子ども 3 心身ともに健康である子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 35 人 参加者延べ人数 50 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
	メイン花壇の苗植え(6月)			落ち葉の堆肥化活動(5月～)			教科学習支援(書き初め)(12月)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)											
学校の南側の隅に、草や落ち葉を捨てる場所があり、春から秋にかけてそこに捨てられた草や落ち葉は年度末に業者さんをお願いして処分をしていただいていた。その様子を知った小布施町まちづくり委員会環境部会の工藤さん(小布施丸なすの栽培についてもご指導をいただいている)が「そのまま処分してしまうのはもったいない。堆肥に変えて学校の中で循環をさせることができるのでやってみませんか」と提案をしてくださった。これをきっかけに、5年3組が今年度からその活動に取り組んでいる。5月17日(火)にその第1回目の活動として、落ち葉にボカシを混ぜながら積み上げて層を作る作業に取り組んだ。5年3組では「菌ちゃんプロジェクト」を立ち上げ、定期的に落ち葉の様子を見守ったり、全校への呼びかけの方法を考えたりしながら活動を進めた。初めての活動でわからないことも多いが、その都度、工藤さんに相談に乗っていただきながら活動を進め、堆肥を完成させた。このことに自信をつけた子どもたちは「作った堆肥を販売しよう」や「この堆肥を使って小布施辛み大根を育てよう」、「自分たちだけの手でもう一度堆肥を作ろう」とさらなる活動を展開させていった。											

学校の概要		学校名	高山村 立高山小 学校	学校長	岡田 憲和	児童生徒数	283 名						
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について									
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表							
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員							
高山村共育コミュニティスクール運営委員会・わくわく村運営委員会		○		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任児童委員、保育園保護者代表、体育協会、少年警察ボランティア、識見を有する者、社会教育委員、保育園長、支援者		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)							
名称						地域コーディネーター	1 人						
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人						
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月10日 8月3日 2月(予定)							
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民						
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	共育コミュニティスクール運営委員長						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		「ひとりだち ともそだち」(重点目標) わくわく学び よりよい生活 笑顔であいさつ											
地域と共有された育てたい子どもの姿		高山村を愛し誇りの持てる子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況									
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○							
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○							
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○							
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	40 人						
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数	60 人						
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
		清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		田植え(5月18日)		りんごの収穫(10月11日)		わくわく村(親子木工教室)(10月16日)							
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
「わくわく村」 ・毎年約20の講座が行われている(今年度は21講座)。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら、できることに取り組んでいこうと参加者の希望を取り実施している。土日・夏休みや夜に講座が開かれ、親子で参加する。子どもや保護者にとって、地域の「ひと・もの・こと」と交流し活動することで、地域を知り、その魅力を再発見し、ふるさとへの誇りや愛着を持てるようになっている。地域の方やボランティアの方は、子ども・保護者との交流をとっても楽しみにしていて、お互いのニーズが一致することで、互恵の関係ができていく。地域の中の学校として、地域の中で育つ子どもを育成する意識が高まる良さを実感している。本年度は、3年ぶりに開催された「しらかば学習発表会」(総合的な学習の時間・生活科の活動発表会)でも、わくわく村のステージ発表や展示発表が行われた。													

学校の概要		学校名	中野市 立 中野小 学校	学校長	山崎 吉治	児童生徒数	800 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		中野小学校信州型コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 子ども安全員 主任児童委員 育成会代表 老人会代表		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
						地域コーディネーター 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月25日、10月19日、2月10日	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) 教頭・担当職員	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		かしこく やさしく たくましく 知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな児童の育成と未来を切り拓く力の基礎づくり 1 学び合う授業(わからないって楽しい) 2 多様性を認め合う仲間(みんなつながりあって楽しい) 3 達成感を味わう活動(夢中になるって楽しい)					
地域と共有された育てたい子どもの姿		①いろいろな人と豊かなコミュニケーションがとれる子ども ②基礎的な知識・技能をきちんと習得できる子ども ③さまざまな体験や経験を通して、豊かな感性をもつ子ども ④自分の身の安全を自分で守ろうとする子ども					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 45 人 参加者延べ人数 250 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について							
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
		給食準備ボランティア(4/25)		りんご作り(葉摘み)(5/24)		クラブ活動(土びな)(9/8)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組の中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)							
<給食準備ボランティアの取組> 本校では、新型コロナウイルス感染症対策として、コンテナ室の密を回避するため、各学年のコンテナを移動して距離をとって給食配膳の準備を行っている。今年度も給食ボランティアの皆さんに、4時間目終了前の各学年のコンテナの移動、児童の給食配膳のサポートをお願いしている。コンテナの移動は、授業中の作業であり学校職員だけでは手が足りたため、ボランティアの皆さんにサポートいただくことで、給食前の時間帯に余裕が生まれ、学校職員はより子どもに目を配ることができている。給食準備ボランティアの取組は、3年目になった。日常的な取組として位置づけ、ボランティアの皆さんが校内にいらっしゃることがごく自然な状況となっている。日々自分たちの学校生活を支えてくださるボランティアの皆さんの存在に感謝し、進んであいさつする子どもたちの姿も年々増えてきている。ボランティアの皆さんからは、「よくあいさつしてくれるようになった」「いつも子どもたちから元気もらっている」等の言葉をいただいている。							

学校の概要		学校名	中野市	立日野小	学校	学校長	徳武 真弓	児童生徒数	69 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	日野小学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
			地域住民 交通指導員 地区活性化委員					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	第1回 5月17日(火)	第2回 12月9日(金)	第3回 3月20日(月)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	まなびあい(知) ひびきあい(徳) きたえあい(体)								
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ、粘り強く追究する子どもたち ・認め合い関わり合って、わたしらしさを表現する子どもたち ・よりよい生活を目指し、自分の身体を鍛える子どもたち 								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 18 人 参加者延べ人数 16 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解		託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
	地域の方による読み聞かせ(6月4日)		CS運営委員さんと一緒に竹筏づくり(7月15日)		地域探検クラブ(6~11月)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)									
<p>・全校児童が、生活科や総合的な学習の時間を使ってやってみようという4年生の願いを受けて、組む方や紐の縛り方など教えていただきながら児童と一緒に制作のお手伝いをいただいた。班ごとにどんな筏を作りたいか話し合い、デザインや筏の名前を考え、より強固なものにするための工夫を考え合って作り上げ、プールで全員で遊ぶことができた。思うように浮かばなかったり、崩れてしまったりした班がほとんどであったが、ものづくりの難しさや「竹は思ったより浮かばない」ということを体感することができた。その後、筏に利用した竹を使って全校児童が灯籠を作る活動に発展した。竹にドリルで穴をあける場面でCSの方のご協力を得た。上手に穴をあける姿に感心する児童が多くみられ、自分もまねてやってみようとして挑戦していた。</p>									

学校の概要・A1-AM23	学校名	中野市立延徳小学校	学校長	田中 和幸	児童生徒数	147 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○ 協議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
	市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	延徳小学校運営委員会(延徳っ子応援団)			[その他の委員]※具体的な役職名を記入						
				・ボランティア代表 ・地域学習代表		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)				
						地域コーディネーター 2 人				
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人				
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月17日 7月15日 2月1日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)				
						地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	正しく なかよく たくましく									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・認め合い、学び合い、高め合う子 ・人やものを思いやる子 ・心や体を鍛える子 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2	学校運営への必要な支援について			○	○					
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4 協働活動に参加したボランティアの人数					
					ボランティア登録者人数	32 人				
					参加者延べ人数	80 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	○	
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児	○				
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	桔梗の植え替え(6/22)		郵便局にあさがお展示(8/31~9/26)		陽だまりタイム(9/16)					
代表的な協働した活動の取組例(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>地域の自然を守るために長年尽力し、本校のシンボルでもある大賀ハスの池の管理や、そこに住む生物を守ってくださっている応援団の方に、昨年度ご自身で育てられた絶滅危惧種の桔梗をいただき、コンテナの中で本年度もたくさん芽を出した。そこで緑の少年団の活動として、学校の40mほどある登校坂に植え替え、今後も大事に世話をし、毎年花が咲くのを楽しめるようにしたいと考えた。</p> <p>作業当日もその方が肥料や植えたあと周りに敷く藁まで用意し、5年児童に植え替え方法を指導してくださった。児童も教えていただきながら、30本ほどあった苗を植え替えた。作業を一緒にする中で、応援団の方の豊富な知識や経験に触れ、日頃触れることのない絶滅危惧種である植物に関わり、大事に育てられた思いを感じることができ、貴重な経験となった。苗が少し大きくなってからの植え替えで、中には根付かなかったものもあったが、この夏も登校坂一面に桔梗の花が咲き、私たちの目を楽しませてくれた。今後は花の種を取り、増やしていきたいと考えている。地域の方との交流から得たものを自分たちで今後につなげていきたいという姿につながったのではないかと考える。</p>										



学校の概要		学校名	中野市 立 平野小 学校	学校長	宮本 博	児童生徒数	465 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	ひらのっ子応援団運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 青少年健全育成会長・民生児童委員代表・主任児童委員・児童センター代表・各ボランティア組織代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)						
						地域コーディネーター	2 人					
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人					
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月19日 10月24日 2月15日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)						
						地域住民						
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
						元PTA会長						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	あかるく(希望や夢をもち、自分のよさや可能性を生かして、自ら学び考える楽しさと喜び) 強く(目標に向かって努力する意志とたくましく生きるための健康と体力) むつまじく(自己肯定感や共生の心・感動する心などの豊かな心)											
地域と共有された育てたい子どもの姿	1 「わくわく学び合い」①学習したことを使える子ども②自ら考える子③学ぶ楽しさを味わいながら、学びを発展させる子 2 「どんどん響き合い」①自分の良さを知り、自分が好きな子②相手の立場に立って支え合う子③友と協力しながら、課題を解決していく子 3 「きびきび響き合い」①基本的な生活習慣を身につける子②自分の体と対話できる子③つまづいた時に自ら道を切り拓く子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○				
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	○				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○			ボランティア登録者人数	75 人				
						参加者延べ人数		80 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
		米作り・田植え(5月26日)		土人形クラブ(6月14日)		お話クローバーによる読み聞かせ(6月20日)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
・地域の方を講師としたクラブ活動を年4回、行うことができた。土人形、コカリナ、サンドアート、絵手紙、フラワーアレンジメント、電気工作、パッチワーククラブである。特に、中野市の郷土玩具である「土人形」クラブでは、「創作土人形工房 まちなか交流の家」の方が、粘土を練って型にはめるところから、絵付けまで、一連の流れを指導して下さった。材料等も準備して下さるので、有難い。中野市の土人形(土びな)は、昔から『中野土びな』という名前で地域で親しまれてきた郷土玩具であり、今年度第1回目の6月14日には、中野人形6代目の奈良様も来校され、子どもたちに直接指導して下さった。子どもたちは、「ふくろう」や「うさぎ」「羊」「龍」など、縁起物の既成の型の中から自分で選び、絵付けも自分の好みで行った。できあがった作品は、10月～11月にかけて児童昇降口に展示し、1年から6年生の子どもたちも「土人形」を鑑賞した。子どもたちは自分の作品を「すごいね」と言われて喜んでいたり、「来年は土人形クラブに入りたいな」と言ったりしている子もいた。中野市の郷土玩具に自然な形で触れ合うことができた。												

学校の概要		学校名	中野市 立 高丘小 学校	学校長	松本 孝志	児童生徒数	148 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		PTA代表		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		高丘小学校信州型コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
				主任児童委員代表 育成会会長 高丘保育園長 児童クラブ代表 ボランティア代表		地域コーディネーター 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月13日(金) 10月13日(木) 2月20日(月)	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
						教頭	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		やさしく かしく たくましく					
地域と共有された育てたい子どもの姿		学び合いを柱に、学力向上を目指す子ども 互いに認め合い、思いやりの心を育む子ども 地域を知り、地域から学ぶ子ども					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 48 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 50 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
		クラブ、部活動		給食		休み時間	
				総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
				防災学習(避難訓練)		遠足・登山	
						放課後教科・体験学習	
						キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		さつまいも植え付け(5/18)		お花クラブ指導(6/23)		書写指導(6/30)	
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>本校は敷地内に広い畑がなく、地域の方のご厚意で全校児童がさつまいもを植えるための畑をお借りしている。畝づくりと苗の植え付けの際には、毎年JA青年部の方にご来校いただき、1年生から6年生までの全校児童に鍬の使い方や土の盛り方、苗の扱い方などを指導していただいている。植え付けから収穫まで、児童は水やりや草取りなどを行い、秋には全校で焼きいも大会を行う。児童は畑をお借りしている方、JAの方へお礼のお手紙を書いたり、直接お礼を伝えたりしている。また、継続した活動になっていることから、高学年児童が低学年児童にアドバイスをする姿も見られ、地域との横のつながりと共に、校内の縦のつながりを広げることもつながっている。</p>							

学校の概要		学校名	中野市立高社小学校	学校長	塩崎 陽子	児童生徒数	402 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		○		PTA代表		○	
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		高社小学校コミュニティスクール学校運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 主任児童委員 民生児童委員会会長 育成会代表 学校ボランティア代表		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)	
						地域コーディネーター 4 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		4月27日⇒8月31日に延期 8月31日⇒中止 2月 8日	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		広く 高く 豊かに ～ふるさとの山 高社山のように～					
地域と共有された育てたい子どもの姿		ふるさを基盤に社会とつながり、協働して自分と地域を創る児童					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 90 人 参加者延べ人数 130 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児 ○	
		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウィルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
							
		平和学習(令和3年度12月)		家庭科(令和4年9月)		生活科:2年折り紙(令和4年6月)	
代表的な協働した活動の取組例(上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>昨年度に引き続き、登下校の見守り隊・家庭科・3年生のりんごの学習・クラブ活動のボランティアをお願いでき、高社小学校の教育活動に地域の方が関わってくださった。令和3年度の12月の平和学習では、戦争の学習をした6年生が地元の方(元平岡小学校出身)にお話をお聞きした。学校のすぐそばにある十三崖地下壕のことやご自身が小学生の頃の戦争体験についてお話してくださった。十三崖地下壕を掘るために小学校が兵隊さんの宿泊場所になったことや空襲警報がなる度に授業が中断されてポップ畑にお互いの間隔をとって逃げ込み、目と耳と口を塞いでとても怖かったこと、弁当箱などの金属類は爆弾や武器作りのために集められたこと等の話を聞くことで、子ども達にとって戦争が身近なこととなり、戦争は絶対にしてはいけないという気持ちが高まった。</p>							



学校の概要		学校名	中野市 立 豊田小 学校	学校長	牛山 俊彦	児童生徒数	121 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
名称	豊田小・中学校コミュニティスクール(豊田っ子応援団)		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任児童委員 地域住民		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 4 人					
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人					
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	4月27日 8月1日 9月5日 2月20日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	豊田小学校…かしく ゆたかに たくましく											
地域と共有された育てたい子どもの姿	～ふるさと豊田は、元気がもらえる一生の心のよりどころ～ ・地域を巣立っても、地域に思いをよせる子ども ・耐える力をもつ子ども ・生きる力をもつ子ども(自分で考え、解決する) ・自ら道を切り拓く子ども→環境を自分でつくり出す。生み出す力 ・人や地域のつながりを大切に、体験や経験から学ぶ子。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 53 人 参加者延べ人数 85 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(G避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
	豆腐作り(9月9日)		米作り(4月～10月)		ぼたんこしょうの栽培(5月～10月)							
代表的な協働した活動の取組例												
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
学校近くの休耕田をお借りすることができ、本年度から5年生が米づくりを始めた。農業ボランティアの方に通年、米づくりについてご指導いただき、しろかきから、田植え、田の草とり、水の管理、稲刈り、脱穀まで体験することができた。社会科でも稲作について学習し、おいしい米づくりに関して農家の方に取材し、その工夫を学び、自分たち稲づくりに生かそうとする姿が見られた。また収穫したお米を販売し、売り上げを使ってお世話になったボランティアの方を招待して収穫祭を企画するなど、地域の方との交流を深めることもできた。年間をとって地域の方と作業を一緒に行うことで、地域の方々の温かさに触れ、ふるさと豊田に愛着を深めることができた。												




学校の概要		学校名	山ノ内町 立東小	学校	校長	湯本 文洋	児童生徒数	180 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	東小学校運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 主任児童委員、志賀高原観光協会代表、ライオンズクラブ代表、学習ボランティア代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	3 人
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6/17(金), 10/12(水), 2/9(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	教頭	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	よく考え行う子 気力にあふれやりぬく子 なかよく力を合わせる子							
地域と共有された育てたい子どもの姿	ESD: (E)いいと思うことを (S)進んで (D)できる 子ども ・「なぜ」「本当にそうなの」を追究していく子ども ・試行錯誤を繰り返しながら粘り強く取り組む子ども ・気づきを大事に協力し合い、表現・発信していく子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○				
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	20 人
							参加者延べ人数	40 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃		ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解	託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
	「雪白舞」田植え(5. 24)		ABMORI植樹(6. 5)		どんぐり播種(11. 1)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
・本校は特色ある教育活動(ESD)の一環として、町で行っているABMORIに協力して、1、3年生がどんぐりの播種、2年生がコマツガの稚樹の採取、4年生がどんぐりの植え替え、6年生がABMORIでの植樹を行っており、活動の際には町役場農林課の方等が講師として来校されている。また、5年生はJAなどと協力して地元のブランド米である「雪白舞」の栽培にも取り組んでいる。小学校6年間で継続して活動することを通して、地域の自然環境への関心を高めたり理解を深めたりして、積極的に地域の方たちと関わろうとしたり、ふるさと山ノ内町の自然に対する心情を育んだりすることができている。								

学校の概要		学校名	山ノ内町 立西小	学校	学校長	齋藤 義和	児童生徒数	131 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある			
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	西小学校 学校運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)			
						地域コーディネーター	4 人		
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人		
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	6月15日 12月23日 2月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	考える子 やさしい子 やりぬく子								
地域と共有された育てたい子どもの姿	自ら問いをもち 学びを楽しむ子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数		
							ボランティア登録者人数	0 人	
							参加者延べ人数	30 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	○
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例									
		りんごの栽培指導(5月～11月)		地域での米栽培(5月～10月)		保育園児との交流(7月)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<p>昨年度に引き続き、5年生は須賀川地区で米づくりを行い、田んぼの作業の後は、近くの保育園児との交流を自分たちで計画し、毎回、山間の地域に子どもたちの声を響かせている。また例年行っているりんごの栽培は、3年生が中心となって地域の方に指導をしていただきながら、自分たちでりんごを育てたいという願いをもって、積極的にりんごの栽培に関わることができようになってきている。</p> <p>今年度もなかなか終息しないコロナ禍ではあったが、時期を工夫しながら保育園に声をかけ、一緒に踊れるダンスを使って、みんなで休み時間に楽しく踊ることができた。こうした活動により、子ども達はコロナ禍で久しくできなかった大勢での活動の楽しさを感じるとともに、みんなで体を使って作業したり、踊ったりすることで地域との繋がりができ、活動の幅を広げることができた。そしてこれからも夢をもって地域で活動したいという子ども達の意欲につながることができた。</p>									

学校の概要		学校名	山ノ内町 立 南小 学校			学校長	原 幸子		児童生徒数	80 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		南小コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
						民生児童委員代表 人権擁護委員 地区子ども育成会協議会長		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月1日, 11月18日, 2月22日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		前民生児童福祉委員					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		かしこく やさしく たくましく											
地域と共有された育てたい子どもの姿		ふるさとに誇りを持つ子 思いやりのある子 自分で考える子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。							
3 地域の実情や課題について						3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて						4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 29 人		参加者延べ人数 54 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について													
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		クラブ、部活動		○ 給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		かがやきタイム(7/8)				クラブ活動(6/14, 9/6, 9/13, 9/20)				米作り体験(田植え5/23, 稲刈り9/22, 脱穀10/4)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
南小かがやきタイムは、CS運営委員会が中心となって企画推進する活動である。昨年度までの活動を例に学年ごとに講座を選ぶ方式をとった。今年度は「昔の遊び」「木や実をつかって」「木材を使って」「味噌玉づくり」「竹を使って」「火起こし体験」の講座を開いていただいた。講座の講師は、地域コーディネーターに探していただいた。昨年度やってくださった方が今年度はできないということもあったが、地域コーディネーターが各所を当たって探してくださった。当日はどの講座も児童がいきいきと取り組んでおり、授業ではなかなかできないことを地域の方に教えていただきながら体験活動をする良さを感じることができた。学校としても、よりよい講座になるよう講師の方と何度も連絡を取り合う中で、子ども達に良い体験をさせたいという講師の方々の思いが伝わってきて、学校を支えてくださる方がいることを肌で感じる事ができた。													

学校の概要		学校名	木島平村 立木島平小	学校	学校長	渡邊 浩司	児童生徒数	226 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	①木島平村学校運営協議会 ②木島平村コミュニティスクール推進協議会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 老人クラブ連合会長、保育園園長、区長会長、民生児童委員会、青少年育成会連絡協議会長、放課後児童クラブ室長、スキークラブ長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人			
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)	15 回	今年度開催日(予定)	①5月16日、7月7日、9月21日、12月20日、3月2日 ②5月19日、6月16日、7月14日、8月25日、10月6日、10月27日、11月24日、1月26日、2月16日、3月23日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	心と体をひらいて学ぶ子ども ～対象・とも・自己との対話を通して、自己の生き方を深める～										
地域と共有された育てたい子どもの姿	木島平村の豊かな自然環境の中で、豊かな心、確かな学力、健やかな体を育み、村への『誇り』と『愛着』がもてる子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○				
2	学校運営への必要な支援について	○									
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	111 人					
						参加者延べ人数	850 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	○
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
『安全見守り隊』によるスクールバスの見送り(毎日)		地域の方が講師の体験学習(6・28、11・8)		全校稲刈り(10・4)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
○『地域安全見守り隊』による、継続的な安全指導 ～登校時のスクールバスの乗車にかかわって～ 木島平村にある『地域見守り隊』のみなさんが、子どもたちの登下校の安全を見守って下さっている。特に、多くの低学年が一斉にスクールバスに乗る一つのバス停には、毎日4名ほどの地域見守り隊の方が来て下さる。この方たちは、子どもたちがバスを待っている間の時間の使い方を子どもたちに提案して下さったり、安全にバスに乗り込めるようにして下さったりしているので、大勢の低学年が集まっても安全にバスを待っていられるし、整然とバスに乗ることができている。教師は数年で学校を入れ替わってしまい、地区担当も毎年変わるが、『地域見守り隊』のみなさんは毎年同じ方がかかわって下さるので、その地域にあった登下校のやり方を子どもたちに教えて下さる。そして、見守り隊の方々は、2年生が1年生の面倒を見られるように上手に2年生をリードして下さり、子どもたちが考えて行動できるように支えていただけていることもありがたい。学校職員は、定期的に実際に地域見守り隊のみなさんが活動して下さっている場に行き、子どもの様子やスクールバスの運行などについて話を聞いた。そして、教えてもらった子どもの姿の課題については、生徒指導係を中心に指導方法や指導範囲、指導期間などを決め、全職員に共有している。											




学校の概要		学校名	野沢温泉村 立 野沢温泉小 学校	学校長	市村 一彦	児童生徒数	145 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進 員	○	学校長・教頭以外の 学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	野沢温泉学園運営協議会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外に在るか(それぞ れの人数を記入)				
			保育園長・主任 駐在所長 識見者(教育委員・社会教育委員) 下高井農林校長・飯山高校長			地域コーディネーター	1 人			
					地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)		人			
会議 開催数 (予定)	2	回	今年度 開催日 (予定)	5月30日 3月3日	中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)		教育委員会職員			
					具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	やさしく かしく たくましく									
地域と共有され たい育てたい子 どもの姿	ふるさと野沢温泉を心に刻み 心を世界に拓き 心豊かな人間性を育む教育									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)	○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 41 人 参加者延べ人数 287 人		
地域 学校 協働 活動 の 概 要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の 時間支援	○	コロナウィルス対策 の消毒・清掃	○	放課後教科・ 体験学習
	土日・長期休業 教科・体験学習	地域の伝統文化の 継承に係る活動	○	子ども食堂(子ども カフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場 体験を含む)
	人権教育	国際理解	○	託児	○		○		○	
	学校・家庭・ 地域の協働した取 組例									
		野沢温泉小唄の伝承(5月25日)		大湯のペーパークラフト(6月16日)		講師の方と卒業記念の陶芸(9月30日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
【野沢温泉小唄の伝承】 野沢温泉村に伝わる野沢温泉小唄は、村のお祭りなどでも見かけることから、子どもたちにはとてもなじみの深い伝統の一つである。毎年、運動会の最後に地域のみなさんと全校児童が踊ることが恒例となっており、令和4年度も野沢温泉小唄保存会のみなさんにご指導をいただき、5月25日、5月31日の練習を経て6月11日の運動会では大勢の地域のみなさんと一緒に踊ることができた。また、運動会のすぐ後に開催された村の「竹の子まつり」では、保存会の方が踊る野沢温泉小唄の輪の外で、一緒に楽しく踊る本校児童の姿が見られた。運動会の練習で踊ったことが、野沢温泉小唄の伝承に少なからず貢献できたことがとてもうれしかった。										

学校の概要		学校名	飯綱町	立 牟礼小	学校	学校長	松谷かおる	児童生徒数	270 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	飯綱町コミュニティスクール学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
				民生児童委員 社会教育委員 ボランティア団体代表 児童クラブ代表 保育園長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月26日、11月10日、2月3日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員	
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	笑顔かがやくいづなっ子									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え、判断・選択し、友とともに学ぶ子ども ・誰にでも気持ちよくあいさつをする子ども ・自ら進んで心と体を鍛える子ども 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4 協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	20 人	
							参加者延べ人数	50 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
	田植え(5月23日)			読み聞かせ(毎月2回程度)			地域見守り隊紹介式(5月12日)			
代表的な協働した活動の取組例(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>・5年生は稲の栽培活動を、田植えから稲刈りまでボランティアの方の力を借りて行ってきた。町で1番のお米を育てたいという願いを持ち、毎日世話をし観察をする中で出てきた問題を解決しようと調べたり話し合ったりしてきた。自分たちでは解決が難しい問題は、ボランティアの方に電話をして相談をしたり、実際に見ていただいて助言をいただいたりして、課題解決に向かって粘り強く取り組むことができた。</p> <p>・ボランティアの方につないでいただき、地域の農家の方の収穫の様子を見学し、自分たちの米作りとの違いを経験したからこそ実感することができた。社会の農業の学習では、実感が伴った学びとなり、日本の農業が抱える問題を自分事として捉えることができた。</p> <p>・ボランティアの方とのかかわりを通して、農業の大変さや大変にもかかわらず情熱を持って取り組む方々の思いを知ることができた。そのことで地域に対する思いも強まり、改めて郷土への愛着が湧いた様子が見られた。</p>										

学校の概要		学校名	飯綱町	立 三水小	学校	学校長	鈴木 雅幸	児童生徒数	181 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーター 地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の 学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	飯綱町コミュニティスクール 学校運営協議会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 主任民生児童委員会 学校支援ボランティア 児童クラブ代表者 保育園長 社会教育委員・有識者学職経験者			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外に在るか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
						地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)			0 人	
会議 開催数 (予定)	4	回	今年度 開催日 (予定)	5月6日(金)5月10日(火)11月10日(木)2月1日(水)		中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)		教育委員会職員		
						具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)		コミュニティスクールトータ ルコーディネーター		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		笑顔かがやくいつなっ子 【自ら立つ子】【共に育つ子】【明日を拓く子】								
地域と共有され たい育てたい子 どもの姿		『ふるさとを愛し 生きる力を育み夢を実現する 人づくり』 ・生きる力を育み、ふるさとを愛し、人を思いやる子ども ・豊かな自然の中で、生きる力を育む子ども ・健全な心と体を育む子ども ・自ら学び、共に学び、自己を高める子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの 人数		ボランティア 登録者人数	30 人	
								参加者延べ 人数	231 人	
地域 学校 協働 活動 の 概 要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃		ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃		放課後教科・ 体験学習
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動	○	子ども食堂(こども カフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場 体験を含む)
	人権教育	○	国際理解	○	託児					
	学校・家庭・ 地域の協働した取組例									
	プログラミング教育(7月・9月・10月・11月)		藍染め学習(1～2学期)		りんご交流(北部高校)(1～2学期)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
飯綱町では、町の豊かな農産物や食文化への理解を深め、ふるさとを愛する子どもを育てる活動を大切にしている。本校には飯綱町の特産物であるりんごの木があり、主に3学年が中心となり、りんご農家の方から指導支援を受けながら、管理栽培を行っている。本校近隣にある北部高校でもりんごを栽培しており、入学式では新入生にりんごジャムのプレゼントを頂いた。そこで本年度は、北部高校生徒とりんご学習の交流を行い、栽培について高校生から教えて頂く活動も行った。1つの保育園から同じ小学校に上がって6年間を共に過ごす児童の多い本校にとって、異年齢・異校種と交流することができ、慣れ親しんだ仲間とは違ったコミュニケーション力の活用など、社会性が養われる活動となっている。										


学校の概要		学校名	小川村 立 小川小	学校	学校長	永井宏樹	児童生徒数	67 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	○	自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称		小川村学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 社会文教常任副委員長 主任児童委員・人権擁護委員 保健師・スクールサポーター代表 スポーツクラブ代表		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			0 人	
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	令和4年4月27日 令和4年10月12日 令和5年1月26日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員		
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	心も体もすこやかにして自ら学ぶ子ども R4年度テーマ「笑顔輝く 幸せな学校」～「つながっている」～ことが実感できる学校～								
地域と共有された育てたい子どもの姿	考え表現する子「わくわく学び合い」(確かな学力) 思いやりのある子「にこにこ輝き合い」(豊かな心) 体を鍛える子 小川に生きる子「どきどき響き合い」(健やかな体)								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2	学校運営への必要な支援について	○							
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	38 人	参加者延べ人数	33 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育	国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
		5年生稲作体験(R4/9/26)		1年生昼の間交流会(R4/10/13)		クラブ活動郷土の料理(R4/6/8)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<ul style="list-style-type: none"> ・【昼の間交流会】7月6日、10月13日、1月18日(予定)の3回実施。1学年と小川村に暮らすお年寄りとの交流。 ・主な活動 第一回(7月6日)…1年生の学習発表(国語で学習した言葉遊びの発表)と、こまやけん玉などの昔の遊びを楽しんだ。 第二回(10月14日)…音楽発表会の歌の発表、折り紙で「恐竜」や「よく飛ぶ飛行機」などを折って遊んだ。 第三回(1月18日)…地域の伝統料理「おぶっこ」作り。(予定) ・成果・効果 こまやけん玉などで遊ぶことで、日本の伝統文化に触れることができ、地域の方に教えていただくことで世代間交流もできた。 ・小川村の伝統料理と一緒に作ることで、自分の暮らす地域の料理を知り、食べることができる。自分の地域の伝統料理を他に伝えていくことができる。 									



学校の概要		学校名	飯山市 立 秋津小 学校		学校長	江守 義和		児童生徒数	100 名														
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																							
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																	
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある																	
			市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)																
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある																
			○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある																
名称		秋津小学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人													
		社会福祉協議会会長 地域住民					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人														
会議開催数(予定)		5 回		今年度開催日(予定)		①4月8日、②4月20日、③8月19日(中止) ④12月2日、⑤2月24日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民													
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校運営協議会 ふれあい学習部会会長													
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																							
学校教育目標		やさしく かしく たくましく																					
地域と共有されたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・自他のよさを認め合い、ともに育つ子ども ・進んで学習に取り組み、一生懸命学ぶ子ども ・命を大切に、進んで体を鍛える子ども 																					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																	
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○											
2		学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。													
3		地域の実情や課題について						3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)													
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 25 人											
5		教職員の任用に関する一般的な要望について								参加者延べ人数		65 人											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食				休み時間			
		清掃				ICT				学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動				子ども食堂(こどもカフェ)との連携				防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育				国際理解				託児													
		学校・家庭・地域の協働した取組例																					
		全校米作り(5月～9月)				クラブ活動(5月～10月)				6年炭焼き体験(9月)													
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																							
<p><全校米作り></p> <p>本校では、地域の方のご協力のもと、全校で田植えや稲刈りなどの米作り体験をさせていただいている。学校の周りにはたくさんの田んぼがあるが、機械化などの影響からか、子どもたちは家庭での体験が少ないようで、実際に田んぼに入り苗を植えたり、鎌で稲を刈ったりする活動は、貴重な時間となっている。この米作りは、5年生が中心となって取り組んでいるが、田植えや稲刈り以外の体験もさせていただき、それを他の学年へ周知する活動などを進める中で、高学年としての成長も感じられる。また、収穫したお米は、毎日の給食のご飯としていただいている。自分たちが関わったご飯を毎日食べることができるので、食育の面からも関心を高めることができる。</p>																							

学校の概要		学校名	飯山市立飯山小学校		学校長	中村 新治		児童生徒数	277 名														
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																							
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																	
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある																	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)																	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある																	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある																	
名称		飯山小学校学校運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人													
						学校評議員 主任児童委員 ボランティア団体の長		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人													
会議開催数(予定)		5 回		今年度開催日(予定)		5月19日 7月14日 9月16日 11月4日 2月10日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)													
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)															
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																							
学校教育目標		未来を拓く人となれ																					
地域と共有された育てたい子どもの姿		学ぶことにワクワクする子ども よりよいものを求めて一歩を踏み出していける子ども 相手や自分のよさ、困りごとに気づき、支え合う子ども																					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																	
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○															
2 学校運営への必要な支援について		○																					
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○															
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)																	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 50 人		参加者延べ人数 370 人													
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食				休み時間			
		清掃				ICT				学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携				防災学習(避難訓練)				遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		○		国際理解				託児													
																							
		ライブラリーサポート(R4.6.10)				スタディサポート(R4.7.5)				グリーンベルト塗装(R4.9.10)													
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																							
学校支援ボランティアのグリーンサポートは、飯山小学校に通う児童の父親で構成される「おやじの会」のみなさんに支えていただいている。5月28日(土)の運動会では、終了後の片付けとして、約30名の方にテントの撤去やサッカーゴールの移動・設置をしていただいた。6月11日(土)には、約20名の方に集まっていただき、約3時間で大小二つのプールをきれいに掃除していただいた。9月10日(土)には、約20名の方に集まっていただき、通学路の薄くなっていたグリーンベルトを塗り直していただいた。どの活動も、学校職員と子どもたちで取り組むことのできるものであるが、おやじの会のみなさんにやっていただくことで、子どもたちにとって授業時間の確保、職員にとってその計画の立案、準備に充てる時間がなくなり、子どもたちへの直接的な指導支援につながる時間の確保ができています。																							

学校の概要		学校名	飯山市 立 泉台小 学校	学校長	日台 智子	児童生徒数	84 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	泉台小学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 3 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	4月27日 7月7日 12月6日 2月17日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民		
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	運営協議会会長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	やる気 思いやり ひどり立ち							
地域と共有された育てたい子どもの姿	できる・わかる喜びを実感し、すすんで学ぶ子ども 相手のことを考え仲良く遊び、互いに協力し合える子ども 自ら考え自ら判断し自ら行動できる子ども 「泉台でよかった!」と思える子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2	学校運営への必要な支援について			○				
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 30 人 参加者延べ人数 24 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解	託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
	泉台サマースクール(7/28)			ボランティアの皆さんと草取り(8/26)			音楽会に向けての指導(10/26~28)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組の中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)								
【音楽会に向けての指導】 ○実施のきっかけ:音楽会に向けて音楽の授業を進める中、職員から「専門的な知識や技能を持った方からも指導してほしい」という要望が挙がり、運営協議会の方に相談したところ、以前、同様の指導をされていた地域の方を紹介していただいた。 ○内容:元音楽教師の方を講師として招き、全学年で合奏や合唱の指導をしていただいた。 ○成果や効果:専門的な知識や技能をいかして指導していただいたため、子どもたちから「楽器から出る音の大きさに気をつけたい」「どのような気持ちで歌えばいいかわかった」等、音楽会に向けて自分がどのように取組めばいいか見通しを持つことができた。また、指導の様子を見た職員も指導法や支援の仕方など学ぶことができた。								

学校の概要		学校名	飯山市立常盤小学校	学校長	大日方 良彰	児童生徒数	58 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		公民館代表		○		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○	
		学校長・教頭以外の学校職員		○		○	
名称		ときわつ子を語る会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
				・市議会議員 ・各スポーツクラブ代表 ・ボランティア代表		地域コーディネーター 1 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		令和4年4月28日(木) 令和5年3月8日(水)(予定)	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		ふるさとに学び ものごとに進んで取り組み ともに向上しようとする子ども					
地域と共有された育てたい子どもの姿		なんにでもチャレンジする子ども ・チャレンジ学び合い (一生懸命に学習に取り組む子ども) ・チャレンジふるさと学習 (地域に学び、ふるさとを好きになる子ども) ・チャレンジなかよし (誰とでも仲良くする子ども)					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 12 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		参加者延べ人数		71 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
				クラブ、部活動		給食	
				総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
				防災学習(避難訓練)		遠足・登山	
						休み時間	
						放課後教科・体験学習	
						キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		全校田植え(6月8日)		地域探検クラブ(7月6日)		箒もろこし収穫(9月9日)	
代表的な協働した活動の取組例							
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
常盤小学校では、今年は5回のクラブを計画した。「物づくりクラブ」では、ふるさと館の方に、組みひもの作り方を教えていただいた。子どもたちは、自分の作った組みひもをとっても気に入って、クラブ以外でも組みひもを作っている姿が見られた。「探検クラブ」では、毎回自転車に乗って、探検に出かけ、地域ボランティアの方に常盤地区の自然や歴史などを教えていただいた。子どもたちは、ますます常盤地区が好きになった。							




学校の概要		学校名	飯山市 立 戸狩小 学校		学校長	村松 直昭		児童生徒数	108 名											
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																				
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について														
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある														
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)														
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある														
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある														
名称	戸狩小学校コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		0 人							
					学校評議員						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人							
会議開催数(予定)	2 回		今年度開催日(予定)		第1回 5月17日(火) 実施 第2回 2月20日(月) 予定				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)									
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				教頭										
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																				
学校教育目標		「きびきび こっこつ わくわく」																		
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心「あいさつ」 ・健やかな体「生活づくり」 ・確かな学力「学び合い」 																		
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況														
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○												
2 学校運営への必要な支援について		○																		
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○												
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)														
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		27 人		参加者延べ人数		145 人						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		休み時間			
	清掃				ICT				学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動				子ども食堂(子どもカフェ)との連携				防災学習(避難訓練)				遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育				国際理解				託児											
	学校・家庭・地域の協働した取組例																			
		クラブ活動(6月～11月)		読み聞かせ(4月～3月)		書写指導(8月～10月)														
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																				
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																				
<p>一昨年度、3・4年生を対象にした書写学習(毛筆)への支援を、地域で書道教室をされてる講師の方に行っていた。また昨年度は、3～6年生へ支援の対象を広げて書写指導をしていただいた。そして、今年度は、講師の方からのご厚意で3～6年生への書写学習(毛筆)支援に加えて、1・2年生の書写学習(硬筆)の支援も行っていた。8月～9月にかけて7日間学校へお越しいただき、すべての学年で複数回の指導を行っていただくことができた。</p> <p>子どもたち一人ひとりの作品に対し、筆の運び方や字形の整え方などについてお手本を示しながら専門的な立場で丁寧に指導していただいたことで、子どもたちの書写技能が向上した。その後出品した書道コンクールでは、複数の児童が入選するなど書写学習に真剣に取り組む子どもたちの励みになっている。今後も書初め展に向けて支援を行っていただく予定である。</p>																				

学校の概要		学校名	飯山市立東小 学校		学校長	小田切浩一		児童生徒数	46 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○			ボランティアのリストがある			
			市町村教委		自治会代表	○				ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○				ボランティアと学校の情報交換会がある	
			○	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○				ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称			東小学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
						・保育園長 ・市議員 ・地域有識者			地域コーディネーター	2	人	
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)		6	回	今年度開催日(予定)	4/13	5/11	6/22	7/1	11/22	2/8	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民
									具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	学校運営協議会長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		豊かな心を持ち たくましく生きる										
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え・つなぎ・伝える ・自分から挨拶をする ・自分から心と体を鍛える 										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○	
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4	協働活動に参加したボランティアの人数		62	人	ボランティア登録者人数	
							参加者延べ人数		25	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間					
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習				
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)					
	人権教育		国際理解	託児								
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	福島棚田の田植え(5/19)			育てる会(7/1)			菜の花の種まき(9/27)					
	代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
福島棚田の田植え(5/19) ・学校区域内の福島地区に残る棚田をお借りして、全校の活動として米づくりを行っている。 ・福島棚田保存会「三部の会」の皆様のご指導・ご協力をいただきながら、棚田の文化的意義やその保存の苦勞、周辺の自然環境やおいしい米づくりを目指す生産者の思いに触れて活動している。 ・田んぼ3枚のうち一枚分を5年生の総合的な学習の時間の中で、稲刈り後の米を学校に運び入れ、ハゼかけ、足踏脱穀機、唐箕などの体験学習を行う中で、米づくりの苦勞や道具の工夫などを経験の中で学んでいる。 ・米づくりは約5カ月の期間で行う学習であるため、地域のご協力やつながりを児童自身が感じやすい。実感を伴って育てた米は給食でいただくなどの食育や地産地消の観点からも有効である。また、全校縦割り班でのかかし作りや田植え、稲刈りなどを通して、全校が一体となる活動をする中で、ふるさと教育を発達段階に応じて体系的に学ぶことができる活動となっている。												

学校の概要		学校名	飯山市 立 木島小 学校		学校長	高山 顕光		児童生徒数	136 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	木島小コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		2 人	
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月17日 10月13日 2月8日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民				
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		元木島振興委員会会長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	「自ら学び 豊かな心を持ち たくましく生きる児童が育つ学校」											
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・かけがえのない「ふるさと」を知り、「ふるさと」を愛し語れる子ども ・自分の思いや考えを相手に伝えることができる子ども、挨拶のできる子ども 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○		
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	50	人		
								参加者延べ人数	50	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動		給食		休み時間		
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
	読み聞かせ(通年)		脱穀(10月4日)			木島水害の日慰霊祭(9月13日)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
5年生を中心に、学校田での米づくりを行っている。地区の農家や元農業委員さんなどの方々から指導を受けて、年間を通して活動している。収穫においては、3～6年生の児童が稲刈りを行った。刈った稲は全てはぜにかけ、天日乾燥した稲はハーベスターを使って5年生が脱穀した。機械を使わないで全て自分たちの手で植え、稲刈りする大変さや働く喜びを体験するとともに、乾燥方法・期間等、専門的な知識や技術について学ぶことができた。また、収穫した木島米を米・食味分析鑑定コンクールに出品するにあたり、目の違う数種類のふるいを使って選別することや乾燥具合・米の状態について学ぶことができ、「おいしい木島米」への愛着がさらに高まった。												

学校の概要		学校名	栄村 立 栄小 学校		学校長	齊藤 隆		児童生徒数	45 名												
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																					
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について															
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある													
				市町村教委		○		自治会代表		○											
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		○		PTA代表		○											
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員													
名称		栄村コミュニティスクール小学校部会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人											
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人											
会議開催数(予定)		5 回		今年度開催日(予定)		4月22日 6月24日 7月21日 11月24日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民											
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)													
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																					
学校教育目標		ふるさとを愛し 心ゆたかに かしこく たくましい子																			
地域と共有された育てたい子どもの姿		栄村のよさを見つけられる子 栄村の自然の中で思い切り活動する子 栄村の人とつながって学ぶ子																			
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況															
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○											
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○											
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○											
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数				ボランティア登録者人数 38 人											
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数				77 人											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		休み時間		○			
		清掃		ICT		○		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		○		託児		○											
		学校・家庭・地域の協働した取組例																			
花壇クラブの花壇づくり(6月10日)																					
いっしょに遊ぼう(10月19日)																					
いっしょに学ぼう(10月20日)																					
代表的な協働した活動の取組例																					
(上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)																					
<p>栄小学校6年生は、10月20日、地域有志の方々と共に外国語の授業を行った。栄村コミュニティスクール小学校部会では、地域の方を授業に招き、児童と地域の方が同じ学習者として、多様な関係の中で学びを生み出すことを目的に、「いっしょに学ぼう授業」を計画した。今回は、ポッチャ、プログラミング、習字に続いての授業だった。授業会場の6年教室では、児童と地域のみなさんが英語でゲームやコミュニケーション活動を共に楽しむ姿が見られた。授業の感想として児童は、「地域のひととゲームや話をして楽しかった」「地域のひとと楽しくI ate～を学べた」と話していた。地域の方からは、「英語は苦手なのでチャレンジした。久しぶりに英語を聞いたり話したりして、6年生と楽しく学習ができた」「新鮮な気持ちになって、本当に楽しかった。子どもたちの英語を聞きとる力がすごいと思った」との言葉が聞かれた。「いっしょに学ぼう授業・英語」では、文字通りいっしょに楽しく英語を学ぶ児童と地域のみなさんの姿が見られた。小規模校では、人間関係の固定化が課題とされることが多い。そこで、地域の人を授業に加え、多様なかかわりの中での学びを生み出すことをねらった事業であった。地域の方とのかかわりを楽しむ子どもの姿が見られ、地域の方には子どもとの学びを楽しむ姿があった。</p>																					

学校の概要		学校名	坂城町 立 南条小 学校	学校長	櫻井 範彰	児童生徒数	276 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	すこやか育成委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人				
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人				
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月10日 12月21日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民					
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	ひとりのかがやき みんなの かがやき										
地域と共有された育てたい子どもの姿	坂城のよさに気づき、地域を愛し、坂城を誇れる元気な子ども 坂城のひと・もの・ことに学び坂城の役に立てる子ども ※学校目標の具現として掲げている「思い合い・学び合い・鍛え合い」と関連させながら										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○			
3	地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 35 人 参加者延べ人数 100 人			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	地域の企業から学ぶ出前学習会(7月)		音楽会に向けた学習支援(10月)		木工所の方とマイ箸づくり(11月)						
代表的な協働した活動の取組例											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>学校近隣にある『日精樹脂工業株式会社』(世界トップクラスのプラスチック射出成形機メーカー)の社会貢献事業の一貫として、5年生を対象にSDGsを意識した環境に配慮した取り組みを学習する機会をいただいた。</p> <p>本校の卒業生でもある経営企画部の方を窓口、学校と企業とのやり取りや打合せを行い、出前学習会では、会社の理念や沿革の他、日精樹脂工業の射出成形の技術によって、雑貨、電子関係の部品、自動車のバンパー、建築資材など多くの身の回りのものがつくられていることを目の前に用意して頂いた製品を見たり手に取ったりしながら学ぶことができた。プラスチックの利便性など多くの優れた面を知ると共に、プラスチックゴミが引き起こす海洋汚染問題にもふれることで、プラスチックのあり方が世界的に深刻な問題になっていることを知った。</p> <p>日精樹脂工業は、会社の経営目標に環境経営を掲げており、植物由来で生分解性を有するプラスチックの開発(コップ、ワイングラス、食器など)に取り組んでいることから、出前学習会の終末では「SDGs」について知ったり考えたりする場面も設けて頂いた。12月には、工場見学を通して、社会科学習とのつながりや、SDGs等教科横断的な活動への広がり、子ども達の主体的な活動へ展開していく可能性を期待している。</p>											

学校の概要		学校名	坂城町立 村上小 学校		学校長	柄澤 俊彦		児童生徒数	152 名														
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																							
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																	
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある															
		市町村教委		○		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)													
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○				公民館代表		PTA代表		○													
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある													
名称		村上っ子を元気にする会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)													
		民生児童委員 児童館長 子どもたちを見守る会 地域講師 PTA役員				地域コーディネーター		1		人													
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				0		人															
会議開催数(予定)		3		回		今年度開催日(予定)		第1回 村上っ子を元気にする会 6月28日(火) 第2回 村上っ子を元気にする会 10月11日(火) 第3回 村上っ子を元気にする会 2月6日(月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)													
								地域住民															
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)															
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																							
学校教育目標		生きる力を高め、自立する子ども																					
地域と共有された育てたい子どもの姿		やさしく(自ら考える子) かしこく(自ら学ぶ子) たくましく(自ら動く子)																					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																	
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○											
2		学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○											
3		地域の実情や課題について				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○											
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 50 人 参加者延べ人数 450 人											
5		教職員の任用に関する一般的な要望について				○																	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間			
		清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		○		国際理解		○		託児		○				○				○			
		学校・家庭・地域の協働した取組例																					
		地域講師によるクラブ活動(6~11月)				米作り(6~10月)				村上っ子を元気にする会(10月11日)													
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																							
◇地域講師によるクラブ活動 6月~11月まで地域の方々を講師にクラブ活動を行っている。4年生から6年生までが5つの講座に分かれて活動を行っている。講座は、「太鼓クラブ」「生け花クラブ」「剣道クラブ」「地域探検クラブ」「木工クラブ」の5つである。合計6回の活動を経て、クラブ発表会や展示を行い、それぞれの活動の成果を発信している。特に「地域探検クラブ」では、地域を散策しながら地元の歴史に触れ、坂城町のよさを再発見している。また、今年から「剣道クラブ」が発足し、子どもが剣道に興味をもち、クラブ活動が中学校での部活動にもつながっていくように願い活動している。講師の方々の声としては、「子どもたちから元気をもらっている」「子どもたちの新鮮な感性から学ぶことが多い」などの声があり、子どもたちにとっても講師の方々にとっても有意義で充実した活動になっている。																							

学校の概要		学校名	坂城町	立坂城小	学校	学校長	町田 貞	児童生徒数	203 名										
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																			
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について														
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある											
		市町村教委		○		自治会代表		○											
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○		PTA代表		○											
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○											
名称		さわやか委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			ボランティアの方を対象とした研修会がある											
								学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)											
								地域コーディネーター 1 人											
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人											
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月27日(実施済) 11月11日(予定) 2月22日(予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)											
								地域住民											
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)											
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																			
学校教育目標		(さ) ささえあう子 (か) かがやく子 (き) きたえる子																	
地域と共有された育てたい子どもの姿		自己有用感を高めようとする子ども 自分から挨拶ができる子ども																	
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況														
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○											
2 学校運営への必要な支援について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○											
3 地域の実情や課題について		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○											
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4 協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数 54 人											
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○						参加者延べ人数 35 人											
地域学校協働活動の概要																			
										登下校の見守り		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動	
										清掃		ICT		○		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	
										土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	
										人権教育		国際理解		○		託児		給食	
								休み時間											
								コロナウイルス対策の消毒・清掃											
								放課後教科・体験学習											
								遠足・登山											
								キャリア教育(職場体験を含む)											
学校・家庭・地域の協働した取組例																			
		ねずみ大根種まき(8月25日)			学有林活動(5月20日、9月30日)			クラブ活動(第1回目6月29日)											
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																	
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)																			
<学有林活動> ・56年目の学有林活動を本年度も全校で取り組んだ。 ・低学年は「森と遊ぶ」、中学年は「森で学ぶ」、高学年は「森を守る」活動を据え、地域のボランティアの方と一緒に1日森で過ごす。 ・特に高学年の児童は、森を守る活動をしている方の話を聞いたり、下草刈りや間伐材の伐採することの意味を考えたり、その体験したりすることを通して、森林を守るということを考えることができるようになってきている。																			

学校の概要		学校名	千曲市 立 上山田小 学校		学校長	飯島 稔		児童生徒数	154 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		上小応援団運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 「上山田の子どもを守る会」会長 上山田地区育成会会長 上山田シニアクラブ会長 安全協力員代表 地域住民代表(元 学校評議員)		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定) 5月26日(木) 2月28日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		上山田公民館長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		きづき【知】ねばり【体】思いやり【徳】 ～知・徳・体のバランスのとれた子ども～											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<地域と共に子どもたちにつけたい力> (1) 上山田を誇れる気持ち…地域の子どもは地域で育てる (2) コミュニケーション能力…多様な他者と直に相互に接する (3) 自尊感情を高める (4) 知識を覚える力から知識を活用する力へ											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○							
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○							
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○							
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		32 人		ボランティア登録者人数					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5 参加者延べ人数		50 人		参加者延べ人数					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練) ○		遠足・登山 ○		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		クラブ活動(5月～8月)		4年「老人福祉施設との交流」(通年)		登下校見守り活動(通年)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>4年生は、前年度(3年時)に取り組んだ「地域の老人福祉施設との交流活動」を、今年度も継続して取り組んでいる。1学期は、前年度も交流した上山田香風園を訪問し、コロナ禍だったためガラス越しではあったが、「歌・リコーダー奏・ダンス」を発表して交流した。香風園の皆さんからたくさん拍手や感謝の言葉をもらい、交流することの喜びを感じることができた。</p> <p>1学期の活動を通して、4年生の子どもたちは、さらに多くの方々と福祉を通して交流を深めたいと願うようになった。そこで2学期は、社会福祉協議会の方々とお互いにアイデアを出し合い、協働しながら老人福祉施設利用者以外の方々と交流する方法を探っている。手始めに、上山田公民館で開催されている「ふれあいサロン」への参加を計画し、準備を進めている。活動を通して、子どもたちには交流する相手への意識が高まり、「楽しんでもらうためにどうすればいいか」「わかりやすく伝えるためにどうすればいいか」を常に考えながら、学習する姿が見られるようになってきている。</p>													




学校の概要		学校名	千曲市	立戸倉小	学校	校長	高柳 司	児童生徒数	284 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		○		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	戸倉小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
	戸倉地区子どもを守る会会長 地域住民							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	・第1回 令和4年5月27日 ・第2回 令和5年2月13日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	よく聞き 深く考え やりぬく子ども									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりと協調性がある子ども ・失敗してもあきらめない子ども ・前向きで明るく元気な子ども ・困ったら相談できる子ども ・自分で考え行動できる子ども ・ふるさとを知り愛する子ども 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		
								ボランティア登録者人数	21 人	
								参加者延べ人数	35 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	○	ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○ キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解	託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	稲作学習支援(6月7日～10月20日)			学校環境整備支援(9月23日)			植樹活動支援(11月3日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
《稲作学習支援》 本校の4年生は、毎年学校近くの田をお借りして、稲作学習に取り組んでいる。ただし、学校には稲作に精通した職員がおらず、稲作に必要な機械も含めて、地域の方の支援なしには学習が成り立たない状況である。 水田の地主のIさんやご自身で稲作をされているKさんの支援をいただき、今年度も4年生が稲作学習に取り組むことができた。子どもたちは、代かきから稲刈り、脱穀までをKさんにいていねいに教わりながら、自身の体で米づくりを体験することができた。ふるさとの土地でふるさとの人に支えられて主食である米を育てる体験は、まさに学校外との連携の中でこそ生まれる活動といえる。子どもたちにとって、稲作の過程を学ぶことに留まらず、米づくりという観点から自分のふるさとを見つめ直す機会となった。										

学校の概要		学校名	千曲	立更級小学校	学校	校長	畑 秀幸	児童生徒数	160 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表			○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表			○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員			ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	更級小学校学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
				地域住民 校長 教頭			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	4月20日、11月4日、3月3日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		ボランティア団体長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	「目を上げ、手を組み、たくましく進む子」										
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、自ら学ぶ子ども(知) ・他を思いやり、支え合う子ども(情) ・ねばり強く最後まで取り組む子ども(意) ・心身を鍛え、自ら動く子ども(体) ・「さらしな」に誇りをもって生きる子ども(存在) 										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○			
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4 協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	36 人		
								参加者延べ人数	120 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃		ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	旗捨棚田での米づくり(6月から9月)			クラブ活動(6月から10月)			さらしなルネサンス出前授業(6月1・3日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
さらしなルネサンス(「月の都」として日本中の人があこがれた「さらしな」の地名を活用した地域団体)の方々に依頼し、主に「さらしな」地域のことについての「俳句づくり」で、地域講師の方に授業を行っていただいた。この出前授業を通してふるさとを知ったり、「さらしな」を大切にしている地域の人々の願いや思いに触れることにより、地域を愛し、ふるさとを大切にすることを育てることの一助となった。											

学校の概要		学校名	千曲市	立五加小	学校	校長	宮原 明人	児童生徒数	391 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		
名称		五加小学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		
					学校運営委員経験者			地域コーディネーター 1 人		
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人		
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月21日 11月9日 3月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
								地域住民		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		○よく考える子ども (自ら学ぶ力) 知 ○心の美しい子ども (かかわり合う力) 徳 ○たくましい子ども (あきらめない力) 体								
地域と共有された育てたい子どもの姿		・あいさつのできる子ども ・最後までやり抜く子ども ・命を大切に子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		126 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			5		参加者延べ人数		52 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会	
	清掃				ICT				学習ボランティア	
	土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
	人権教育				国際理解				託児	
	クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間	
	総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃				放課後教科・体験学習	
	防災学習(避難訓練)				遠足・登山				キャリア教育(職場体験を含む)	
	学校・家庭・地域の協働した取組例		4年ホテル飼育と放流 4月19日		1年生給食配膳支援(年間)		さつまいも堀り・リースづくり支援 11月7日			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
・コロナの感染状況を見ながら、児童への支援(1年生の給食支援・生活科学学習支援・読み聞かせ等)を行って頂いている。ご参加頂いているボランティアスタッフの方々は、「無理なく、できるときに」のスタンスで続けることを大事にした。児童とボランティアの方とのコミュニケーションも増え、スタッフの皆さんもやり甲斐をもって児童に接して下さったり、子ども達も会えることを楽しみに待っていたりする姿がある。										

学校の概要		学校名	千曲市立 埴生小 学校	学校長	中村 まゆみ	児童生徒数	600 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表						
		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○						
		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	学校運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人				
			地域住民 ボランティア代表				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人				
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	第1回 5月27日(金) 第2回 9月10日(土) 第3回 2月22日(水)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民					
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		住職					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	教育課題『唯聴心(ゆいちょうしん)』心を聴くことのできる子どもの育成 ～物事の本質や人の思いを汲み取ろうと心を寄せる態度～											
地域と共有された育てたい子どもの姿	○やさしい思いやりのある子ども ○向上心のある子ども ○地域に愛着を持つ子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
3	地域の実情や課題について				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 51 人 参加者延べ人数 30 人				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				5							
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	○	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例							ふれあい交流(7月11日)		読み聞かせ(9月26日)		書写支援(10月24日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
【学習支援ボランティア(学校生活や教科学習の中での児童支援と担任の補助)】												
・ふれあい交流 月一回程度、休み時間に地域の方によるふれあい活動が行われている。歌を歌ったりハロウィンカード作ったりと、子どもたちが楽しめる活動を考えてくださり、子どもたちが学校を楽しんでいると思ったり、居場所となったりしている。												
・朝の読み聞かせ 月に数回、定期的にボランティアの方が入り各学級に朝の読み聞かせを行っている。子どもたちは興味深く聞き入り、本の楽しさを味わい、本に親しむ子の育成につながっている。												
・国語での書写支援 書写の時間に各学級へボランティアの方が入り、担任の補助的な役割を担っていただいている。子ども一人ひとりに丁寧に筆遣いなどの基礎的な技能について指導できるため、子どもたちの技能と学習意欲の向上につながっている。												
・その他、クラブ活動や菊作り・米作り、街頭指導等、年間を通してご協力いただいている。												

学校の概要	学校名	千曲市	立八幡小	学校	学校長	宮坂博喜	児童生徒数	207	名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○		ボランティアのリストがある	
		市町村教委	○	自治会代表	○				ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○				ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	八幡っ子支援委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人
				ボランティア代表					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0	人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	7月29日(コロナの感染が拡大したため中止) 2月(期日未定)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		八幡っ子支援委員長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	心ゆたかに たくましく生きる子ども										
地域と共有された育てたい子どもの姿	～つなげる・つながる八幡っ子～ ・人やふるさとを大切にする子・相手の言葉に耳を傾け、受け止める子 ・友だちの発言からつながって、自分の考えを深められる子 ・いじめや差別をしないやさしい子 ・友だちのよさを見つけ、友とのかかわりから学ぶ子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○		
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	90	人	
								参加者延べ人数	60	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
	地域の方々と一緒に校庭の草取り(5/13)			地域の方に教わりながらの田植え(6/8)			地域講師によるクラブ活動(9/12)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
本校では、地域の皆さんと児童と一緒に校庭の草取りなどの環境整備に取り組む活動を年に2～3回実施してきた。地域の皆さんと児童と一緒に活動する中で、お互いに触れあうことができるよい機会ととらえてきた。今年度はコロナの対応をとりながら、運動会に向けた環境整備ということで、地域の皆さんが校庭の草取りを、児童が石拾いを行った。また、校舎周辺の清掃作業もしていただいた。約40人の地域の皆さんが参加して下さった。地域の皆さんからは、子どもたちと一緒に、おしゃべりしながら活動することができ、また、自分の母校である小学校に時々来ることができてうれしいとの感想もいただいた。同じ時間に一緒に活動することで、地域の皆さんとつながることができたと思う。											

学校名		千曲市 立 治田小		学校	学校長	松田 幸一		児童生徒数	304 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	治田型コミュニティスクール推進委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ボランティア代表 児童センター館長		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月27日 10月31日 2月7日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	「ふるさと治田」に学ぶ 心ゆたかな子ども 1 進んで学ぶ 2 支え合う 3 最後までやりぬく									
地域と共有された育てたい子どもの姿	○あひさつができる子ども ○地域を知り 地域を愛する子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○
2	学校運営への必要な支援について				○					
3	地域の実情や課題について				○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	80 人	
						参加者延べ人数		45 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		ふるさと学習(通年)		四季の会による読み聞かせ(全11回)			ふれあい草取り・落ち葉掃き(11/1,2)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>・地域ボランティアを募って、「ふれあい草取り・落ち葉掃き」を行った。コロナ禍であっても、学校や子どもを支えたいと願う大勢の地域の方が集まってくださった。その中で子どもたちは、地域の方々の協力により校地がきれいに整ったことへの感謝の気持ちはもちろん、地域の方々の学校を想う気持ちに触れ、「地域の中の自分・学校」「地域に大事にされている自分たち」を感じることもできた。こういった気持ちの積み重ねが、地域と共有された育てたい子どもの姿の一つ「地域を愛する子ども」へも繋がっていくと考える。</p> <p>・総合的な学習の時間、生活科を中心に、学校全体で大事にしている「ふるさと学習」の取り組みを全学年で進めている。5学年では3年生時より地域探検を継続し、「地域のよさや課題」の発信や「地域の観光地マップ」の作成をめざしている。これらの学習、活動を通し、子どもたちは、一つの出会いがまた新たな出会い、学習に繋がっていくことを実感し、さらに自分たちの求める学習に積極的に協力してくださる地域の方の存在を知った。地域を知ること、地域で学ぶことを楽しむ子どもが育ってきている。</p>										

学校の概要		学校名	千曲市	立屋代小	学校	学校長	川辺 敏彦	児童生徒数	426 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表			○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表			ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員			ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	屋代小学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 7 人
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	・5月17日(火) ・2月27日(月)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	豊かな心を持ち、たくましく生きる屋代の子ども								
地域と共有された育てたい子どもの姿	自分らしく輝く屋代の子ども ～自立・共生・郷土愛～ ・大好き自分! ・大好き友だち! ・大好き屋代!								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数		70 人 参加者延べ人数 390 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児	校庭整備・環境整備	○	学校行事(マラソン大会)補助	○
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
		登下校見守り(通年)		運動会前校庭整備補助(5月末)		学校行事支援「マラソン大会」(11月)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
❖ 登下校の見守り 本校は、市街地にあり、国道18号線やしなの鉄道の踏切を渡ったりして登下校する児童が多数おり、登下校の交通安全は喫緊の課題である。そんな中、地域の見守り隊の方が、毎日、街頭に立ってくれたり、一緒に歩いてくれたりしている。世代交代等の問題もあり、人数が減ってしまったが少年補導員の方の加入もあり、約30名の「屋小応援隊 安全見守り隊」として、現在、活動をしている。 子どもたちは、悩みを聞いてもらったり、危ないことをしているときには注意してもらったり、また、それを学校に連絡してくださる見守り隊の方も多。登下校の見守りを通して、交通安全の防止はもちろんのこと、子どもたちと地域の方とのつながり、学校と地域とのつながりを築いていただいている。									




学校の概要		学校名	千曲市	立東小	学校	学校長	山崎 俊子	児童生徒数	293 名														
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																							
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																		
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある															
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)															
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある														
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表		○															
		○		○		学校長・教頭以外の学校職員		○															
東小学校学校運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人														
名称							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人														
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		6月28日 1月31日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)															
								地域住民															
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)															
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																							
学校教育目標		たくましく かしく やさしく																					
地域と共有された育てたい子どもの姿		心も体もたくましく 確かな学力 人やものを大切に作る心																					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況																		
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○														
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○														
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○														
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		48 人														
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		参加者延べ人数		125 人														
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間			
		清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		○		国際理解		○		託児		○				○				○			
学校・家庭・地域の協働した取組例																							
		交通安全教室(4月22日)				家庭科裁縫授業(6月15日)				アプリコットタイム(大正琴: 9月14日)													
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																							
東小学校の特色ある取り組みの一つがアプリコットタイムです。今年も12の講座が設けられ、すべて地域の方に講師をお願いしてのクラブ活動です。具体的には、歴史・探検、茶道、将棋、絵手紙、染め物・機織り、フラワーアレンジメント、大正琴、陶芸、コンピューター、造形工作、手芸、書道の12講座です。どの講座も、その道の「達人」からご指導いただけることもあって、高学年の子どもたちは毎年「どの講座にしようかなあ」とうれい悲鳴をあげています。6月、9月、10月、11月の4回、毎回90分のゆったりとした時間で開催しています。この取り組みにより、自ら積極的に関わろうとする力、多くの方と交わる力、互いのよさを認め合い協調する力、自分の成長や変容を自らとらえる力、周囲の人の生き方を参考にしつつ自らの生き方を振り返る力の育成を目指しています。地域の子どもたちを地域で育てる取り組みとして、これからも大切にしていきたいと思っています。																							

学校の概要		学校名	長野市立	立柳町中	学校	学校長	北村康彦	児童生徒数	488名							
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について											
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある								
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)								
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			○ ボランティアと学校の情報交換会がある								
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある								
名称		柳中教育ボランティア運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)								
						地域コーディネーター		1人								
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人								
会議開催数(予定)		2回		今年度開催日(予定)		5月27日 3月2日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)								
								地域住民								
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)								
								コーディネーター								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																
学校教育目標		思いやり、自由、創造														
地域と共有された育てたい子どもの姿		1 学校と地域が連携する中で、地域の中に生かされていることの感謝の心を育むとともに、自ら地域に貢献していこうとする生徒 2 互いの違いや存在を認めつつ、共に生きていくために、豊かな情操に支えられた優しく思いやりのある生徒 3 自己の欲望や弱い心に束縛されない、独立した自由のために、真の自分らしさや個性につながる心身ともに自立した生徒 4 基礎的な学力の定着を図り、主体性と創造性を育成しながら、変化の激しい時代に対応できる判断力や問題解決能力をもつ生徒														
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況											
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○									
2 学校運営への必要な支援について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。											
3 地域の実情や課題について					3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)											
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		60人							
5 教職員の任用に関する一般的な要望について							参加者延べ人数		10人							
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○	読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動	○	給食		休み時間			
		清掃			ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援			コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
		土日・長期休業教科・体験学習			地域の伝統文化の継承に係る活動		○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)			遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育			国際理解			託児								
		学校・家庭・地域の協働した取組例														
		花の苗植え(5月31日)		放課後自習室(毎週水曜日)		花の苗植え(10月21日)										
代表的な協働した活動の取組例																
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																
・学校の花壇に花の苗を植えています。生徒の中から希望者を募って、3年生を中心に一緒に活動を行いました。活動には環境委員会の生徒も協力し、花の成長を楽しんでいました。季節の花の名前を覚え、家庭でも育ててみたいなど感想を話す生徒もいました。																

学校の概要		学校名	長野市	立	桜ヶ岡中	学校	校長	中村 康則	児童生徒数	565 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		○		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○				公民館代表		PTA代表		○	ボランティアと学校の情報交換会がある
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	桜ヶ岡中学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
			学校評議員 同窓会長						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	第1回 6月6日(月) 第2回 10月18日(火) 第3回 1月23日(月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	「いのち輝く学校」										
地域と共有された育てたい子どもの姿	1 豊かな感性と表現力をもつ生徒 2 物事に集中して取り組む生徒 3 深い思いやりのある生徒 4 希望や目的をもって取り組む生徒 5 桜中と長野を愛する生徒										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		60 人	
								ボランティア登録者人数		21 人	
								参加者延べ人数			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ	○	児童会、生徒会		クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		環境整備(校庭の芝刈り) 毎週土曜日		さくらシアター(11月2日)		生花(各行事等で実施)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
年間2回実施している春と秋の読書旬間において、読み聞かせボランティアの方による「さくらシアター」を全校生徒を対象に計画している。しかしながら、令和2年度、3年度、4年度の春の読書旬間は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、「さくらシアター」を中止としたが、秋の読書旬間では、新型コロナウイルス感染症対策として、3年生のみを対象として「さくらシアター」を実施した。											
「さくらシアター」は、卒業生保護者や保護者を中心とする地域の方による映像と、ドラム、ピアノの生演奏により、名作や古典など様々な作品を上演する朗読会です。過去の上演作には、「平家物語」「ゲルガメシュ王物語」「十五少年漂流記」「三国志」「注文の多い料理店」などがありました。											
新型コロナウイルス感染防止対策のため、2年間の中止となった「さくらシアター」は、3年生にとって初めての開催となりましたが、「耳なし芳一」を上演し、映像と音楽、大スクリーンでの朗読は、迫力もあって感動している3年生の姿が多く見られました。											




学校の概要		学校名	長野市	立 東部中	学校	学校長	篠原 謙治	児童生徒数	633 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
名称	東部中学校 信州型コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 学校評議員、地域ボランティア代表、ライオンズクラブ代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月2日(金)、2月6日(金) 予定			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		「道ひとすじに」							
地域と共有された育てたい子どもの姿		1 自分から行動できる生徒 2 規律を重んじる生徒 3 人の心に寄り添える生徒 4 命を大切にする生徒							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		12 人
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		参加者延べ人数		80 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解	○	託児	○		○		
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
C&G活動(6月15日)		スタディフェス(5月23日)			東部中レオクラブの販売活動(5月16日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
登校までの区間でゴミを拾い(Clean)、元気よく挨拶を行う(Greeting)活動をC&Gと呼んでいる。今年度は、企画者(生徒)の呼びかけで有志の生徒が約50名集まった。 6月15日から3日間、北長野駅や吉田小学校前で、長野グリーンシティ・ライオンズクラブ、民生児童委員、シルバー人材センターの方々と一緒に、朝の挨拶運動とゴミ拾い活動を行った。 企画者の生徒は「思っていたよりもたくさんの人に参加してもらってよかった。挨拶は学校の中のものというイメージだったが、地域の方と挨拶ができてよかった。今後、活動場所をさらに増やしたい。」と語っており、地域の中でも人間関係が希薄になるコロナ禍の中、声を掛け合うことの心地よさを味わうことができた。									




学校の概要		学校名	長野市	立 西部	学校	校長	藤松隆雄	児童生徒数	197 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			ボランティアと学校の情報交換がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○					
西部中学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		4 人				
		教頭(加茂小、芋井小、山王小) 教頭(長野商業高)					地域学校協働活動推進員(教育委員会委員の委嘱を受けた者)		0 人				
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)		6月20日、9月30日、1月23日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)					
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
								その他 長野県中小企業家同友会 西部中地区会員					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		志 高い意志を持ち、進んで学ぶ生徒 恕 自他を大切に、思いやりの心が豊かな生徒 誇 礼節を重んじ、誇りを持って堂々と生きる生徒											
地域と共有された育てたい子どもの姿		ともに学び、思考・判断・表現する力を養う 自主・自律と共生の精神を育む 心身と社会力・人間力を鍛える											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○				
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		65 人				
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		参加者延べ人数		51 人				
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		クラブ、部活動	給食	休み時間	
		清掃		○	ICT		○	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		出張ハローワーク(6月7日)			学習ボランティア(6月～)			地域清掃(10月31日)					
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
出張ハローワーク 【目的】職業についての視野を広げるとともに、働くことの意義や生きがいについて考える。また、社会人の生き方に触れることを通して、自分自身の将来へのキャリア形成の見通しをもつ。 【一緒に取り組む地域の方々】長野県中小企業家同友会長野支部及び長野青年会議所の方々 【内容】身近な地域で働く様々な業種の方を招いて、話を聞いたり、仕事を体験したりする。 【成果】生徒たちはこれまで知らなかった職業や興味のある職業について、話を聞いたり、疑問に思っていることを質問したりして、職業について学ぶだけでなく、働く人たちの仕事に対する思いに触れることを通して、将来の自分の生き方について考えることができた。													

学校の概要		学校名	長野市	立三陽中	学校	校長	横澤 秀信	児童生徒数	568 名								
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																	
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について												
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある									
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)											
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○								
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○									
名称		学校評議員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 児童養護施設寮長、主任児童委員、青少年育成委員、交番所長、三陽クラブ会長、Mウェーブ大通り振興会副会長、校長、教頭、教務主任			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)									
		地域コーディネーター		1		人											
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0		人											
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		6月17日、2月16日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)									
								地域住民									
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)									
								元PTA会長									
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																	
学校教育目標		心豊かに たくましく生き抜く生徒															
地域と共有された育てたい子どもの姿		自ら問いを立て、方法を考え、仲間と協働し、新たな価値を創り出す生徒															
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況												
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○									
2 学校運営への必要な支援について		○															
3 地域の実情や課題について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○									
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○									
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4 協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数 15 人									
								参加者延べ人数 75 人									
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		休み時間	
		清掃				ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)				遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育				国際理解		託児									
																	
		交通安全啓発活動(毎月第1水曜日)				1年地域探検(1・2学期に3回)						2年職場体験学習(7月20日～22日)					
代表的な協働した活動の取組例																	
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																	
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																	
交通安全啓発活動 9年前の痛ましい事故を風化させないように、事故のあった西尾張部交差点で、毎月第1水曜日に古牧地区住民自治協議会・警察署・長野市と協力して取り組んでいる。継続して、中学生が呼びかけていくことで、ドライバーへの注意喚起ができています。10月には、萩原市長も参加し、共に啓発活動を行った。中学生が継続的に活動していくことで、地域住民の交通安全意識の高まりにもつながり、また地域住民が共に活動してくれることで、中学生が自分たちの活動の価値を再認識することができている。地域の広報や学校だより等を通して、広く呼びかけを続けている。																	




学校の概要		学校名	長野市	立 東北中	学校	学校長	佐藤裕美	児童生徒数	520 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			○		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員			○		ボランティアと学校の情報交換会がある	
名称	東北コミュニティスクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
				同窓会長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	5月30日 7月14日 10月21日 1月19日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	豊かな発想に立ちたくましく求め続ける自己の実現 ～予測不可能な時代を力強く生きる～									
地域と共有された育てたい子どもの姿	○毎日、元気に、楽しく登校する東北中生 ○自ら考え、主体的に困難を乗り越えることができる東北中生 ○目標に向かって全力で取り組める東北中生 ○地域と共に歩み、地域を愛する東北中生									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		45 人
								ボランティア登録者人数		50 人
								参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間				
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○		
	人権教育	国際理解	託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	Happy Flower Project(5～10月)		地域のお年寄りとの交流会(10月20日)		長沼小学校児童との交流(9月27日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
企画名「Happy Flower Project(2学年)」 千曲川氾濫被災地(穂保地区堤防外)の耕作放棄地にひまわりを咲かせようという、地域団体(team SHIRO、穂保希望のつどい実行委員会)に協力。 ・4月:3年生からひまわりの種の引き継ぎ。 ・4月中:クラスごとルーム長を中心にひまわりのデザインを考える。 ・5月10日(火):各クラスルーム長、ひまわり畑の下見。 ・5月30日(月):2学年全体でひまわりの種まきを実施。 ・7月14日(木):2学年全体で、各クラスひまわり畑の草取りを実施 ・8月19日(金):2学年有志によるひまわり鑑賞会(夏休み中のため) ・9月12日(月):2学年全体で、来年度に種を引き継ぐために、ひまわりの収穫を実施 ・9月12日以降:2学年の有志で、朝の時間等を使い、ひまわりから種をとったり、種を乾燥させたりする活動を実施 ・10月20日(木):ひまわり畑の跡地に菜の花の種を植える。 成果:「自分たちの力で少しでも地区の人々を励ましたい」「悲しい思いから明るい気持ちになってほしい」「災害が忘れられないように活動を通して考えたい」等、被災地区の復興を生徒なりに考えながら活動に取り組む生徒が多かった。										

学校の概要		学校名	長野市立北部中学校	学校長	田中 昭道	児童生徒数	612 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		公民館代表		○		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○	
		学校長・教頭以外の学校職員		○		○	
名称		北部中コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
						地域コーディネーター 1 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月21日(金) 10月1日(土) 1月27日(金)	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		心は清く 眞理をもとめよ 身はすこやかに つよきたえよ いずれの日かは 代を負い立てよ					
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・自ら問いをもち、主体的に対象や他者と関わりながら学ぶ生徒 ・いつでも、どこでも、だれにでもあいさつする生徒 ・もくもくと汗を流してそうじする生徒 ・学校内に歌声を響き渡らす生徒 「北中 PRIDE」 					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 15 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		参加者延べ人数		75 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会 ○	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		あいさつ運動(毎月1日実施)		地域めぐり(10月14日)		ボランティア活動への参加(10月22日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>・今年度は、1年生が総合的な学習の時間の中で、地域を知る学習を行いました。歴史や文化、自然や防災、産業等を知ることができる7つのコースに分かれて、地域内を巡りました。地域を案内してくれるのは、すべて地域のみなさんです。それぞれのコースに詳しい地域のみなさんが、実際に生徒と一緒に歩き、案内し、それぞれの場所の解説をしてくださいました。生徒たちはコースの内容を見て、自分の行きたいコースを選び、事前学習も地域のみなさんで行い、当日は実際に自分の目で確かめ、理解を深めることができました。北部中学校では、1年生が地域学習を行うようになっていたのですが、コロナで中断していましたが、今年度は、今年からコミュニティスクールコーディネーターに就任していただいた、元北部中学校の教員の小松先生のおかげで、地域のみなさんに声をかけ、案内してくれるみなさんが集まり、実現することができました。学校をよく知り、地域もよく知るコーディネーターの存在は、本当に重要で、地域との連携には欠かせない存在であると改めて実感することができました。</p>							

学校の概要		学校名	長野市	立 裾花中	学校	学校長	土屋 次男	児童生徒数	611 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		PTA代表		○				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○				
裾花中学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人			
名称							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		5	回	今年度開催日(予定)		5月20日、7月25日、8月30日、11月4日、2月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)				
								公民館職員(公民館長・公民館主事)				
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
								公民館長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		丹精、自律、敬愛										
地域と共有された育てたい子どもの姿		生徒から地域の方々に関わり、地域に貢献し、地域の方を元気にさせるWIN・WINの関係を創り出す										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○			
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	人			
								参加者延べ人数	10 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ		児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
		あいさつ運動(6月)		ダンス活動(6月～11月)		職場体験学習(8月)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)												
6月に、3年生を対象に「キャリアシンポジウム～さあ始めよう！新しい自分づくり」が開催され、プロダンサー(2名)とNHKアナウンサー(1名)を招いて、中学生、高校生の頃の体験談を中心に、夢をかなえていくまでに大事にしてきたこととお話いただいた。最初は緊張気味の生徒たちだったが、次第に仕事へのやりがいを求める3人の真剣な姿と楽しいお話に引き込まれていった。また、10月～11月にかけて、計4回ダンサーを招き、ヒップホップなどのダンスを学び、保護者に向けて発表した。期間中は、休み時間などに自主的に練習に取り組む姿が増え、仲間で作成する喜びを味わっていた。ある生徒は「他者と比べず、自分のペースで本当になりたいものを見つけていきたいと思いました」など、自分の生き方を見つめ直し、受験につなげていこうとする様子が見られ、ダンスに取り組むことで得られるよさを実感することができた。												

学校の概要		学校名	長野市立 犀陵中 学校			学校長	山森 俊浩		児童生徒数	558 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	犀陵コミュニティ委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	0	人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			0	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)			第1回6月9日(木) 第2回11月4日(金) 第3回2月9日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	知に生き 愛に生き 信に生き 美に生き 夢に生きる										
地域と共有された育てたい子どもの姿	『自立』～主体的な学び 明るい挨拶 響く歌声 安心・思いやり～										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		20	人
								ボランティア登録者人数		10	
								参加者延べ人数		10	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○		
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	あいさつ運動(5/12、18、9/14、15)		からしクラブによる写真の展示(通年)			詩吟の授業(1月予定)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<ul style="list-style-type: none"> 大豆島住民自治協議会の民生児童委員の皆様からの提案により、生徒会と一緒に朝のあいさつ運動を実施した。毎週昇降口前で行っている生徒会のあいさつ運動に地域の皆様加わる形で行った。 生徒たちの中に緊張感が生まれるとともに、地域の方々との一体感を感じることができる活動となった。この時だけでも、あいさつを意識する生徒も増えた。参加した地域の方々からも好評で「中学生から元気をもらった」「今後も続けたい」という言葉をいただいた。 											




学校の概要		学校名	長野市	立 篠ノ井東中 学校	学校長	山下由紀子	児童生徒数	371 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表			○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		篠ノ井東中学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 篠ノ井中央地区会区長 篠ノ井東部地区民生主任児童委員 保護司会会長 中学校区の小学校長		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人
会議開催数(予定)		3 回	今年度開催日(予定)	6月20日(月) 10月28日(金) 1月28日(土)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		篠ノ井地区住民自治協議会 篠ノ井交流センター長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		人にやさしさ 自分につよさ - 春風をもって人に接し 秋霜をもって己を慎む -							
地域と共有された育てたい子どもの姿		○礼儀正しく、自他を大切にす心豊かな生徒 ○志をもち、進んで学ぶ生徒 ○粘り強く、集中してやり抜く生徒 ○地域への愛着と誇りをもった、自立した生徒							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について	○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○			
3	地域の実情や課題について	○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	8 人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	5		参加者延べ人数	10 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育	○	国際理解	託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例									
	1年:職業講話(9月2日、9日)		2年:職場体験(7月14日～15日)		3年:地下道清掃(7月14日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
・コロナ禍で多くの学校が職場体験の受け入れ先探しに苦勞する中、本校では今年度も地元篠ノ井の事業所の皆さんが中心になって「職場体験」に協力していただき、生徒たちは全員、地域に出て学んできた。そこで学んだことをもとにして、働くことや地域の方々の思いを深めることができた。今年度は学んだことをポスターセッション形式にして、お互いに学んだことを発表し合う予定である。その際、お世話になった企業の方々にもお招きして、発表をご覧いただき、さらにアドバイスもいただく。働くことへの意識を高め、また地域の方への感謝の気持ちを感じたり、自分の進路選択について考えたりする良い機会としていきたい。									




学校の概要		学校名	長野市 立 篠ノ井西中 学校		学校長	早川 和仁		児童生徒数	553 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	篠ノ井西中学校コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 学校評議委員				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月2日(木) 11月25日(金) 1月25日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	人権を尊び 自らが高いめあてを持って たくましく生きる生徒の育成をめざす											
地域と共有された育てたい子どもの姿	礼儀正しく、人の気持ちを大切にする生徒 自ら学び、進んで発表する生徒 粘り強く、集中してやり抜く生徒											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 10 人 参加者延べ人数 28 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間				
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習				
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○			
	人権教育		国際理解	託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例							3学年平和学習(7月21日)		2学年キャリア教育(7月21日)		1学年地域学習(10月29日)
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
・1学年は、総合的な学習の時間として篠ノ井地区の地域学習を行った。篠ノ井地区を調べ良さを広めようと、学区内の地区をグループに分かれて担当し、それぞれの地域の歴史や文化、企業を調べ、さらに調べたいことを決めだし、実際に訪問する計画を立てた。7月に行った1回目では、訪問前にそれぞれの場所にアポイントを取るときには、緊張でガチガチになりながら行ったり、当日のインタビューでは、声が小さくなってしまったり、見学時間によって帰りのバスに乗り遅れるなど課題が残されたが、10月に行われた2回目では、笑顔でアポイントを取ったり、たくさん質問したりすることができ、充実した見学を行うことができた。今回協力してくださった方々は、ボランティア登録をしていない方がほとんどであったが、篠ノ井西中学校の活動ということで、快く引き受けてくださったり、1回目の説明よりもっと丁寧にたくさんの情報を子供たちに伝えたいからと、どんなことを子供たちは知りたいのかと学校へ問い合わせをしてくださった方もいて、とても子供たちにとって学び多い見学となった。												

学校の概要		学校名	長野市	立松代中	学校	校長	秋山 昇	児童生徒数	358 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		○		自治会代表		○		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		
名称	松代中学校コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		
					・NPO法人夢空間の事務局長、理事 ・エコール・ド・まつしろ倶楽部事務局長 ・松代社会福祉協議会顧問 ・学校評議員 ・地域住民			地域コーディネーター 3 人		
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		7月1日、11月11日、1月31日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
								地域住民		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		友愛・秩序・団結								
地域と共有された育てたい子どもの姿		・「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成 ・「ふるさと松代」に愛着をもつ生徒の育成 ・文武両道を目指し、心身ともに健康な生徒の育成								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2 学校運営への必要な支援について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
3 地域の実情や課題について		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 15 人		参加者延べ人数 92 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○								
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		○	
	清掃		○		ICT		学習ボランティア		○	
	土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○	
	人権教育		○		国際理解		託児		○	
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		リスペクトするワクワク感にあふれた松代プログラム(10月21日)		総合的な学習の時間「地域探検」(10月13日)		七面さん縁日ボランティア(8月8・9日)				
代表的な協働した活動の取組例										
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
【リスペクトするワクワク感にあふれた松代プログラム】 ・松代地区の歴史・文化・芸能等に関わる地域講師をお迎えして体験学習を実施。校舎全体に17種類の体験会場(教室)を設置し、1人2講座を選択して体験した。講座内容は、茶道・華道・雅楽・古武道・投扇興・童謡歌碑・甲冑着付け・箏・木工・書道・防災すごろく・ハンドベル・真田紐手織り・香道・佐久間象山・大門踊り・絵手紙を設定。 ・講師は、エコール・ド・まつしろ倶楽部(文化財活用のボランティア組織)、地域の建築会社、地域の書家などから合計70名。 ・生徒は、地域の「ひとものこと」との関わりを広げたり、伝統・文化の継承や地域活性化に関わる方々の思いや願いに触れたりすることを通して、多くの感動を味わい、地域に対するリスペクト・ワクワク感を広げた。今後も地域の「ひとものこと」との出会い・ふれあいの機会をもつとともに、地域の良さや課題を発見し、総合的な学習の時間等における探究的な学習につなげていく。										

学校の概要		学校名	長野市	立若穂中	学校	学校長	河西 哲也	児童生徒数	322 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○	
名称		若穂コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)	
					地区小学校、児童センター、幼稚園、保育園、民生委員、更生保護女性会代表、青少年育成会			地域コーディネーター 2 人	
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		6月23日(木)、2月実施予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
								保護者(PTA)	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		遅しく ゆたかに 拓く ～ やる気、根気、気づき～							
地域と共有された育てたい子どもの姿		①課題をもち、主体的に学び、考えを創る生徒 ②思いやる心・自他の違いが分かり尊重し合う心をもつ生徒 ③若穂を愛し、健全で、思いやりのある若穂人							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2 学校運営への必要な支援について					2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
3 地域の実情や課題について					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		46 人
5 教職員の任用に関する一般的な要望について							参加者延べ人数		1050 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動
	清掃		ICT		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)
	人権教育		国際理解		託児				給食
								休み時間	
								コロナウイルス対策の消毒・清掃	
								遠足・登山	
								キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例									
	総合(6.16 リンゴ摘果)		総合(6.19 中央タクシーの方のお話)		保科の郷秋祭りへの参加(10.30)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<p>・本校では、総合的な学習の時間で「地域の必要感に答える」をテーマに、活動の単位は「学級総合」としながらも、生徒自らが課題をもって探求型の学習を行っている。</p> <p>・3年生は、1年次から若穂地区の名所や事業所を散策しながら若穂の良さを味わい、2年次に校外での活動を増やしていく中で、連携する事業所とのつながりが大きくなっていった。2つのクラスは店舗や事業者との出会いから農家とのつながりができ、農作業を手伝いながら、自分たちが普段何気なく食べている果物が、いかに大変な作業によって作られているのかを実感した。</p> <p>・地域の方々から、中学生に地域の行事に協力して欲しいという要望が増え、祭やマラソンなど地域のイベントのボランティアへの参加を通して、実物に触れ、様々な人々と出会いながら活動に取り組んでいる。生徒は時に子どもや地域の方々を支える側で達成感を味わい、時に地域で活動する人々の生き様や思いに触れながら、地域の中で実感のある学びによって育まれている。</p>									

学校の概要		学校名	長野市立 川中島中 学校		学校長	小笠原 重光		児童生徒数	756 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
				市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある					
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		川中島中コミュニティスクール		[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		12月22日(木) 2月24日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		敬う心 求める心 愛する心											
地域と共有された育てたい子どもの姿		目指す生徒像『自立した生徒』 ものごとを自分の力で解決しようとする生徒 自分で感じて、考え、判断し、行動する											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○			
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数				ボランティア登録者人数 20 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数				40 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		○ クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児		福祉教育		○ 交流事業		○	
学校・家庭・地域の協働した取組例						写真							
福祉講演会 7月21日(木)		文化祭作品展示(交流) 10月7日(金)		活動名(日付)									
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>・ハーモニー桃の郷さんとの協働により、3年生を対象に福祉学習を行った。社会福祉協議会の方の協力を得て、「あいサポート研修」の講演会を企画した。地域の様々な立場の人が、住みよい社会をつくるために、私たちができることについてお話をいただき、ハーモニー桃の郷さんからも施設の様子や障がいのある方の活躍、仕事の様子をお話していただいた。生徒たちの感想では、障がいのある方への接し方や、活躍している事例について自分の見識を深められたことや、今後実践してみたいことが挙げられ、地域社会に関心を寄せる姿が見られた。</p> <p>・福祉施設花工房福祉会エコーンファミリーさんとの交流活動では、施設を利用している方々の作品を本校の文化祭で展示した。また、例年エコーンファミリーさんとハーモニー桃の郷さん主催の「ハーモニー夢まつり」の開催にあたり、本校の生徒がボランティアでお手伝いしているが、コロナ禍により今年度の実施は見送られた。</p>													

学校の概要		学校名	長野市	立更北中	学校	学校長	鎌田 建二	児童生徒数	545 名								
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																	
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について												
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある									
		市町村教委		○		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)									
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表			○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員			○ ボランティアの方を対象とした研修会がある								
名称	更北中学校コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)									
					学校評議員 ボランティア代表			地域コーディネーター	1 人								
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)	5月30日(火) 11月1日(火) 1月26日(木)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)							
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			公民館長								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																	
学校教育目標		三気(やる気・負けん気・根気) 三心(発心・決心・継続心) ～日々の実践から自己形成を実感する生徒たち～															
地域と共有された育てたい子どもの姿		友とともに学び合い、自己の可能性を追い求める生徒 自他の存在を認め合い、社会的自立を確立する生徒 地域と共に生き、心身ともに健やかで活力ある生徒															
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況												
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○									
2 学校運営への必要な支援について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○									
3 地域の実情や課題について		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○									
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4 協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	30 人								
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○						参加者延べ人数	12 人								
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		○	クラブ、部活動		○	給食		○	休み時間	
	清掃		○	ICT		○	学習ボランティア		○	総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		○	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		○	地域の伝統文化の継承に係る活動		○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○	防災学習(避難訓練)		○	遠足・登山		○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		○	国際理解		○	託児		○			○			○		
	学校・家庭・地域の協働した取組例		○			○			○			○			○		
																	
		地域清掃(6月7日)		更北地区子ども未来会議(10月24日)		独居老人鉢花プレゼント(11月4日)											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																	
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																	
<p>「更北地区子ども未来会議」 自治協が中心となり長野南高等学校、広徳中学校、更北中学校の3校が参加し行った。 今年度初めて行われたもので、3校の代表が、地域の課題や要望を出し合い話し合った。 本校は、3年正副生徒会長、2年学年生徒会代表、4名が参加した。 初めての企画で、課題等が出されたままで解決されたわけではないが、中高生が地域のことを考える機会となった。また更北地区で生活している中高生の思いや願いを地域の方に聞いてもらう機会となった。</p>																	


学校の概要		学校名	長野市	立 広徳中	学校	学校長	戸谷 明子	児童生徒数	643 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			○		ボランティアと学校の情報交換会がある
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある
名称	広徳中学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
				元主任児童委員					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月30日 2月6日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他	
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		東北地区住民自治協議会 ころはくボランティアセンター担当	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	志高く主体的に学びつづける生徒									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりと感謝の心を持ち、支え合って生きる生徒 ・課題に対応する力を身につけ、学び合い、探究する生徒 ・自分の良さを見つめ、学びを人生や社会のために生かそうとする生徒 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		人
								ボランティア登録者人数		
								参加者延べ人数	145 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育	○	国際理解	○	託児					
  										
代表的な協働した活動の取組例										
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>【2年キャリアデザインツアー】1年時に地域学習をした生徒たちが、社会や地域で活躍する人たちから、お話を聞いたり、実際に体験したりすることを通して、様々な職業について知り、お金を稼ぐこと以外の働くことの意味について考える機会とする。</p> <p>広告業、ホテル、清掃業、自衛隊、金属加工業、新聞記者、介護職、ウェディングプランナー、法律事務所、電気設備、機械製造などのブースに講師を招き、生徒はひとり2講座を選択して体験をした。10月にはこれまで学んだことをまとめ、ポスターセッションとして講師に見ていただいた。これらの活動を通して生徒は働くことの意味を学んだり、自分の興味関心がある職種の体験をしたりすることで、進路選択や将来つきたい職業について希望を持つことができた。</p>										



学校の概要		学校名	長野市	立七二中	学校	学校長	瀧田 勇治	児童生徒数	12 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		○	自治会代表		○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	学校長・教頭以外の学校職員		○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	七二会小・中学校コミュニティスクール				[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		
									地域コーディネーター 1 人	
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	令和4年 6月 1日(水) 令和5年 2月 8日(水) 予定			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	学校教育目標〈校訓「洗心」 学び修めん(真理を求め究める) 体を鍛えん(健康な体力をつける) 努め励まん(心を磨く) いざともに									
地域と共有された育てたい子どもの姿	○相手を尊重し、誠意をもって活動に取り組む生徒(礼儀、至誠) ○学習環境を整えるとともに、学校や地域の美化に努める生徒(清美) ○互いの良さを認め、共に支え合い、目標を達成しようとする生徒(協力)				○何事も最後までやり遂げる健康な心身を作る生徒(剛健) ○母校を愛し、地域のために進んで貢献する生徒(自治)					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について				○					
3	地域の実情や課題について				○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 55 人	参加者延べ人数 20 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃	ICT	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育	○	国際理解		託児					
代表的な協働した活動の取組例										
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○総合的な学習の時間(七二会の時間) ・調査探究活動…七二会中学校や七二会地区の歴史、自然、七二会中学校出身で活躍されている方等について、生徒一人ひとりが自分のテーマを決めて調べ、まとめ、発表する活動 ・調査に関して、地域の方を講師として招いたり、支所、公民館、郷土歴史資料館等に伺って、直接インタビューしたり、県外に住んでいる先輩にはZOOMを使ってインタビューしたりして、情報を収集した。 ・コミュニティスクール運営委員長(住民自治協議会事務局長)が窓口になってくださり、講師を複数名紹介していただいた。パソコンで調べてまとめるだけの学習ではなく、実際に地域の方から直接お話を聞くことで、生徒たちは大変意欲的に学習に取り組むことができた。さらに、講師の方を文化祭にお呼びし、調査したこと、まとめたことを発表することができた。										

学校の概要		学校名	長野市 立 信更中 学校			学校長	小尾 昭人		児童生徒数	6 名						
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組みについて																
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について										
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある							
			市町村教委		自治会代表		○ ○		ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○		PTA代表		○ ○		ボランティアと学校の情報交換会がある							
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○							
			[その他の委員]※具体的な役職名を記入						ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	信更学校運営委員会			区長会長 住自協教文部会長 地域代表 公民館長 同窓会長 信更夢応援団長 信更ボランティア代表 子どもプラザ施設長 民生児童委員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター	1 人					
										地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人					
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月9日 2月7日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			学校職員(教頭及び教頭以外の職員)						
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			教頭						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																
学校教育目標		『自律』『共生』『発信』 —“信更中学 新しい未来へ” 感謝 惜別 希望—														
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域が連携し74年の歴史の幕を共に閉じる。 ・ふるさと「信更」を愛し、誇りに思う生徒を育成してほしい。 ・小規模校のよさを活かした教育を行ってほしい。 														
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況										
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○				
2	学校運営への必要な支援について			○												
3	地域の実情や課題について			○		2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。							
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4			協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	4 人				
									参加者延べ人数		5 人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間			
	清掃		ICT		○		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)			
	人権教育		国際理解		○		託児									
			地域の方と閉校記念式典(10/1)			地域の方による読み聞かせ(10/5)			信更学:リンゴ栽培・収穫(10/20)							
代表的な協働した活動の取組例																
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																
<p>○本校の重点活動の1つでもある信更学[ふるさと信更を知って、地域のもつ課題を追究し、地域のためにできることを考える]で、全校で毎年リンゴづくりをしてきました。4月7日(木)、リンゴの樹木(若芽)等を鹿の食害から守るために、鳥獣よけテープを木の周りに張り始め、地域の方とつくる“やまのぶリンゴ”の活動が始まりました。今年も地域の石坂さんが生徒のために、消毒やリンゴづくりの指導をしていただきました。生徒たちは、摘みや摘果、葉摘みや玉まわしなどの作業を行い、9月中旬よりリンゴ(つがる)の収穫に入りました。</p> <p>そして、19日(水)は信更学として取り組んできたリンゴ(シナノスイート)づくりも最後の収穫となりました。今年は例年以上に、たくさん収穫ができ、「小学校に持っていけば!!」と何気ない呟きから、「それじゃここにも…」「この人にも…」と、自然と生徒から声が上がりました。行事等でお世話になった公民館・支所・住自協の方、毎日の登下校でお世話になっているスクールバスの運転手さんにも、日頃の感謝の気持ちとして届けました。また20日(木)には、地域には住んでいるものの来年から交流がなくなる小学校に、惜別の思いを込めリンゴを届けました。</p>																

学校の概要		学校名	長野市	立 豊野中	学校	学校長	高橋宏和	児童生徒数	243 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員	
豊野中学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人
名称					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人
会議開催数(予定)		2	回	今年度開催日(予定)	6月1日	2月3日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		よく見、よく聞き、深く考え、進んで実践する生徒を育てる							
地域と共有された育てたい子どもの姿		コロナ禍においても、伝統としてきたボランティア活動など地域の方と関わったり、地域に貢献したりする活動を通して、周りの人とのコミュニケーションを図りながら、意欲的に活動に取り組む生徒。							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	人
								参加者延べ人数	10 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	ICT	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育	国際理解	託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
		職業講座(6月2日)		3年ボランティア活動(7月6日)		生徒会ボランティア活動(9月12日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
本校では、例年地域に出かけ、お年寄りの施設で交流したり、小学校や道路沿いを清掃したりするボランティア運動を行っています。今年度は、3学年の施設訪問と、生徒会主催の地域清掃を実施しました。道端の草取りや清掃活動に加え、住民自治協議会の協力を得て活動することができました。									




学校の概要		学校名	長野市	立戸隠中	学校	学校長	竹腰益臣	児童生徒数	51 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○		自治会代表		○	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○		PTA代表		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○	
名称		戸隠コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
								地域コーディネーター 1 人	
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月26日(木) 2月9日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
								地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		『己に克つ』という強い意志をもち、粘り強く最後までやりぬく							
地域と共有された育てたい子どもの姿		<input type="checkbox"/> 戸隠を愛し、戸隠の未来を考える子ども <input type="checkbox"/> 心身ともにたくましく、意欲的な子ども(行動力、体力) <input type="checkbox"/> 礼儀正しく、思いやりを持った子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2		学校運営への必要な支援について			○				
3		地域の実情や課題について					2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5		教職員の任用に関する一般的な要望について					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 25 人 参加者延べ人数 10 人
地域学校協働活動の概要									
登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動	
清掃		○		ICT		○		給食	
土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		給食	
人権教育		国際理解		託児				給食	
学校・家庭・地域の協働した取組例								休み時間	
		巣箱かけ(4/13)		赤ちゃん登校日(5/27、10/28)		戸隠おろし種まき(9/9)		放課後教科・体験学習	
								コロナウイルス対策の消毒・清掃	
								遠足・登山	
								キャリア教育(職場体験を含む)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)									
○ 赤ちゃん登校日: 協力団体(戸隠公民館) 公民館の母親学級を年に2回中学校で開催し、中学生と触れ合う機会を設けている。家庭科の「幼児の生活と家族」や性教育などの学習と関連をもたせ、幼児と触れ合う活動を仕組んでいる。生徒たちは、おもちゃづくりやそのおもちゃで幼児と遊ぶことを通して、子どもの成長過程を知ったり、自己の成長を振り返ったりすることができた。									

学校の概要		学校名	長野市	立 鬼無里中	学校	学校長	久保田 聡	児童生徒数	11 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	きなさの学び舎運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 3 人	
				長野市役所鬼無里支所長 民生委員			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月11日 11月2月		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	あたたかな心で たくましく 共に学び続ける子									
地域と共有された育てたい子どもの姿	「鬼無里の、自然・生活・文化に浸りこむ児童・生徒」 「探究し合い、深め合いながら、主体的に学ぶ児童・生徒」 「自分を取り巻く社会に目を向け、他と協働する児童・生徒」									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		35 人
								ボランティア登録者人数		35 人
								参加者延べ人数		35 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動		給食		休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	ブナの植樹林整備作業(6/14)		読み聞かせ(毎月)		畑の活動(通年)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
今年度から中学校でも、中学校1, 2年生、中学校3年生を対象に、月1回のペースで朝の読み聞かせにお越しいただいている。ボランティアの皆さんは、資料の画像を使いながら鬼無里の歴史に触れたり、本や資料を使わず語りかける形式で物語を聞かせてくれたりして、毎回工夫した内容で生徒たちを喜ばせてくださっている。毎回、じっと耳を傾け物語の世界に浸っている生徒たちの姿が見られた。また、自分たちが知らなかった鬼無里の歴史を教えていただき、興味深い様子だった。ボランティアの皆さんは、生徒たちに知識・理解の力をつけてもらうことを第1の目的にするのではなく、地域のおじいちゃんやおばあちゃんが子どもに会いに来てくれたと思ってくれるといい、とおっしゃってくださっている。朝の短時間ではあるが、定期的に地域の皆さんの読み聞かせを聞く機会があり、生徒たちの心が潤う時間となっている。										

学校の概要		学校名	長野市	立大岡中	学校	学校長	山名 博夫	児童生徒数	14 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	『大岡小・中学校応援団(縁賀和)』運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 学教評議員、大岡ひじり学園長、公募、推薦委員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人		
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月9日(月) 12月上旬 3月上旬		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他			
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		わらわらクラブ(大岡こどもプラザ)施設長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	豊かに 深く 耕そう										
地域と共有された育てたい子どもの姿	○自ら学ぶ人 ○人を思いやる人 ○自ら律し行動する人 ○大岡を愛する人										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 15 人 参加者延べ人数 40 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃		ICT	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		国際理解	託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例											
			大岡を知る学習・伝統料理インタビュー(7/6)			大岡を知る学習・開墾プロジェクト(9/14)			椎茸栽培・駒うち(4/22)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
大岡を知る学習～地域に伝わる食文化～ ・山間地でありながら水が豊富で古くから米の栽培が盛んな地区、傾斜地で畑の多い地区、犀川流域で水産資源の豊富な地区など、大岡地区の中でも栽培する作物や特産物に違いがあることから、やしよま・おやき(米粉)・こねつけ・おぶっこ・おやき(小麦粉)・そば・甘い赤飯(豆)など、地域に伝わる伝統料理について調べ、自分自身で調理することに挑戦することができた。 ・食文化を支える作物の栽培に挑戦するために、校内に新たに畑を開墾するプロジェクトを立ち上げ、作業を始めることができた。											

学校の概要		学校名	長野市 立 信州新町中 学校	学校長	宮崎 桂子	児童生徒数	50 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表	
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員	
				ボランティアと学校の情報交換会がある		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
		篠ノ井高校犀峽校副校長、信州新町民生委員主任児童委員、交通安全協会信州新町支部長、信州新町商工会長、学校支援ボランティア				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		5月26日(木) 8月26日(金) 10月31日(月) 2月10日(金)	
				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		希望・真心・努力					
地域と共有された育てたい子どもの姿		・自他を認め、互いに磨き合う生徒 ・自然や郷土や人を大切に育てる生徒 ・何事にも前向きに取り組む生徒					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 60 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		参加者延べ人数		50 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
		クラブ、部活動		給食		○ 休み時間	
		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		ボランティア登録者人数		60 人			
		参加者延べ人数		50 人			
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		小学生との灯籠作り(7/23)		犀峽校におけるカヌー体験(8/31)		総合的な学習の時間(11/5信州新町フェアにおける発表)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
総合的な学習の時間において、「ふるさとの魅力を探り、多くの人に伝えよう」のテーマのもと、全学年の縦割りにより、「信州新町名鑑」「信州新町の食」「信州新町PR動画」「信州新町の自然・地理」の4つの講座に分かれ、探究学習に取り組んだ。どの講座においても、生徒が、地域の名所、博物館、店舗、地域で活躍されている方の自宅や農場などに実際に足を運び、体験したり、携わっている方々にインタビューや写真や動画を撮影したりと取材を進めた。また、新たに生まれた課題に合わせて再度訪問したり、実際に講師を学校に招いて学んだりする講座もみられた。まとめの場面では各講座で、発表用のパワーポイントの作成や動画を編集したり、地域を紹介するパンフレットの編集や校正を進めたり、体験コーナーの準備を行った。活動してきた成果は、10月1日愛郷祭での学習発表に加えて、11月5日に行われた地域のイベント「信州新町フェア」で地域の方々への直接発表をした。今回の探究学習を通して生徒たちは、地域の自然や産業などについて、新たな発見をしたり、魅力を感じたりするとともに、地域に支えられていることを感じながら、実感の伴った学びを進めることができた。							




学校の概要		学校名	長野市	立中条中	学校	学校長	原毅	児童生徒数	17名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○	自治会代表		○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○	ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	学校長・教頭以外の学校職員		○	ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	中条コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		
			地域コーディネーター		2		人		
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0		人			
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月9日 2月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		中条交流センター長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	「敬愛・努力・感謝・自他」 挨拶をしよう・すすんで学習しよう・ふるさとに誇りをもとう・今ある自分を大切にしよう								
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことや経験をもとにして自分の思いや願い、考え方を友と語り合い、聴き合うことを通して学びを深めていく姿。 ・多様な集団の中でも自分の考えを積極的に、わかりやすく表現し、自己の力を発揮しようとする姿。 ・「ふるさと中条」の歌に込められた地域の思いに誇りを持ち、中条で学んだことをもとに自らの生き方を考え、自らを伸ばそうとする姿。 								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○
3	地域の実情や課題について			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4			協働活動に参加したボランティアの人数	24人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について							参加者延べ人数	20人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
なかじょう科: 西山小唄(5月～9月)		1, 2年合同虫倉山登山(7月21日)		大豆種まき(6月)収穫(11月)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
一昨年度から隔年で地元の山である虫倉山登山を1, 2年生合同で行っている。登山実施に当たっては地元の山岳会の方にご協力いただいている。登山の事前学習の場面では、山岳会会長から虫倉山のすばらしさに触れながら登山の心構えなどについてお話しいただいた。登山当日は6名の山岳会の方に参加していただいた。登山のペースをつくっていただいたり、急斜面では子どもたちが自分の力で登り切れるよう、手足を置く位置の助言をしていただいたり、途中に見られた植物や希少動物の説明をしていただいたりした。一番難しいコースからの登山であり、体力的にも不安を抱えていた子どももいたが、山岳会の方の適切な支援のおかげで、全員が自力で山頂に立つことができ、一人一人が達成感、充実感を味わうことができた。									



学校の概要		学校名	長野市	立長野中	学校	学校長	菅沼 尚	児童生徒数	210 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			○		ボランティアと学校の情報交換会がある
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員			○		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	長野市立長野中学・長野高等学校学校評議員会(学校運営委員会を兼ねる)				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 近隣の小中学校長・教育関係の役職関係者			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
	会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月10日 2月中旬			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	副校長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	知・徳・体のバランスのとれた生きる力を持ち、国際的な視野に立って地域の発展に貢献する人材の育成									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間の体系的・系統的な教育を通して、高い教養と健康な心身を持ち、地域社会を担うことができる。 ・多様な体験活動を通して視野を広げ、生涯にわたって主体的に学ぶ姿勢を継続できる。 ・故郷を愛する心を持ち、グローバルな視野を持ちながら、地域社会で活躍できる。 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○
2	学校運営への必要な支援について				○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○
3	地域の実情や課題について				○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	4			協働活動に参加したボランティアの人数	0 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4			参加者延べ人数	80 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃	ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	きせきの味噌プロジェクト(年間)		2学年職業体験(9月)		善光寺ウォーク(10月)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
2019年10月の台風19号災害で被害を受けた小川醸造場(長野市長沼)のみそづくり復活を目指して、2020年3月に地域のNPOをはじめとした団体や個人が集まりプロジェクトが立ち上げられた。本校の1年生70名がこのプロジェクトに参加して3年目、プロジェクト最終年度となっている。まず、6月にみそ作りやみその文化について学び、その後、小川さんの畑で大豆の種蒔きを行った(写真左)。総合的な学習の時間では、みそ作りや台風被害からの復興について自分の問いを立て追究を続けている。夏休み中も草取りをおこない、11月には収穫体験を行った。生徒は、身近に起こった自然災害からの復興や日本の伝統的な食文化である味噌について、体験活動や調査活動等を通して学んだり、小川さんの生き方にふれたりする中で、視野を広げ、故郷を愛する心を育み、地域社会に自分たちなりに貢献する喜びや楽しさを実感している。										

学校の概要		学校名	信州大学教育学部附属長野中学校		学校長	北澤 嘉孝		児童生徒数	614 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
			市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	※信州型コミュニティスクールの運営委員会、学校運営協議会はありませんが、その一部の機能を含む組織として「学校評議員会」「ヒューマン・ウィーク推進委員会」があります。			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人	
				PTA代表 学校評議員 区長 中小企業家同友会			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	6月1日 6月8日 10月26日 2月8日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)				
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		ともに学び 一人となる									
地域と共有された育てたい子どもの姿											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について					1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について					2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	人	
								参加者延べ人数	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間				
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習				
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○			
	人権教育	国際理解	託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
3年 総合的な学習の時間「これからの社会を生きる私」 「これからの社会や自己の将来に関わる学習において、『人・もの・こと』と直接関わりながら課題を解決し、自己の生き方を考えていく」学習を設定し、そのために、「起業活動コース」「貢献活動コース」「表現活動コース」「交流活動コース」の4つから自分の追求に近いコースを選択して活動する。 【成果】 ○児童生徒・・・起業活動コースでは、株式会社アルキャストの全面的な支援を受け、環境にやさしい竹紙をつかった製品の開発を行った。開発した商品はPTAバザーに合わせて販売活動も行った。 ○企業・職場の方・・・中学生の様々なアイデアを評価することをお願いして、何回も足を運んでいただいた。アルキャスト側でも生徒の発想を自社開発製品の改良に役立てる部分もあり、互いにより刺激になったとの感想をいただいた。											




学校の概要		学校名	須坂市	立常盤中	学校	小林 俊子	児童生徒数	350 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	常盤中学校応援団		[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)			
			同窓会長 歴代PTA会長 主任児童委員代表 民生児童委員代表 青少年育成委員代表 小学校保護者代表 社会教育委員 市立博物館長 市立図書館長				地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月24日(10月1日) 1月30日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		須坂市中央地域公民館長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	「たくましい人になる」 ・課題をもって取り組もう ・ねばり強くやりとげよう ・自他を尊び、共に歩もう									
地域と共有された育てたい子どもの姿	自ら「感じ」「考え」「解決」することができるたくましい生徒 ・自他ともに大切にし、感謝と感動の思いのある生徒。 ・心身ともに健康で、何事にも向かっていけるたくましい力のある生徒。									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○	
2	学校運営への必要な支援について				○					
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数	8 人	
								参加者延べ人数	320 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃	○	ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解	託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		音楽会ピアノ伴奏(10月1日)		放課後学習(毎週水曜日)		ボランティア新聞(1、2学期)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ボランティアの方々による、日常の授業や放課後学習などの支援で、生徒の学習への取組状況が向上したり、わからなかった問題がわかるようになったりした。また、学習プリントの印刷や○付け、提出物のチェックをボランティアの方に行っていただくことで、教科担任の業務削減につながる事ができた。 ・合唱部顧問と日々の練習指導だけでなく、音楽会や地域の文化祭の発表、SBC合唱コンクールなどで、ピアノ伴奏をしていただき、合唱部の活動を支えていただいた。 										




学校の概要		学校名	須坂市	立相森中	学校	校長	西原秀明	児童生徒数	306名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○		ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○	ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	相森中学校学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ボランティア代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1人	
	会議開催数(予定)		3回	今年度開催日(予定)		5月31日 9月9日 2月16日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		民生児童福祉委員	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		「優しさと輝きのある中学生」									
地域と共有された育てたい子どもの姿		○地域でも挨拶のできる生徒 ○主体的に学ぶ生徒 ○自分たちの住む地域に誇りを持ち生活できる生徒									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2		学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
3		地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○		ボランティア登録者人数		4人		
							参加者延べ人数		70人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動		
	清掃		ICT		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		
	人権教育		国際理解		託児		○		給食		
								給食		休み時間	
								コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
								遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		2年職場体験学習(5/26)			1年福祉体験学習(7/5)			壮心塾(放課後学習)(6月～3月)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
・今年度も2年生の「職場体験学習」は、新型コロナウイルス感染症の影響で事業所での体験が難しいため、商工会議所や地域の事業所の方々の協力もあり、中学校で様々な職業を体験させていただいた。25の事業所がそれぞれの教室に分かれ、生徒たちは前半と後半で2つの事業所を体験しました。生徒たちも実際に職場の方の話を聞いたり、仕事を体験したりすることで働くことの意義や自分の進路について考えるよい機会になりました。											
・壮心塾(放課後学習会)にも15名前後の生徒が参加して、地域の学習ボランティア3名の方に支援していただいている。自習形式ではあるが、自分のわからない所を質問したり、ボランティアの方が声をかけたりして基礎学力の向上に努めてきた。											

学校の概要		学校名	須坂市 立 墨坂中 学校			学校長	坪井 扶司夫		児童生徒数	492 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	墨中コミュニティスクール		[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人	
			ボランティア代表 市内高等学校校長 同窓会長 主任民生児童委員						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)			令和4年7月14日 令和4年9月30日 令和5年2月6日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	立て心よ 行け私よ ～自律に向け、心を立てて行動を起こすことができる生徒～											
地域と共有された育てたい子どもの姿	主体的に学習に取り組み、粘り強く「賢く」追究できる生徒 心も体もたくましく、「賢く」誠実に生活できる生徒 自分を厳しくみつめ、他を思いやり、「共育ち」できる生徒											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について					○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					○
2	学校運営への必要な支援について					○						
3	地域の実情や課題について					○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について						4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		3 人	
									参加者延べ人数		77 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	給食	休み時間					
	清掃	ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習					
	土日・長期休業教科・体験学習	○ 地域の伝統文化の継承に係る活動	○ 子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)					
	人権教育	国際理解	託児									
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
	学習支援ボランティア(夏休み、2学期水曜日)		天明五閑太鼓(10月1日)		職場体験(7月7日,8日)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
(写真左) 学習ボランティア(7/29,7/29,8/1,8/2,10/5,10/12,10/19/10/26,11/2,11/16,12/7,12/14,12/21) ・夏休み中の補充学習(スペシャル・アドバンス・タイム)の支援を、本校ボランティア人材バンクに登録している方2名、高校生(本校卒業生)2名にお願いした。全学年で、希望者が自学自習をすることになっていたが、学習支援ボランティアには、職員と共に質問に答える形での個別指導をしていただいた。 ・3学年の希望者対象に、10月から放課後の補充的な学習を行っている。ボランティア人材バンクに登録している方2名にお願いし、生徒の質問に答えていただいている。生徒の学力向上が期待されるとともに、学習に向かう姿勢をつくっていくことに効果があると思われる。 ・感染症の動向を見て、テスト前の学習相談の時間(アドバンス・タイム)での支援も依頼する予定である。												



学校の概要		学校名	須坂市	立東中	学校	学校長	島田 浩幸	児童生徒数	145 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○	自治会代表		○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員			学校長・教頭以外の学校職員		○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	東中学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 3 人
				地域住民(学習支援ボランティア代表)学識者(信学会ゼミナール教諭)			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月30日、12月1日、1月27日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	三心自立「学ぶ心」「思いやる心」「鍛える心」を磨き自立する								
地域と共有された育てたい子どもの姿	21世紀型能力を育む「学び合う学校」 夢や志をもちSociety5.0を豊かにたくましく生きる生徒の育成 ○知識や情報を活用する能力(学ぶ心) ○多くの人とよりよい人間関係を築く能力(思いやる心) ○自立的に行動する能力(鍛える心)								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	
3	地域の実情や課題について			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4			協働活動に参加したボランティアの人数	12 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5			参加者延べ人数	124 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	○	国際理解	託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例									
	アズマデー(総合的な学習の時間・6月27日)			職業体験学習(7月12・13日)			読み聞かせ(年間7回・水曜日朝)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
総合的な学習の時間の取組を、探究的な学びに発展させていくため、今年度は「全校総合」と位置づけ、異学年混成のグループ編成でひとつの課題に向けて活動した。内容は、本校開校前、地元出身の実業家の方から寄贈され、近年では傷み、学校の片隅に置かれたままになっていたピアノに、「新たな命を吹き込む」ために、自分たちは何ができるだろうかという問いに対して活動した。ピアノを修繕し、演奏会を開催するため、「情報発信」「資金集め」「イベント企画」の3チームに分かれ活動する中で、多くの方々にご協力をいただいた。ピアノ修繕に向けた清掃や塗装、台帳の翻訳、寄付募集条例に関する学習、資金集めのためのプレゼン受け入れなど、地元・地域の方々と共に活動し、長野市出身のピアニストを招いての演奏会で、修繕されたピアノの音色を披露することができた。演奏会というひとつの形になり、達成感を感じた生徒が多く、また、活動を通して自分事としてとらえられるようになり、主体的に活動する生徒の姿が多く見られた。									

学校の概要		学校名	小布施町 立 小布施中 学校	学校長	川本 修一	児童生徒数	312 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委	<input type="radio"/>	自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	<input type="radio"/>	PTA代表	<input type="radio"/>	ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	<input type="radio"/>	学校長・教頭以外の学校職員	<input type="radio"/>	ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	小布施学園コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 民生児童委員会会長 保護司 町商工会長 スポーツ推進委員 部活動・社会教育運営委員 社協コーディネーター 公募員 コミュニティスクールコーディネーター		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人
	会議開催数(予定)	15 回	今年度開催日(予定)	全体会:4月28日、12月22日 中学校部会:5月18日、6月14日、7月21日、8月22日、9月21日、10月25日、11月21日、1月19日、2月17日、3月13日 役員会:8月23日、10月14日、12月8日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標	夢・忍耐・思いやり						
地域と共有された育てたい子どもの姿	1 自分の夢をもち、その実現に向かって努力できる生徒 2 自分のわがままをおさえ、正しい判断のできる生徒 3 人のいたみが分かり、思いやりの心をもてる生徒						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	<input type="radio"/>	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	<input type="radio"/>		
2	学校運営への必要な支援について	<input type="radio"/>	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	<input type="radio"/>		
3	地域の実情や課題について	<input type="radio"/>	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)	<input type="radio"/>		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	<input type="radio"/>	4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 9 人 参加者延べ人数 48 人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	<input type="radio"/>	5				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	<input type="radio"/>	クラブ、部活動	給食	休み時間
	清掃	ICT	学習ボランティア	<input type="radio"/>	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	<input type="radio"/>	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解	託児	<input type="radio"/>			
	学校・家庭・地域の協働した取組例						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
栗の皮むきボランティア ・地域の方がボランティアで生徒共に栗の皮むきをしていただいた。むいた栗は次の日の給食に出された。 ・地域の伝統的な食材に調理を通して触れること、また味わうことができた。							

学校の概要		学校名	高山村 立 高山中	学校	校長	新津 朋典	児童生徒数	181 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について		
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 協議の委員構成				○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	高山村共育コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	令和4年8月3日 令和5年2月上旬(予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	自ら学び 高みゆく ～生徒自身が興味・関心・意欲をもって、よりよい自分づくり・仲間づくりへの高まりを追い求めてゆく～							
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも明るく積極的に関わり、自らを高めていく強い意志をもつ生徒 ・相手を尊重し、互いに磨き合って成長していくことを自覚できる生徒 							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○				
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 12 人 参加者延べ人数 20 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解	託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
	故郷高山を知る…ホテルの生態(7/1)		故郷高山村で働く人から学ぶ…高山村観光協会(5/26)		故郷高山村の未来と私…中学生議会(10/20)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
<p>高山中学校では、総合的な学習の時間を「故郷 高山村とわたし」というテーマで取り組んでいる。そして各学年で段階的にテーマを設け学習を進めている。</p> <p>上記の写真は、その段階的な取組として、左から1年生→2年生→3年生の活動の様子である。どの学年も高山村の方々と関わり学習が進められている。</p> <p>3年生は、中学生議会を高山村村議場で行った。生徒が議員となり議会が開催された。今年度は、イベントの開催について・移住者について・高山村の自然環境やゴミの扱いについてなど、総合的な学習の時間に学んだことを根拠として、質問や提案を行った。それに対し村長さんをはじめ村当局の方々が見解を回答してくださった。3年間の学習のまとめとして、充実した学びとなった。</p>								




学校の概要		学校名	中野市立 南宮中 学校		校長	大塚 秀樹		児童生徒数	503 名								
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																	
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について											
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある								
			市町村教委			自治会代表			ボランティアの団体がある(組織化されている)								
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○			公民館代表			○ PTA代表			○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			○			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員			○			学校長・教頭以外の学校職員			ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称		南宮中学校信州型コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ・民生主任児童委員 ・青少年育成会長 ・バラの会専務理事・学区小学校CS委員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター		1 人				
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)					人				
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月26日 10月31日 1月20日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			公民館職員(公民館長・公民館主事)						
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			公民館長						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																	
学校教育目標		「学び合い、磨き合い、支え合い」共に高め合う生徒の育成															
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・自信と思いやりの心を持ち、より豊かな集団の一員になろうとする生徒 ・適切な判断ができ、行動する生徒 ・目標を持ち粘り強く創意工夫して解決にあたる生徒 															
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況											
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2		学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。							
3		地域の実情や課題について						3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数							
5		教職員の任用に関する一般的な要望について								ボランティア登録者人数		58 人					
										参加者延べ人数		23 人					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動		○		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児		○				○					
		学校・家庭・地域の協働した取組例															
		ふるさとjobセミナー(9月1日)		職場体験(9月1日・2日)		中高合同ゴミ拾い(10月19日)											
代表的な協働した活動の取組例(上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																	
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																	
<p>1学年では、「ふるさとJOBセミナー」として、地域で働く様々な業種の方を講師としてお招きし、小グループに分かれて講演とインタビューを行った(この形式での開催は2年ぶり)。生徒は、その講演やインタビューを通じて、仕事内容や働くことの大変さ、大切さについて学ぶことができた。</p> <p>2学年では、「職場体験学習」を行った。コロナの影響もあって受け入れが難しい施設もあったが、感染対策を講じながら各事業所の方々にご協力いただいで実施できた。実際に働くことの一端に触れることで、働くことの意義などを学ぶことができた。</p> <p>3学年生徒会を中心に約60名の有志が参加した「中野立志館高校生徒会役員との合同ゴミ拾い」は、高校側からの呼びかけに応じて初めて実施した。隣り合わせる両校が一緒に近隣の美化活動を行い、地域貢献に一役買うとともに、中高の交流のきっかけ作りとなった。</p>																	

学校の概要		学校名	中野市	立 中野平中	学校	学校長	小山正博	児童生徒数	319 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員				ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	中野平中学校 学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人		
				中野西高等学校長 部活動指導員代表 主任児童委員			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月2日(木) 9月13日(火) 1月27日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	よりよいものを求め 自ら鍛え 支え合ってやり抜く生徒										
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とつながり本物に学ぶ生徒 ・地域とともに、地域に学ぶ生徒 										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 5 人 参加者延べ人数 34 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	2学年 職場体験学習7月6日、7日			生徒による地区奉仕活動7月26日、30日			学校支援ボランティア活動 9月25日				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
○ 学校支援ボランティアの成果から <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、長らくできなかった地域と連携した活動を行いたいと学校長が強く願った。学校運営委員会やPTAの理事会等で話し合いを重ね、まずは学校運営委員やPTA役員で動いていこうという思いに至った。両者をコーディネーターがつなぎ、文化祭前に環境整備活動を合同で行うこととなった。 ・文化祭をよりよい環境で行えるよう、学校運営委員とPTA役員の参加を得てグラウンドのネットを回収したり、草刈りをしたりした。 ・成果として、コロナ禍で地域の方に来校いただく機会が減り参画できないことが多かった現状から、感染防止に努め合同で活動できたことにより互いの連携をより深めることができた。 ・生徒もこの活動に大変感謝しており、地域の方のありがたみを実感することとなった。 											

学校の概要		学校名	中野市 立 高 社 中	学校	学校長	小山 健史	児童生徒数	205 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 協議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	高社中学校学校運営協議委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 部活動運営委員会会長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月11日(水) 2月 8日(水)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		ボランティア代表		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	思いを「聴こう」「語ろう」「創ろう」								
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域に学び、感謝し、ふるさとを愛し、誇りに思う生徒								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○	
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 6 人 参加者延べ人数 6 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解	託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
		2学年金融教育(11/1)		特別支援学級自立活動(11/2)		2学年職場体験学習(8/1～/7)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)									
令和3年度・4年度の金融教育研究校に指定されての2年目の授業公開、1年目は金融感覚の喚起として、講師に日本銀行長野事務所 事務所長様をお招きして、3年生に向けて「市場経済の仕組みと金融」についてお話をいただき、銀行とは「お金を預けるだけの場所」という認識から、日本銀行における金融政策を見聞きすることで、実際目の前で見て「価格」の仕組み、特に市場価格について興味をもって学ぶことができました。 今年度は、昨年度の実践を踏まえ「総合的な学習の時間」で実施しているキャリア学習の延長線上に単元を位置づけ、働くことで得られる収入や生涯設計と支出の関係について、現時点での自分なりのライフプランを立てた。授業公開当日は、ゲストティーチャーとして、市内金融機関の職員6名に参加いただき、「お金の運用」についてお話をいただいた後、グループごとに「自分のライフプランを実現させるためにお金をどのように使ったらよいか」考える場面でアドバイスをいただいたり、質問に答えていただいたりして、子どもの学びを共に支援していただいた。									

学校の概要		学校名	中野市立 豊田中 学校		学校長	黒岩 徳治		児童生徒数	82 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		豊田小・中学校コミュニティスクール(豊田っ子応援団)				[その他の委員]*具体的な役職名を記入 主任児童委員 地域住民		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 4 人			
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		4月27日 8月1日 9月5日 2月20日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		自学・実践・豊かな心											
地域と共有された育てたい子どもの姿		～ふるさと豊田は、元気がもらえる一生の心のよりどころ～ ・地域を巣立っても、地域に思いをよせる子ども ・耐える力をもつ子ども ・生きる力をもつ子ども(自分で考え、解決する) ・自ら道を切り拓く子ども→環境を自分でつくり出す。生み出す力 人や地域のつながりを大切にして、体験や経験から学ぶ子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		53 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○						参加者延べ人数		20 人			
地域学校協働活動の概要													
登下校の見守り		○ 読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間			
清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)			
人権教育		国際理解		託児									
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		1年 地域の方とつくる大豆(7月7日)				2年 職場体験学習(10月25・26日)				わくわくタイム(10月28日)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
2年生では中野市や豊田地区の事業所で、2日間の職場体験学習をキャリア教育の一環として行っている。事業所は、りんご農家や飲食店、物産館、建築会社等である。 生徒たちは、体験を通して、接客では相手の気持ちを考えて行動することや丁寧に作業を進めることの大切さなどを学ぶことができた。また、事業所の働く方の姿から、「仕事に対する思い」や「仕事を通しての社会貢献」について学ぶことができた。 生徒たちは、職場体験学習を終えて、仕事に対する興味・関心を高めると共に、自らの将来像について考える機会となった。													

学校の概要		学校名	山ノ内町	立山ノ内中	学校	学校長	山口 近	児童生徒数	225 名						
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について															
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について										
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員				ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		山ノ内中学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)							
					高等学校校長 交番所長 民生児童委員 スキークラブ代表			地域コーディネーター 0 人							
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人							
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		7月4日 12月5日 2月16日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 学校職員(教頭及び教頭以外の職員)							
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況															
学校教育目標		場を清め 時を守り 礼を正す													
地域と共有された育てたい子どもの姿		ESDを核とした仲間と共に学び合い、深める生徒 自らの生活をより良くしようと考え、行動しようとする生徒 一人ひとりを大切に、安心して学べる人間関係を築いていこうとする生徒													
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況										
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。								
2 学校運営への必要な支援について		○													
3 地域の実情や課題について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。								
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)								
5 教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数						
									参加者延べ人数						
									50 人						
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○	給食		休み時間		
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習		
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)				遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児									
															
		地域自慢調査(10/17)		保健講演会(10/14)		外来種染め物体験(7/13)									
代表的な協働した活動の取組例															
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)															
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)															
<p>外来種染め物体験は、1学年の志賀高原研修旅行の2日目に行われた。1日目は、SDGsの体験プログラムとして、地元のガイドさんの指導の下、トレッキング中に外来植物の駆除を行った。志賀高原ユネスコエコパークの貴重な高山植物の保護のため、持続可能な自然環境の維持を行う体験ができた。駆除した外来植物を利用して、志賀高原観光協会の方や地元のシルバー人材から派遣された方の指導の下、染め物体験を行った。また、並行して上下水道の地元の方、業者の方にご指導いただき、水資源学習プログラムを行った。講義のあと、現場を視察して、自分たちの飲料水について、多くの人の努力があって安全性が保たれていることを認識した。研修旅行後、グループに分かれてまとめをし、文化祭で全校生徒に向けて、自分たちの活動報告をした。</p> <p>ESD学習に取り組むことで、地域の方々との交流が進み、自分自身で課題を発見して学習すること、友だちや地域の方々と協働して(話し合ったり、共に活動したり)学ぶことで、地域への理解を深めている。</p>															

学校の概要		学校名	木島平村 立 木島平中 学校			学校長	伊賀 雅志		児童生徒数	94 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 老人クラブ連合会長、保育園園長、区長会長、民生児童委員会、青少年育成会連絡協議会長、放課後児童クラブ室長				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人		
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人		
会議開催数(予定)	15	回	今年度開催日(予定) ①5月16日、7月7日、9月21日、12月20日、3月2日 ②5月19日、6月16日、7月14日、8月25日、10月6日、10月27日、11月24日、1月26日、2月16日、3月23日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		心と体をひらいて学ぶ子ども										
地域と共有された育てたい子どもの姿		ふるさと木島平を担う子どもたちを、地域ぐるみで育てよう!										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	111	人
								参加者延べ人数		140	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動		給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
		未来塾(5月20日～12月2日)			未来塾(5月20日～12月2日)			職場体験(10月13日・14日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
○総合的な学習の時間で「未来塾」として、本年度は全校生徒が5つのグループに分かれて、地域の方などに協力してもらい、テーマに沿って探究している。それによって、課題を克服しようと試行錯誤するなど、自分ごととして真剣に学習に取り組む姿が見られるようになった。その中の1つ「高校生と創る」のグループでは、地域活性に取り組んでいる高校生と一緒にバンパーキャンドルを作成したり、そばを打ったりして、地域そのもののよさを見つめなおし、地域をよりよくしていくこととする人々がいることを再発見することで、自分たちが住んでいる地域を誇りに思う気持ちを高めることができた。また、「地域との交流」グループでは、デイサービスセンターとの交流を通して、身近な人たちとの当たり前の毎日の一コマに入って交流することで、うまく交流ができなかったのはなぜか考えたりしながら交流を重ねることで、人との接し方を学んでいる。												

学校の概要		学校名	野沢温泉村 立 野沢温泉中 学校		学校長	嶋田 勝彦		児童生徒数	70 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
			市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
			公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		野沢温泉学園運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 こども園長・主任 識見者(教育委員・社会教育委員) 野沢温泉村駐在所長 下高井農林高等学校長 飯山高等学校長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人
会議開催数(予定)		2	回	今年度開催日(予定)		5月30日、3月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教育指導主事	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		「心で聴き 心で観る」・知性を磨き・心身を鍛え・品性を高める									
地域と共有された育てたい子どもの姿		情操の深まりから自然や人の生き方に心を動かし、友と共に深く学び、夢や希望をふくらませていく子ども ・自分の考えを持つ子・自分を表現する子・繰り返しチャレンジする子・自分や他者を大切にできる子									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○	
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	41	人	
								参加者延べ人数	60	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ		児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解	○	託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)											
○活動名「3SEEDsプロジェクト」(2年生)											
○活動の内容 野沢温泉村のために何かしたいと考えた生徒たちは、3つのプロジェクトを立ち上げ「3 SEEDsプロジェクト」と命名しました。写真はその中の1つサイダー班です。「野沢温泉の水で作った美味しいサイダーを、観光客の皆さんに飲んでもらいたい」という思いで取組んできました。ハウスサンアントン(地元のホテル)では、手作りサイダーを作っていると聞きつけ、ハウスサンアントンにお邪魔して美味しいサイダーの作り方を教えているところです。											
【生徒の感想】 ハウスサンアントンに行きました。今回はいろんなことを学びました。リンゴ、しそ、コーラ、ジンジャー味のサイダーを飲みました。とても甘いのに砂糖を使っていないことに驚きました。私たちがハウスサンアントンみたいなサイダーを作れたらいいなと思います。											




学校の概要		学校名	飯綱町	立 飯綱中	学校	学校長	岩松 裕一	児童生徒数	247 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	飯綱町コミュニティスクール 学校運営協議会	[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人	
		主任民生児童委員 北部高等学校長(保小中高連携) 信濃小中学校長(町外の有識者) 町商工会事務局長 町の保健室			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			0	人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	5月 6日(金) 5月25日(水) 11月10日(木) 2月24日(金)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員			
					具体的な役割(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		トータルコーディネーター			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	<自主> 主体的、創造的に生活し、学ぶ楽しさを味わうことができる生徒 <友愛> みんなの幸福を願い、豊かな情操をもつ生徒 <剛健> 明るくたくましい心身を備え、気力体力が充実した生徒									
地域と共有された育てたい子どもの姿	『ふるさとを愛し、生きる力を育み夢を実現する 子ども』 ・ふるさとを愛し、人を思いやる子ども ・豊かな自然の中で生きる力を育む子ども ・自ら学び、共に学び、自己を高める子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	50	人
							参加者延べ人数		100	人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		作業学習(4月27日)		作業学習(4月27日)		作業学習(8月24日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○ 取組の内容 特別支援学級の作業学習の一環として取り組んでいる畑の作業を、地域の農家の方2名の協力を得てすすめている。作業内容は土起こし、苗植え、棚作り、収穫を中心に生徒と一緒に作業を通して、畑作業に関して具体的な支援をいただいている。										
○ 成果と課題 ・生徒は、地域の方2名と一緒に取り組む作業を楽しみにしている。一緒に取り組む中で、畑作業に関わるスキルを支援していただき、「こうすればいいんだ」と理解して道具の使い方や畑作業の基本をを身につけ、「次はどうすればいいか」の見通しを持って取り組む姿が見られるようになってきた。 ・継続して支援を受けていることから、地域の方は生徒を理解して生徒個々に適切な言葉かけや、見守りをいただいている。生徒は畑作業に地域の方が来ることを楽しみにしており、この交流が生徒の意欲や喜びを持って働く姿に繋がってきている。また本校職員も地域の方の生徒への関わり方や畑の作業について学ぶことが多い。 ・継続的な関わりが今後も可能かどうか。適切な時期に作業を進めるカリキュラム作りができるようにすること、これらが今後の課題と思われる。										

学校の概要		学校名	小川村 立小川中	学校	学校長	山崎 伸一	児童生徒数	49 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について		
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委	○	自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	小川村学校運営協議会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 社会文教常任副委員長 主任民生児童委員 人権擁護委員 保健師 スポーツクラブ代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	令和4年 4月27日 令和4年10月12日 令和5年 1月26日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	教育委員会職員	
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	1 強い意志と体をもち、最期までやり抜く中学生 2 思いやりのある心豊かな中学生 3 自己をみつめ正しい判断と行動のできる中学生							
地域と共有された育てたい子どもの姿	今年度の重点目標として、①自信と感謝のもてる中学生、②未来を切り開く確かな学力を身に付けようとする中学生、③一人一人が個性を発揮し、互いを認め合える中学生を確認した。							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○
2	学校運営への必要な支援について	○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○
3	地域の実情や課題について	○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		4		協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	29 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4			参加者延べ人数	22 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○ キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解		託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例				活動名 薬師沢石張水路溝整備(5/26)	活動名 お話し会(5/27)	活動名 独居老人宅訪問(9/13)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
村内の独居老人宅を訪れ、ボランティア活動を行う。民生児童委員の方と協働し、村内の老人を紹介、調整を行ってもらっている。この活動を通して生徒は、今後も一人暮らしの方の力になっていきたいとか、一人暮らしの老人の方々がさらに快適に生活するにはどうすればよいかなど、村の課題についても考えることができていた。								

学校の概要		学校名	飯山市 立 城南中 学校			学校長	山下 雅弘		児童生徒数	292 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある			
				市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		学校運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 5 人	
				自営業 寺院住職 フリーアナウンサー 市職員				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		令和4年 5月27日(月) 令和4年10月24日(月) 令和5年 1月27日(金)予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		CS担当	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		Get your dream ~夢をつかもう~ ふるさとを愛し、夢に向かって学び合う城南中学校									
地域と共有された育てたい子どもの姿		筋道を立てて考え、気づいたことを正確に伝える生徒 自他を認め、互いに磨き合う生徒 自然や郷土や人を大切にする生徒									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○	
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数				ボランティア登録者人数 29 人 参加者延べ人数 48 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5							
地域学校協働活動の概要											
登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		① 「笑いヨガ」講座(10/18)		② 「自分らしく生きるとは」講座(10/18)		① 「ブッシュクラフト」講座(10/28)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)											
①【城南未来塾】(10/18、28実施) 地域の「文化」やそれを受け継いでいる方々と実際にふれ合い語り合いながら文化を体験することで、自分の将来への展望をひろげ、今何をすべきかを見つけることがねらい。活動後の振り返りカードには、「笑いヨガ、とくに理由なく笑ったけれど、なんかスッキリした」「こんな火のつけ方があるなんて知らなかった」といった感想が書かれており、地域の方との豊かな体験を通して多くを学んだ生徒の姿があった。											
②【生き方を学ぶ会】(10/18実施) 講師に、地域の酒屋さん、お寺の住職さん、市議会議員さん、民生児童委員さんなど多種多様な方をお招きし、飯山の地でふるさとを大事に思って生活し活躍されている皆さんの様々な人生経験や思いにふれる価値ある時間を過ごした。「飯山ってとていいところだなと改めて思った」と、ふるさと飯山で生活することの魅力を見出す生徒の姿があった。											

学校の概要		学校名	飯山市 立 城北中 学校			学校長	三井 康幸		児童生徒数	167 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	城北中コミュニティスクール				[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		
							地域コーディネーター		5 人		
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月27日(金) 1月24日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	夢を語ろう 熱い夢を 今鍛えよう 強い精神(こころ) 今深めよう 固い絆										
地域と共有された育てたい子どもの姿	判断し 自ら動ける生徒 かかわり 発信する生徒 思いやり 感謝する生徒										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○	
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	10 人		
								参加者延べ人数	10 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	給食	休み時間				
	清掃	ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○ キャリア教育(職場体験を含む)			
	人権教育	○	国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
											
学校花壇づくり(5月23日)			着物着付け学習(7月15日)			地域の先輩の話を聴く会(10月28日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
○ 生徒会環境委員会の学校花壇づくりにおいて、地域ボランティアの方に来校いただいた。環境委員の生徒たちは、植える花「カンナ」の意味や途中で枯れない植え方を教わり、生徒は、1株1株、丁寧に植えた。											

学校の概要		学校名	栄村	立 栄中	学校	学校長	倉田 誠一	児童生徒数	14 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	栄CS中学校部会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	令和4年4月26日 令和4年9月10日 令和4年10月28日 令和5年2月16日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校コーディネーター		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	故郷“さかえ”に共に生きる力の育成									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・友と心を通わせ合い、共に進んで実践する生徒 ・自分の課題を持って積極的に学ぶ生徒 ・自他の生命、安全、健康を大切にできる生徒 ・郷土愛を深め、栄村に貢献できる生徒									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
3	地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		ボランティア登録者人数		34 人		
						参加者延べ人数		19 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃	○	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解	託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		学校整備作業(5月)		苗場山登山(8月)		さかえふるさと塾(9月)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)										
○「さかえふるさと塾」として、村の活性化のために自分たちが出来ることをテーマに、それぞれが課題を設定して活動を行っている。昨年度から継続して取り組んでいる「加工用トマト」を活用したラスク作りは、地域のパン屋さんで商品化していただけることになった。村の特産品活用の一助となった。また、生徒達は見通しを持った、継続した取組みは、課題解決につながると実感した。村の活性化のためにさらに探究していこうと、意欲が高まった。										

学校の概要		学校名	坂城町	立 坂城中	学校	学校長	酒井 賢一	児童生徒数	376 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	坂城中学校コミュニティスクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	5 人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月16日 1月31日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	自主・友愛・剛健 ※「友愛」を最上位目標に取り組む									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を思いやり、寄り添う「友愛」の心を持つ生徒 ・「わからない」「困っている」が気軽にいえる生徒 ・友の気づきや疑問に耳を傾ける生徒 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	11 人	
								参加者延べ人数	70 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育	国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		職業学習			学びほぐし			トレジャーキャンドルプロジェクト		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習に向けて、テクノハート坂城協同組合事務局長と就業地域支援アドバイザーが来校し、仕事をする事の意義を考えたり、あいさつや言葉遣い、身なりといった社会人として必要な礼儀作法を指導したりしていただいた。職場体験学習実施に向けて生徒の意欲が高まり自覚が備わった。 ・2学年職場体験学習を7月14、15日の日間行った。坂城町を中心とした近隣市町村の40カ所で2日間職場体験の受け入れをしていただいた。働くことの大変さはもちろんのこと、社会に出て働くために何が必要かを知ることができ、それを学校生活に生かそうとする態度を養うことができた。 										

学校の概要		学校名	千曲市	立戸倉上山田中	学校	学校長	小池 隆	児童生徒数	526 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○	
名称		戸上申チームつばさ運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ボランティア代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	
		地域コーディネーター		2		人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	
人									
会議開催数(予定)		2		回		今年度開催日(予定)		①令和4年5月13日(金) ②令和5年2月14日(火)	
								中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
								公民館職員(公民館長・公民館主事)	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		自立した生徒を育成する							
地域と共有された育てたい子どもの姿		◆魂を込めて充実した学校生活をおくれる生徒 「ブライドファイブ」を大切にし、よりよい学校生活を追究する生徒 ◆智を磨き確かな学力をつける生徒 「基礎的な知識・技能」、「思考・判断・表現力」 「主体的に問題解決していく力・人間力」を身につける生徒 ◆和を大事にしよりよい人間関係を築く生徒 どんな集団でも多様性を認め合い、人間関係を構築できる生徒							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。
2		学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。
3		地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○		17		人
								参加者延べ人数	
								35	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	
		人権教育		国際理解		託児		給食	
								休み時間	
								放課後教科・体験学習	
								キャリア教育(職場体験を含む)	
		学校・家庭・地域の協働した取組例		敬老の日インタビュー(9月4日)		読み聞かせ会(月1回)		個別学習支援(月3回水曜日)	
		学校・家庭・地域の協働した取組例		敬老の日インタビュー(9月4日)		読み聞かせ会(月1回)		個別学習支援(月3回水曜日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
【敬老の日インタビュー】 今年で5年目となる活動である。地域公民館が開催する「敬老の日記念事業」の中で、80歳を迎えるお年寄りへのインタビューを中学生が担当し交流を図った。 ・3人一組となり、記念撮影に訪れたお年寄りにインタビューをして、交流をする。生徒代表は生徒会役員から選出する。 ・新型コロナウイルス感染防止として、インタビューは飛沫防止のアクリル板を設置して行う。(聞こえづらくなるのでマイクとスピーカー設置) ・質問内容はあらかじめ考えておくと、話の流れで話題をつかんですすめていった。 なかなか地域のお年寄りや話す機会がないので、毎年よい交流の場となっている。また、地域の方(運営する公民館の方々など)に、中学生の姿をみてもらう機会となっている。 いつもと違う相手に対して、どう自分の思いを伝えたらいいか、相手の話をどう理解したらいいかと考えながらすすめる姿があり、学びの場となった。									

学校の概要		学校名	千曲市立 埴生中 学校	学校長	増村 隆洋	児童生徒数	278 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表	
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員	
名称		埴生中学校運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 おおとり支援隊各支援部代表者		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
						地域コーディネーター	1 人
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		令和4年6月3日(金) 令和5年2月13日(月)	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
						教頭	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		【学校目標】『自主自律』 【学校づくりの理念】心豊かにたくましく生きる生徒の育成					
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・願いをもち、自ら学び、課題を追究する生徒 ・自分の考えや思いを適切に表現する生徒 ・相手を尊重し、協力して物事に取り組む生徒 ・人や物・自然を敬い、郷土を愛する生徒 					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 30 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 25 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		学校・家庭・地域の協働した取組例					
							
		ベルマークの仕分けボランティア(月1回)		フラワーアレンジメント教室(年3回)		地域学習講師(9月1日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 地域学習講師							
<p>社会科と総合的な学習の時間の一環として、生徒が暮らしている埴生地区について、自ら課題を設定し、探求活動を実施している。生徒が自ら問いをもち、課題を設定することができるように、様々な地域の姿を、地域の方から紹介していただいている。地域の講師の方のお話によって、生徒たちは、自分が知らなかった地域の姿に驚き、意欲的に探求活動に取り組むことができている。また、調査活動においても、地域の方と関わることによって、特色を理解することにつながっている。さらに、生徒がそれぞれが探求してきた内容を伝え合う中で、埴生地区の地域的特色を理解し、地域の良さにふれることにもつながっている。</p>							

学校の概要		学校名	千曲市立更埴西中学校	学校長	小林 克浩	児童生徒数	294 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表	
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員	
更埴西中学校運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	育成会長		元学校評議員		地域コーディネーター	1 人	
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	第1回 5月25日(水) 第2回 8月29日(月) 中止 第3回 1月31日(火) 予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		社会教育委員	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標	相手に生きることによって 自己を生かす						
地域と共有された育てたい子どもの姿	①自分の課題・願いを追求できる生徒(向上心) ②相手の立場を尊重し、協力して取り組める生徒(思いやり) ③心身に留意して生活できる生徒(心身の健康)						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。
2	学校運営への必要な支援について			○			
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数
					ボランティア登録者人数		35 人
					参加者延べ人数		30 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解		託児	健康教育	○	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
田植え体験(5/26)		読み聞かせ(5/17)		スポーツ障害予防学習会(5/27)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
○2学年では、総合的な学習の時間の中で地域の文化遺産である娵捨棚田について体験的に調べる「棚田プロジェクト」に取り組んだ。そこでは、地域の棚田保存会である「名月会」のみなさんや千曲市観光課のご協力をいただき、田植えや稲刈りの体験を行ったり、写生会を行ったりした。そのような活動の中から、娵捨棚田が世界に誇る文化遺産であることを知るとともに、これからも大切に守り続けていく必要性を学んだ。また、このような景観を維持している陰には、地域の人の棚田を大切にしている思いと守り続けていくための苦労や課題について体験を通して学び、こうした景観を大事にしていきたいという思いを育むことができた。							

学校の概要		学校名	千曲市	立屋代中	学校	学校長	北沢 芳洋	児童生徒数	400 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	屋代中学校学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	0 人
				・元PTA会長 ・元教員 ・地域住民 3名					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	①9月1日 実施 ②10月1日 実施 ③3月3日 実施予定			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	どんな花も精いっぱい ～夢に誇りのせて～									
地域と共有された育てたい子どもの姿	「自律」に向けての基礎基本をしっかりと身に付け、学校・社会での生活に積極的に参加する中で、仲間や教職員、地域とのかかわりを通して、新たな学びを獲得し、自分を表出できる生徒。									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について					2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		
								ボランティア登録者人数	0 人	
								参加者延べ人数	0 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間			
	清掃	ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○		
	人権教育	国際理解	託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	地域の方の講演会(職業体験学習)		屋代高校生との交流学習		屋代城ウォークラリー補助員					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>(屋代高校生との交流学習)</p> <p>屋代高校生に來校してもらい、高校生の先輩から中学生が勉強を教わる交流学習を実施している。今年度で4年目。中学3年生対象に行っていたが、好評で現在は1年生から3年生まで幅広く参加している。コロナ禍で実施できない期間もあったが、今年度はこれまでに2回行い、参加中学生のレポート率は70%だった。</p> <p>参加した生徒からは、「初めて勉強が楽しいと思った」「勉強の仕方も教えてもらった」「いつか自分も後輩を教えられるようになりたい」等の前向きな感想が多く寄せられた。高校生からも「中学生の学習意欲がすごい」「自分が中学生の時には考えなかったようなことを考えている」「教員になる夢をさらに叶えたいと思った」という感想があり、お互いにとって有意義な時間となっている。</p>										

学校の概要		学校名	長野県	屋代高等学校附属中 学校	学校長	馬場 正一	児童生徒数	240 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		学校評議員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)				
		地域コーディネーター				人					
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人					
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		令和4年7月21日 令和4年11月24日 令和5年3月上旬予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			
								学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		教育理念:人の心の痛みの分かる豊かな人間性の涵養、伸びる力を伸ばす学力の向上などにより、さまざまな分野でリーダーシップを発揮することができ、社会のために貢献できる人材の育成と目指す。									
地域と共有された育てたい子どもの姿		○高い知性と創造性 ○豊かな人間性 ○健やかな心と体									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2 学校運営への必要な支援について		○									
3 地域の実情や課題について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 参加者延べ人数				
							人 12 人				
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動			
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援			
		○ 土日・長期休業教科・体験学習		○ 地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
		○ 人権教育		○ 国際理解		託児		○ 防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山	
		○ 休み時間						○ キャリア教育(職場体験を含む)			
											
		姨捨棚田での稲刈り(9/24)		1年千曲市宿泊学習(9月15日)		千曲市まちづくり文化祭(10/30)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
【内容】千曲市探究学習(1年)千曲市内を歩き歴史ある街並みや文化財を見学したり、地域住民がどのような気持ちで街づくりに取り組んでいるかを聞いたりすることを通して、どのように千曲市に貢献していくことができるか考える機会とする。											
【場所】千曲市(①森あんの里 ②稲荷山(重伝建) ③姨捨棚田 ④戸倉上山田温泉											
【連携】さらしなルネッサンスの皆様											
【成果や効果】「千曲市の宝とは何か?」という問いをもち、直接現地へ行って体感を通して感じ取ったり、地域の方(さらしなルネッサンス)から直接説明をして頂いたりすることで、自分なりの問いの答えに迫っていくことができた。											

学校の概要		学校名	信濃町立 信濃小中 学校		学校長	武内 裕		児童生徒数	441 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
			市町村教委	<input type="radio"/>	自治会代表	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表	<input type="radio"/>	PTA代表	<input type="radio"/>	ボランティアと学校の情報交換会がある				
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	信濃町学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいますか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
				社会教育委員、民生児童委員、学識経験者					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	7月8日 11月2日 1月中旬 3月中旬			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)		
						具体的な役職(他を優先した場合は立場・役職を記入)		地域コーディネーター			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	躍進 自主:夢の実現に向けて追究し続ける児童・生徒 友愛:命と仲間を慈しむ児童・生徒 克己:粘り強く最後までやり遂げようとする児童・生徒										
地域と共有された育てたい子どもの姿	信濃町に誇りをもち、次代を担う人材の育成										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			<input type="radio"/>	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			<input type="radio"/>
2	学校運営への必要な支援について			<input type="radio"/>	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
3	地域の実情や課題について			<input type="radio"/>	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			<input type="radio"/>	4			協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			<input type="radio"/>	5			参加者延べ人数			50 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	<input type="radio"/>	読み聞かせ	<input type="radio"/>	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃	<input type="radio"/>	ICT	<input type="radio"/>	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	<input type="radio"/>	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	<input type="radio"/>		
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
・信濃小中学校は昨年度創立10周年を迎えた。次の10年に向け、「学校づくりを考える日」として保護者・地域の皆さんに授業を参観していただき、教育講演会とテーマ別分科会をおとして、新たな学校づくりに向けて家庭、地域との連携を深めた。分科会には8年生の生徒、保護者・地域の方、学校職員が参加した。ランドデザインの重点目標から決められた視点をもとに、9つの分科会に分かれて活発な議論が行われた。ある分科会では、「信濃町の未来づくりを地域とともに」というテーマで、信濃町の現状をもとに、未来の信濃町がどうあってほしいか、そのために今できることは何かについて話し合われた。地域の方からは「子育て環境を充実させる」、「地域の明るいビジョンを描いて、それを語り合う」、「学校のこのような取り組みを町全体に知ってもらいたい」といった意見が、昨年度総合的な学習の時間で信濃町の水と高齢者について学習した8年生からは「町のお年寄りたくさん交流し、困ったことがあったら助ける」、「環境を大切に作るボランティア活動」、「水を大切にするために漏水を減らすこと」といった意見が出された。これから児童生徒会を引き継ぐ8年生は視野を広げることができ、職員は学校づくりについて多くのヒントが得られた。それぞれの立場から、これからの信濃小中学校と信濃町について考える大切な機会となった。											


学校の概要		学校名	長野県	長野市	学校	学校長	月岡 俊明	児童生徒数	30 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		人	
学校評議員会		<ul style="list-style-type: none"> ・長野市赤十字奉仕団分団委員長 ・同窓会長 ・点字図書館副館長 ・元学校長 				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人	
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)		①5/16 ②9/29 ③2/8		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		障がいにかかわらずの困難を乗り越え、強く生きる人間									
地域と共有された育てたい子どもの姿		1 学校へ来るのが楽しみ(元気・笑顔・あいさつ) 2 自分に自信をもつ(可能性・得意・自立) 3 仲間を大切にする(信頼・思いやり・友情)									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		32 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数		20 人			
地域学校協働活動の概要											
登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例								寄宿舎 地域の方との合同避難訓練(6/28)		たんぼぼ会による読み聞かせ(10/26)	
										進路旬間 職場見学(7/19)	
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>毎年6月下旬、地域の方(北尾張部区長、石渡地区長、赤十字奉仕団朝陽分団委員長、長野市消防団朝陽分団のみなさん、交通安全協会朝陽支部長)に参加いただき、寄宿舎の避難訓練を行っている。寄宿舎は夜間の職員体制が2名しかおらず、緊急時に学校職員が到着するまで待っていることも危険なため、地域の方に避難の応援をお願いしている。</p> <p>視覚障がいのある児童生徒と接することが初めての方もおられるため、事前に手引きの仕方を示し、イメージを持っていただいた。避難訓練後に感想や危険と感じられる個所などを出していただき、さっそく修繕が必要な箇所について対応した。</p> <p>また、今年度は、寄宿舎生と北尾張部地区の育成会でゴールボールを通して児童や保護者の皆さんとよい交流ができた。</p>											

学校の概要	学校名	長野県長野ろう			学校	学校長	細萱 育子		児童生徒数	57 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
			市町村教委		自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表	ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の 学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいるか(それぞ れの人数を記入)			地域コーディネーター	人	
						地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)					人
会議 開催数 (予定)		回	今年度 開催日 (予定)				中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)				
						具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	美しい言葉 豊かな心 元気な体										
地域と共有され た育てたい子ど もの姿	豊で適切な表現ができる子 ・自ら学ぶ子 ・自立して生きていく子 ・丈夫な体と強い意志をもつ子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について					1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。				
2	学校運営への必要な支援について					2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。				
3	地域の実情や課題について					3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					4	協働活動に参加したボランティアの 人数				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について						ボランティア 登録者人数			人	
							参加者延べ 人数			人	
地域 学校 協働 活動 の 概 要	登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会	○ クラブ、部活動	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の 時間支援	コロナウイルス対策 の消毒・清掃		放課後教科・ 体験学習		
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動		子ども食堂(こども カフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山		キャリア教育(職場 体験を含む)		
	人権教育		国際理解		託児						
	写真		写真		写真	写真		写真			
	活動名(日付)		活動名(日付)		活動名(日付)	活動名(日付)		活動名(日付)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
・高等部生徒会では、聴覚障がいについて理解していただくことと、手話の普及を願って出張手話講座「レモンデイズ」を行っています。「自分たちの伝えたい思いとは何か」「どんなことばで、どんな方法で伝えることができるのか」等、活動を振り返りながら話し合いを重ねて進めてきました。その結果、何年も続けて依頼してくださる学校や、保護者の方々も一緒に参加してくださる学校、学校以外の団体からも依頼をされるなど、活動の良さが認められ、継続した活動となっています。また相手校の児童生徒からは、聴覚障がいの理解につながる感想や手話を好意的にとらえた感想などを得ていて、活動の成果を感じています。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響で、活動の延期や中止、参集規模の縮小など対応に苦慮することもあります。											



学校の概要		学校名	長野県長野養護		学校	学校長	藤澤 里美		児童生徒数	232 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある						
			市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表	○ ○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	長野養護学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 関係機関代表(福祉事業所、精神保健福祉センター、発達障がいサポーター、企業社長)			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人		
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	①5月25日 ②9月28日 ③2月9日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)					
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	自分から 自分で めいっはい											
地域と共有された育てたい子どもの姿	自分自身を大切にすること(自分を大切にすることは他者を大切にすること)「ああしたい」「こうしたい」に向けて力を発揮する子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	人	
								参加者延べ人数		人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例	写真				写真				写真		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>・コロナ禍で制約の多い中ではあるが、地域の方とともに畑作業や窓ふき作業を行った。自分たちがボランティアに参加することを通して、地域や企業の方とかかわりを多くしてきた。地域や企業の方とともに活動をすることで、地域で育っている自分たちの姿を実感した。多くの声をいただくことで、自信もつながり、また、地域の中で生きる自分を実感することができる活動となった。</p> <p>・重度重複学級の児童生徒はコロナ禍で、校外学習や交流活動の制限が多かったのだが、数年ぶりに宿泊学習を実施することができた。その中で、ボランティアの方にピアノ・エレクトーンの生演奏をしていただいた。すばらしい笑顔がたくさん見ることができた。</p>												

学校の概要		学校名	長野県若槻養護		学校	学校長	小松 恭子		児童生徒数	42 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
			市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある				
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター		0 人
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)					0 人
会議開催数(予定)		2 回	今年度開催日(予定)		6月22日 1月19日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)		
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		・心身共に健康な人になろう。 ・友達を大切に、仲良く協力する人になろう。						・強い心を持ち、明るく生活する人になろう。 ・学習の仕方を学び、自ら学ぶ人になろう。			
地域と共有された育てたい子どもの姿		・周りの豊かな自然の中で、自然に親しんだり、友達や教師と親しんだりしながら心身共に健康な子どもに育てほしい。									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数		人		人	
地域学校協働活動の概要											
登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例		写真		写真		写真					
活動名(日付)		活動名(日付)		活動名(日付)		活動名(日付)		活動名(日付)		活動名(日付)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											

学校の概要		学校名	信州大学教育学部附属特別支援 学校		学校長	北澤 嘉孝		児童生徒数	57 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
			市町村教委		自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表	ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	学校評議員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月27日(2月27日)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	自らの力をじゅうぶん発揮し、主体的に取り組む生活を今と将来にわたって実現する児童生徒の育成										
地域と共有された育てたい子どもの姿	同上										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			
2	学校運営への必要な支援について										
3	地域の実情や課題について					2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	人
								参加者延べ人数			人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間					
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習				
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○			
	人権教育	国際理解	託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
ミュージックフェスを開こう(10月2日)		朝陽野通信を届けよう(11月2日)			製品販売会を開こう(6月15日)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)											
○朝陽野通信を作成し、地域に届け活動を広げる コロナ禍の中、感染対策に留意しつつ徐々に活動に取り組むことができ始めた。コロナ禍以来、交流の代わりに学校での学びの様子について、写真入りの「朝陽野通信」にまとめ、これまで地域で交流している方のお宅に届ける活動を行った。こうした取組みの継続により、3年ぶりに開催された地域の球技大会に是非来てほしいと招待を受け、ミュージックフェスの活動をともに楽しんだ。久しぶりに地域の皆様と共に活動に取り組む楽しさを味わうことができた。											

学校の概要	学校名	須坂市	立須坂支援	学校	校長	竹村 信之	児童生徒数	小21 中11	名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
	市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
	地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の 学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	くぬぎの森学園運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 児童センター長、市立図書館長、民生児童委員、育成会代表、地域づくり推進委員長、景観づくりの会理事長、地区青年会議所長、地域総合支援センター長、県立特別支援学校長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1	人		
	会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月6日(金)、11月16日(水)、3月3日(金)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	公民館長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	自分の力を精一杯発揮しながら、仲間とともに地域で心豊かに生きる子どもの育成(めざす子どもの姿)「自分から、自分で、せいいっぱい」自分らしく輝く子ども											
地域と共有された育てたい子どもの姿	「自分から、自分で、せいいっぱい」自分らしく輝く子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○		
2	学校運営への必要な支援について				○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○		
3	地域の実情や課題について				○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	4			協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 20 人 参加者延べ人数 80 人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	5			協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 20 人 参加者延べ人数 80 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動		給食		休み時間	○
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	○	国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	須坂支援の御柱を建てよう(5月20日)			公民館や教育会館でお店を開こう(7~9月)			地域の陶芸の先生と一緒に粘土で作ろう(9月)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>【須坂支援の御柱を建てよう】</p> <p>○ 中学部の5月生活単元学習「みんなのひろばだよ！ 全員集合!! ～みすず柱を立てよう みんなで集えるひろばを作ろう～」では、みんなの願い(みすず柱[御柱]を立てたい、中庭にみんなが集える広場を作りたい)の実現に向けて、山から切り出してきたみすず柱の木の枝を切る、皮をむく、みがく、装飾の木片作り(木片に切る、ドリルで穴を開ける、色塗り)や、ひろばに敷く「ブロック」づくりなどに取り組んだ。単元の終盤、建御柱の場面では、近くにある公民館の職員の方や、地域住民の方にも子どもたちと一緒に参加していただき、無事、御柱を建立することができた。</p> <p>○ 地域の大人の力を借りることで、安全に建御柱ができた。また、子どもたちは、地域の方と一緒に一つのことをやり遂げた喜びを味わったり、自分たちの取組を学校外の方に認めていただいて満足感がさらに大きいものとなった。地域の方にとっては、子どもたちの活動の様子を参観した上で、御柱建立という願い実現の活動を共に行ったことで、本校の子どもたちや、特別支援学校の学習について、理解を深める機会となった。</p> <p>○ 御柱を建てた「みんなのひろば」で、多くの人とさらに楽しい活動をしたいと願うようになった子どもたちは、二学期、「みすず祭り」を計画、準備し、お客さんを招待して楽しむことができた。</p>												

学校の概要		学校名	長野県飯山養護 学校		学校長	青木 昭		児童生徒数	70 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
			市町村教委	自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表	PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	学校評議員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター	人
				飯山市手をつなぐ育成会会長 木島平村教育委員会教育相談員 木島地区活性化センター所長 高水福祉会常務理事 北信圏域障がい者総合相談支援センター所長 長雷バス飯山営業所 所長			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月27日(金) 10月7日(金) 2月22日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		夢や希望に向かって、自分のよさを発揮し心豊かに生きる人を育てる									
地域と共有された育てたい子どもの姿		1 自分らしく輝く子 2 みんなと共に育つ子 3 心と体をみがく子 4 自分の思いを発信する子									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2	学校運営への必要な支援について					2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
3	地域の実情や課題について					3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					4			協働活動に参加したボランティアの人数		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4			ボランティア登録者人数	人	
									参加者延べ人数	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○		クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃	ICT	学習ボランティア			総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携			防災学習(避難訓練)	○ 遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○		
	人権教育	国際理解	託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
			中学生交流会(6/16)			野坂田地区との合同避難訓練(6/27)			下高井農林高校との交流(7/8)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
【野坂田地区との合同避難訓練】 養護学校の寄宿舎は、夜間の緊急時に学校職員の数が限られてしまうため、地域の方々にご協力いただいて実施をしている。新型コロナ対策のため人数を絞って実施しているが、地区役員や組長など主要な方が協力してくれており、とても心強く感じている。避難訓練の様子は、地区の集会で共有されており、地域に支えられていることを寄宿舎職員、舎生、学校職員が実感できた。 また、非常ベルの音で泣いてしまう生徒や動きが止まってしまう生徒など具体的な姿を見ていただくことで、実際の緊急時において想定しておく関りについて知っていただくことができた。											

学校の概要		学校名	長野県	稲荷山養護	学校	学校長	池内敬志	児童生徒数	318 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の学校職員			ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	学校評議員会	[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		人
		市総合教育センター所長 自立支援協議会会長 社会福祉法人施設長 町づくり推進委員 医療福祉センター事務長 PTA会長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	1回目 5月17日(火) 2回目 1月25日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		明るく たくましく より豊かに							
地域と共有された育てたい子どもの姿		自分の思いや願いを素直に表現し、その実現に向けて周囲と適切にかかわりながら、自ら精一杯取り組む子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○
2	学校運営への必要な支援について								
3	地域の実情や課題について				2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	人
								参加者延べ人数	人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)			
	人権教育	国際理解	託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例					写真			
		防災学習(7月13日)		福祉で学ぶ訪問講座(7月19日)		活動名(日付)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
【高等部 総合コース1年の取組み】 ・防災学習として地域の消防署の方を招いて、地震体験をした。教室から避難の仕方を教えていただき、地震体験車に乗り、震度を変えながらの体験は「怖い」という思いとともに、命を守るという意識につながった。 ・「福祉で学ぶ訪問講座」ではバラスポーツの体験をした。ボッチャの選手に来校していただき、ボッチャの選手になるまでのお話と実際にゲームをして、バラスポーツの楽しさを実感することができた。									